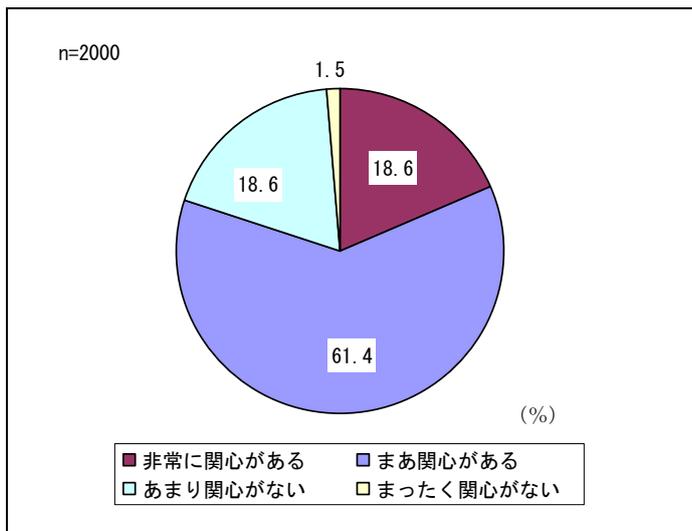


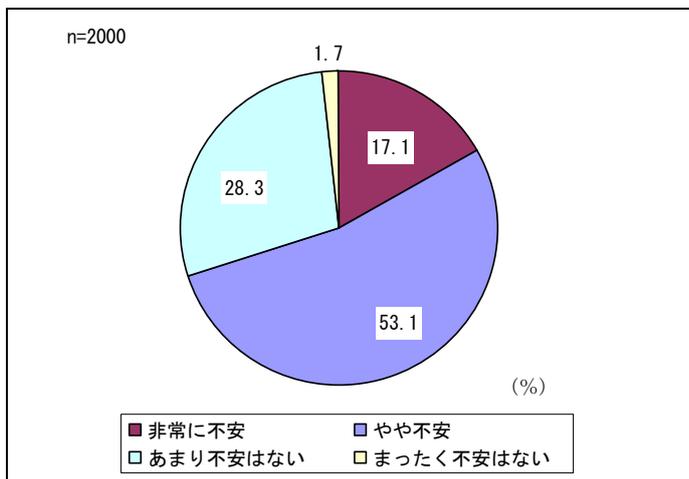
地震に関するアンケート調査結果（速報）

1) 地震や地震防災対策への関心度・大地震発生への不安度

- ・地震や地震防災対策に対し、「非常に関心がある」18.6%、「まあ関心がある」61.4%で、8割の人は関心がある。
- ・住んでいる地域で大地震が発生するかもしれないという不安については、「非常に不安」17.1%、「やや不安」53.1%で、約7割の人は不安を持っている。



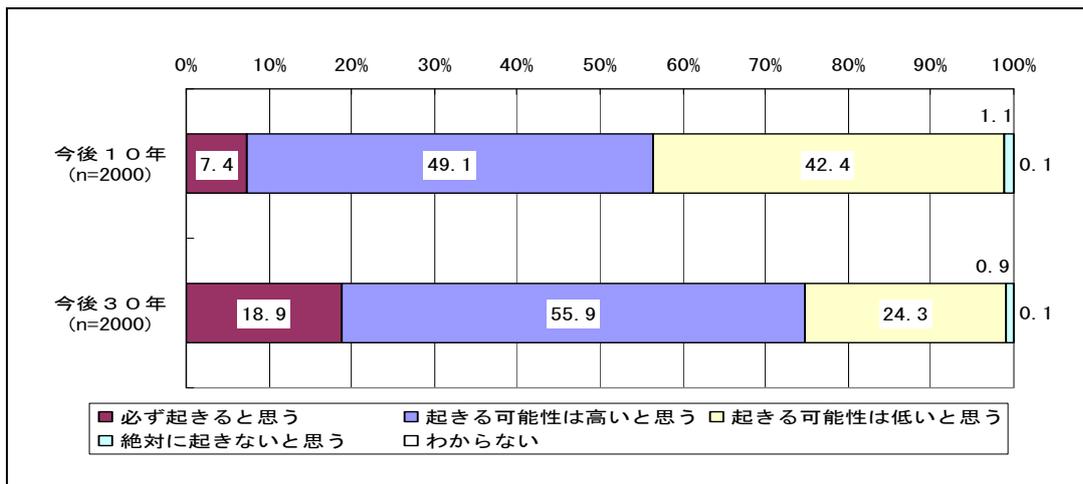
問1 地震や地震防災対策への関心度



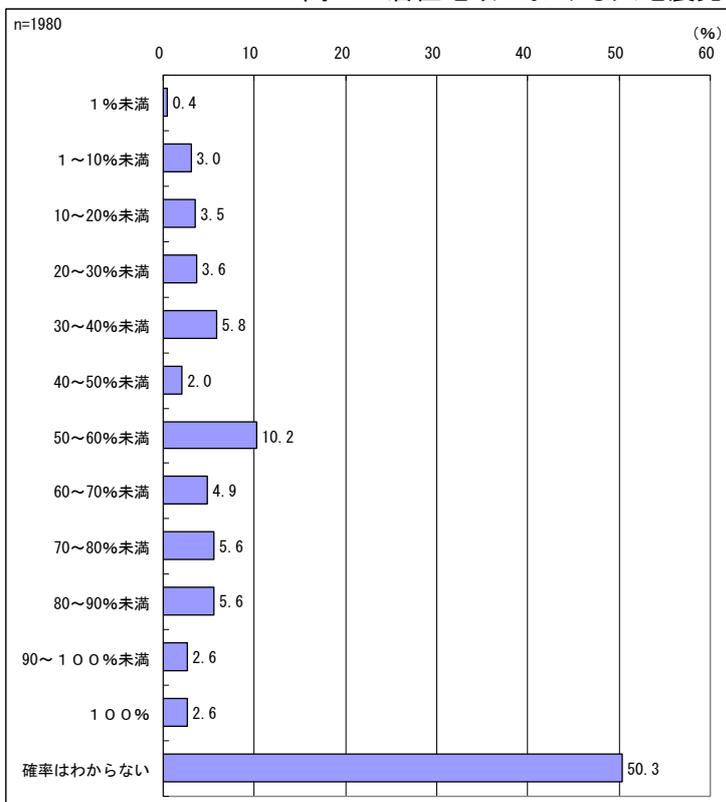
問2 居住地域における大地震発生への不安

2) 居住地域での大地震発生の可能性

- ・今後約10年間では、「必ず起きる」7.4%、「起きる可能性が高い」49.1%を合わせ、56.5%の人は大地震が起きる可能性があると思っている。
- ・今後約30年間では、「必ず起きる」18.9%、「起きる可能性が高い」55.9%の合計74.8%は、今後約10年間に比べ、大地震が起きる可能性があると思う人が多くなっている。
- ・また、「起きる可能性は低い」と回答した人も含めて今後30年間における地震の発生確率を聞いたところ、約半数の人は具体的な数値を回答しており、50~60%未満の10.2%をピークに、31.5%の人が地震の発生確率を50%以上と回答していた。



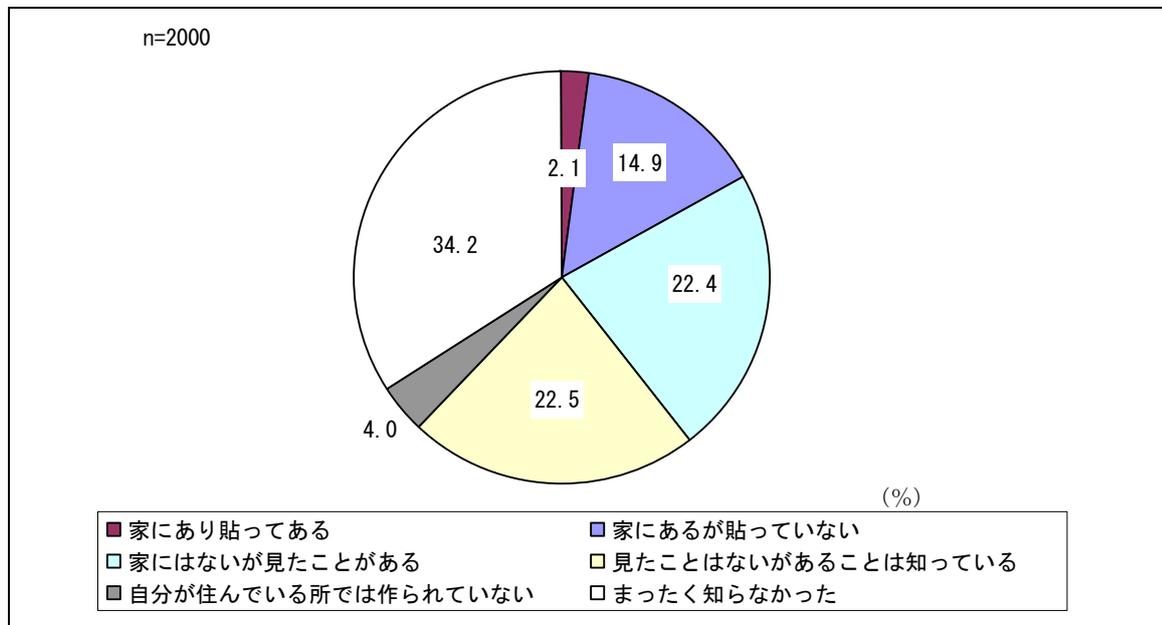
問3 居住地域における大地震発生の可能性



付問3-2-1 今後30年間に地震が発生する確率 (自由回答)

3) 居住地域での地震防災マップ（地震ハザードマップ）の認知

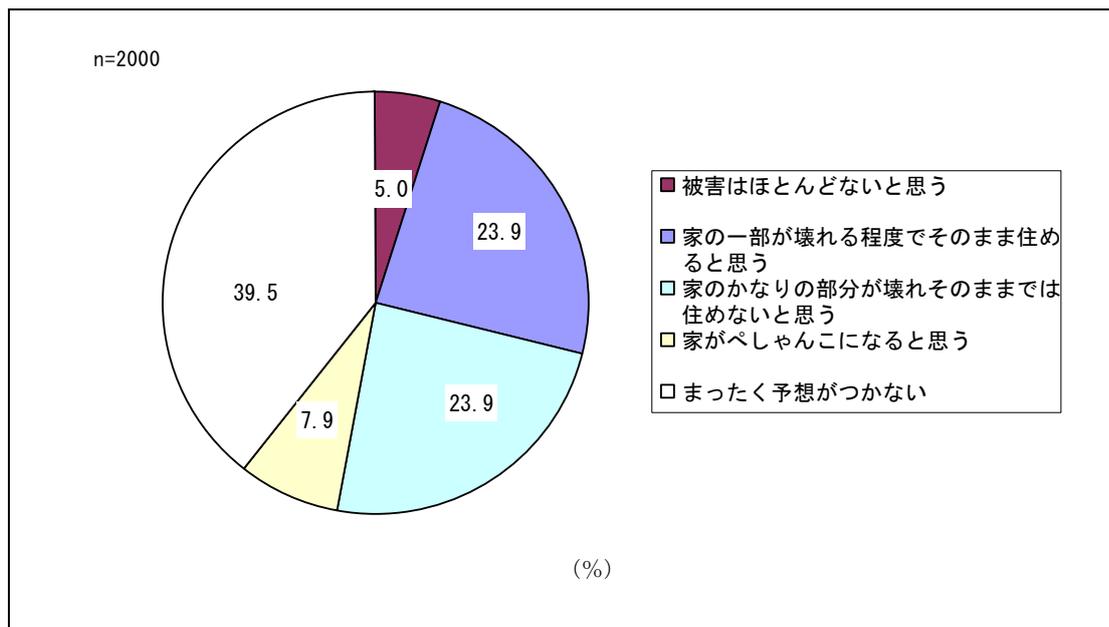
- ・居住地域の地震防災マップがあることを、約6割の人が知っていた。地震防災マップが作られていないと回答した人が4.0%、「まったく知らなかった」人が34.2%いた。
- ・地震防災マップを「家に貼ってある」人は2.1%とわずかで、「家にあるが貼っていない」が14.9%であった。



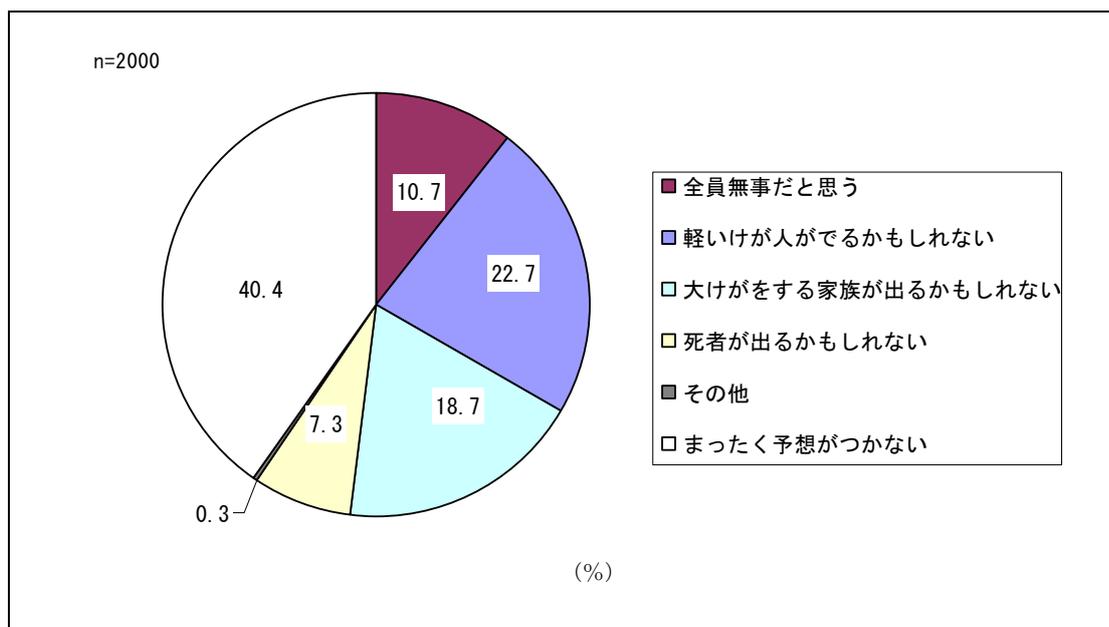
問8 地震防災マップの認知

4) 大地震が起きた時の被害発生の可能性

- ・大地震が起きた時、自宅の被害については、約4割の人は「まったく予想がつかない」としている。「被害なし」5.0%、「一部損壊」23.9%と軽い被害を想定する人と、「倒壊」7.9%や「大規模半壊・半壊」23.9%を想定した人に二分された。
- ・家族の人的被害については、約4割の人は「まったく予想がつかない」としており、「全員無事」10.7%、「軽傷者発生」22.7%と合計33.4%の人が軽い被害を想定している一方で、「重傷者発生」18.7%や「死者発生」7.3%と厳しい人的被害を想定した人が26.0%いた。



問9-1 大地震発生時の家屋被害の程度



問9-2 大地震発生時の人的被害の程度

5) 確率論的地震動予測地図、特定震源断層地図、地震の発生確率の長期評価の認知度

- ・ 確率論的地震動予測地図 (44.2%)、特定震源断層地図 (37.6%) の認知度は低かった。
- ・ 地震の発生確率の長期評価を「知っていた」人は36.6%であり、知らない人の方が多い。
- ・ 3つの成果の中では、確率論的地震動予測地図が若干ではあるが、多く知られていた。

* 調査対象者居住地の直近における活断層等により、特定震源断層 (地図) を変えており、調査票は 89種類となった。

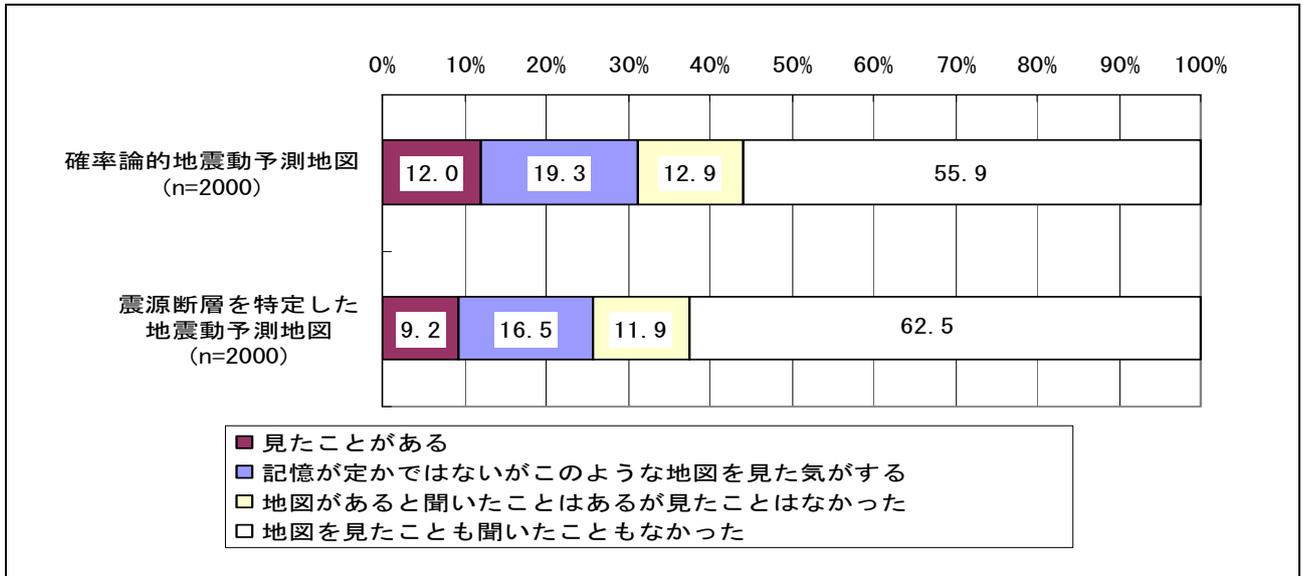


図 確率論的地震動予測地図 (問10) ・ 震源断層を特定した地震動予測地図 (問12) の認知度

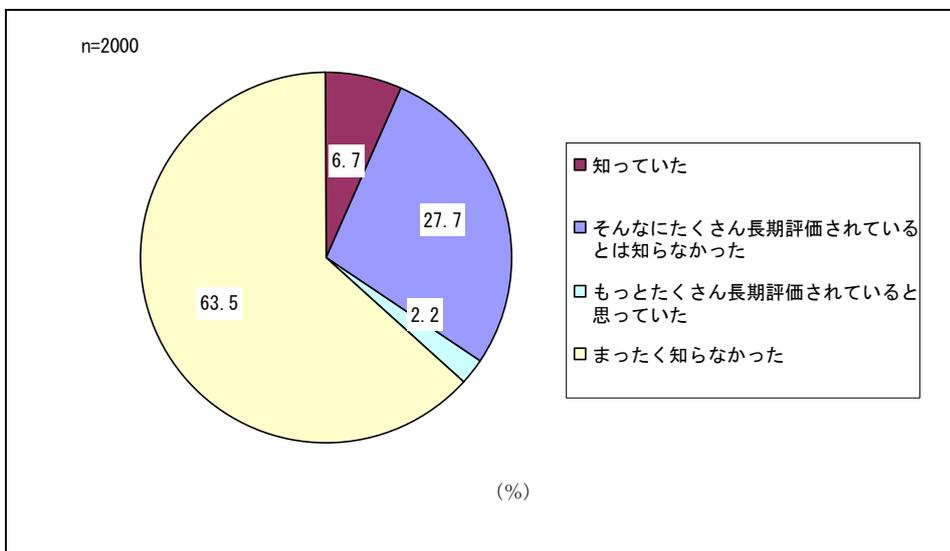


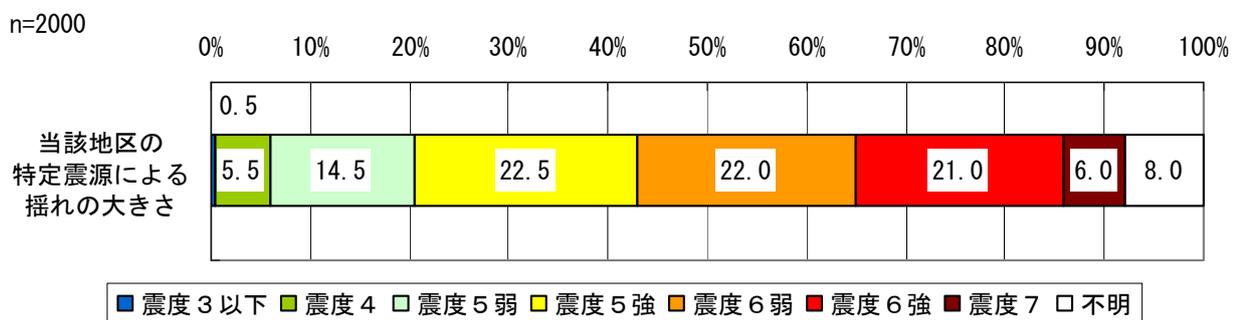
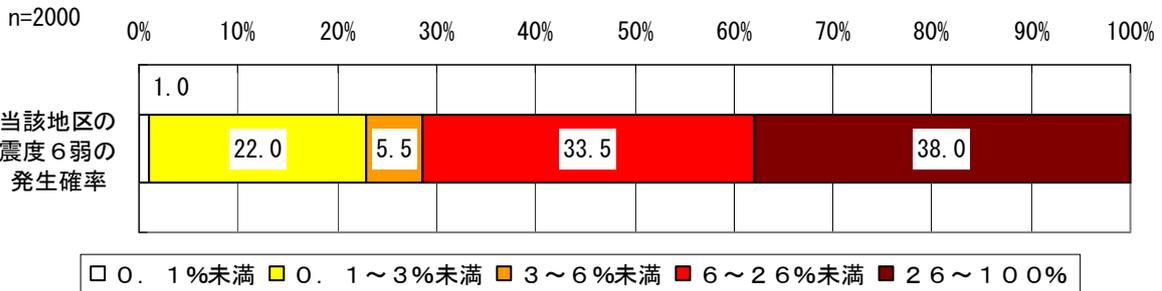
図 問 1 5 地震発生可能性の長期評価の認知度

* 当該地区の震度 6 弱以上の揺れの発生確率の大きさと、確率論的地震動予測地図の認知度との関係は見られなかった。

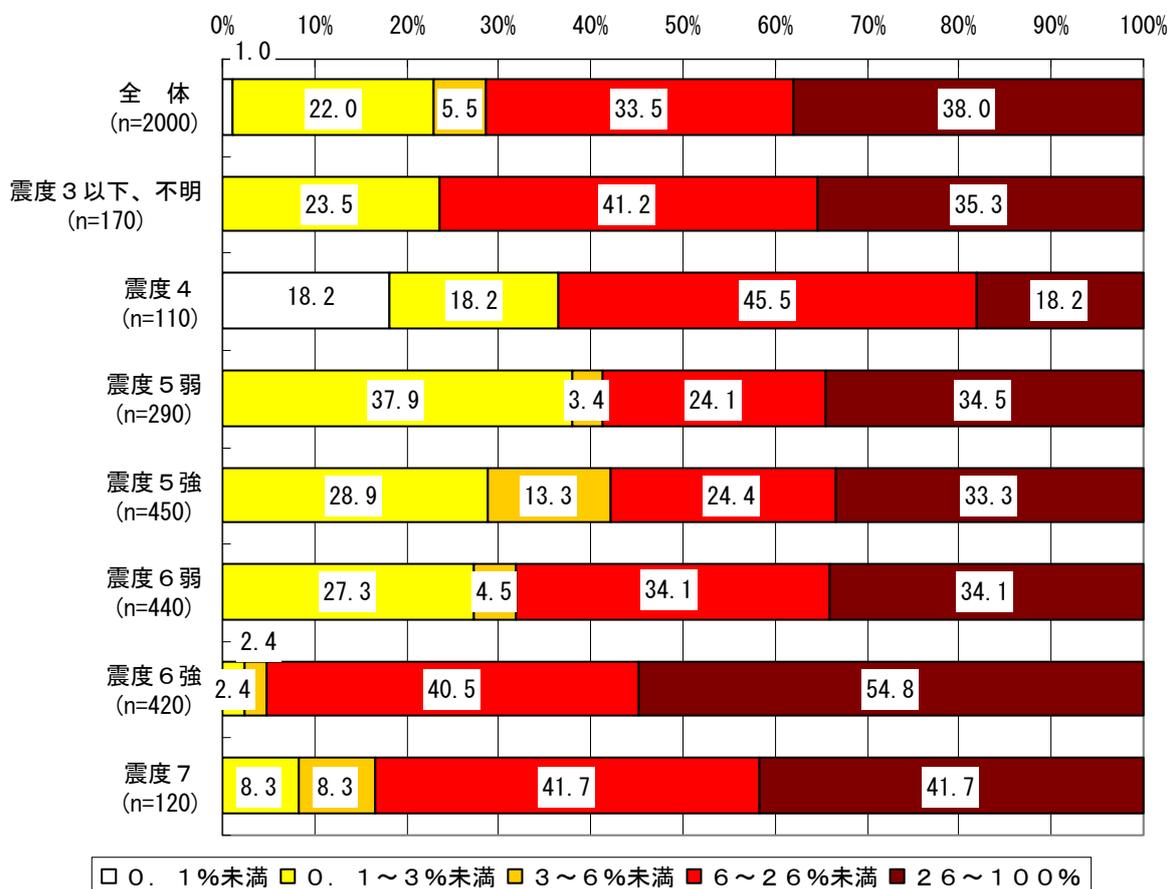
<補足> アンケート調査回答者の居住地区の震度6弱の発生確率と特定震源断層による揺れの大きさ

○当該地区の震度6弱の発生確率：6～26%が33.5%、26～100%が38%で、72%を占める。

○特定震源断層による揺れの大きさ：震度6弱以上が49%と約半数を占める。

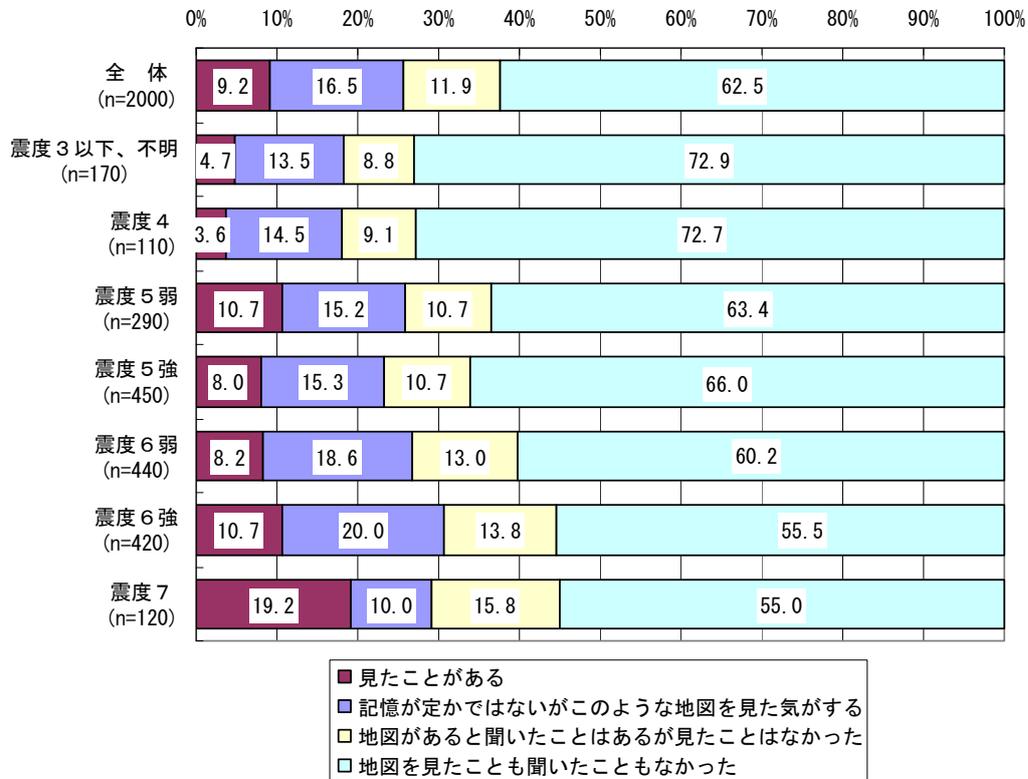


<地区の震度6弱の発生確率と特定震源断層による揺れの大きさとの関連>



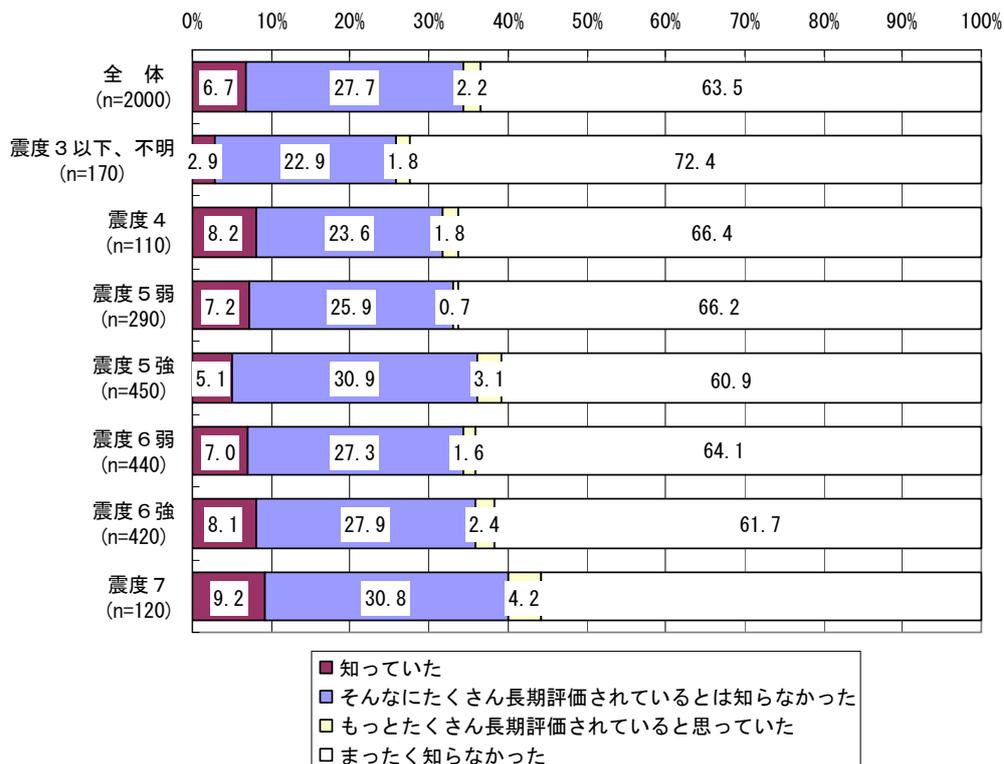
* 当該地区で予想される揺れが大きい地区の方が、震源断層を特定した地震動予測地図を、若干多く認知していた。

<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問12震源断層を特定した地震動予測地図の認知度>



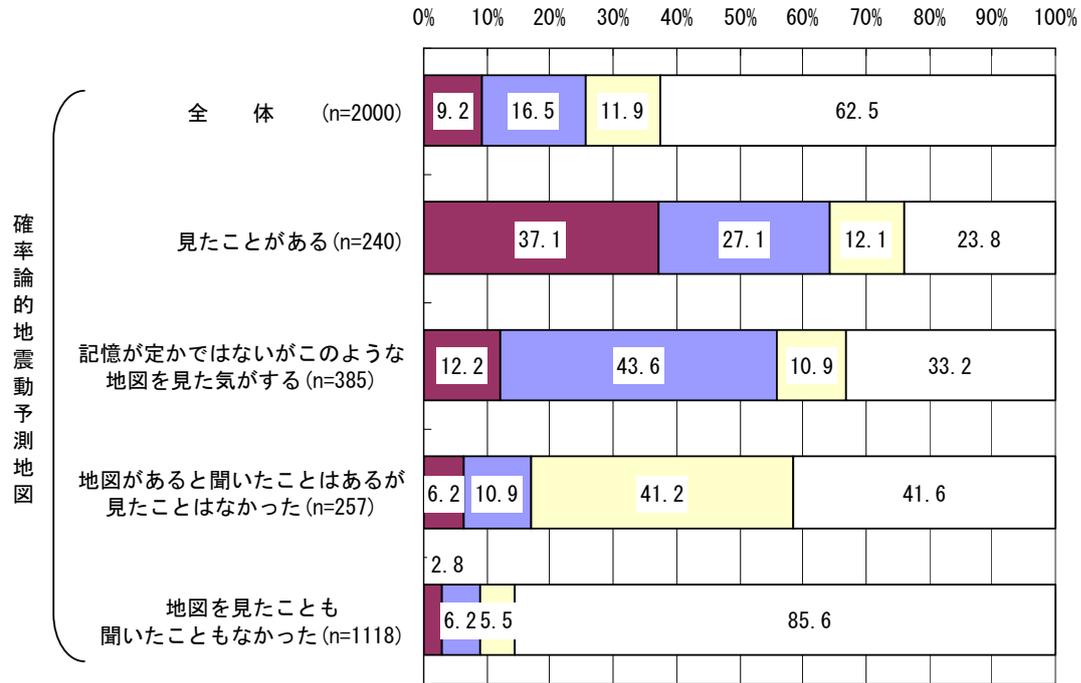
* 地震発生可能性の長期評価発表の認知度は、当該地区の特定震源による揺れの大きさとさほど関連は見られなかった。多少ではあるが、震度3以下、不明の地区の人の認知度が低かった。

<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問15地震発生可能性の長期評価の認知度>



* 2つの地震動予測地図と地震発生可能性の長期評価について、いずれかを知っている人は他の成果も知っている割合が高かった。また、約4割の人（41.1%）はどれも知らなかった。

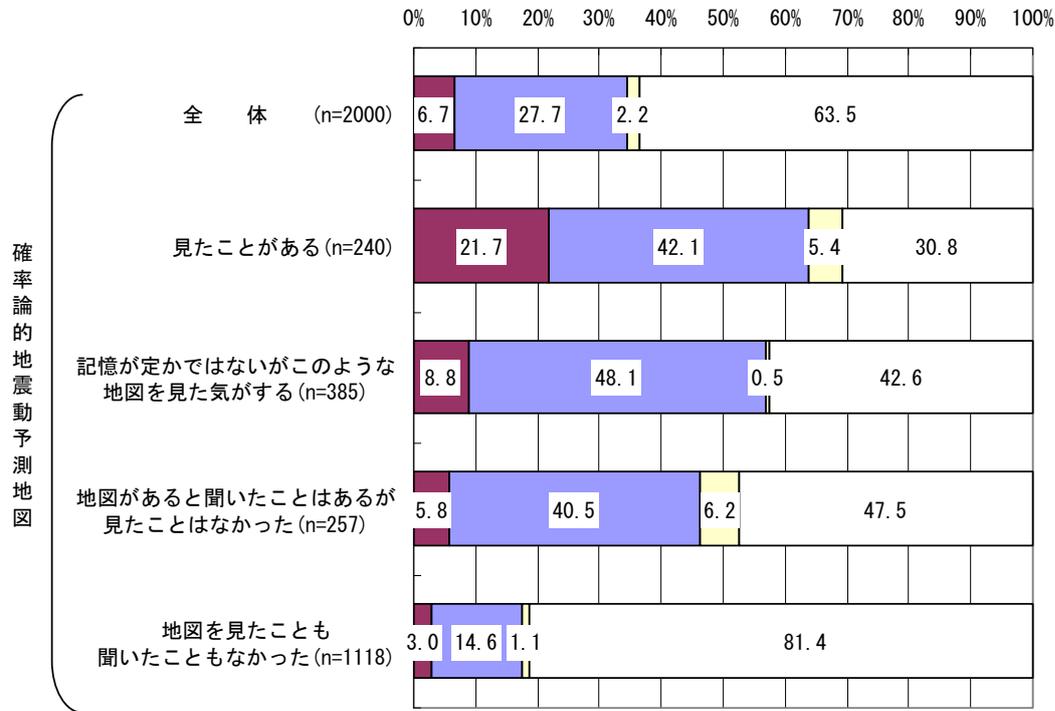
<問10確率論的地震動予測地図の認知度×問12震源断層を特定した地震動予測地図の認知度>



震源断層を特定した地震動予測地図

■ 見たことがある ■ 記憶が定かではないがこのような地図を見た気がする
 □ 地図があると聞いたことはあるが見たことはなかった □ 地図を見たことも聞いたこともなかった

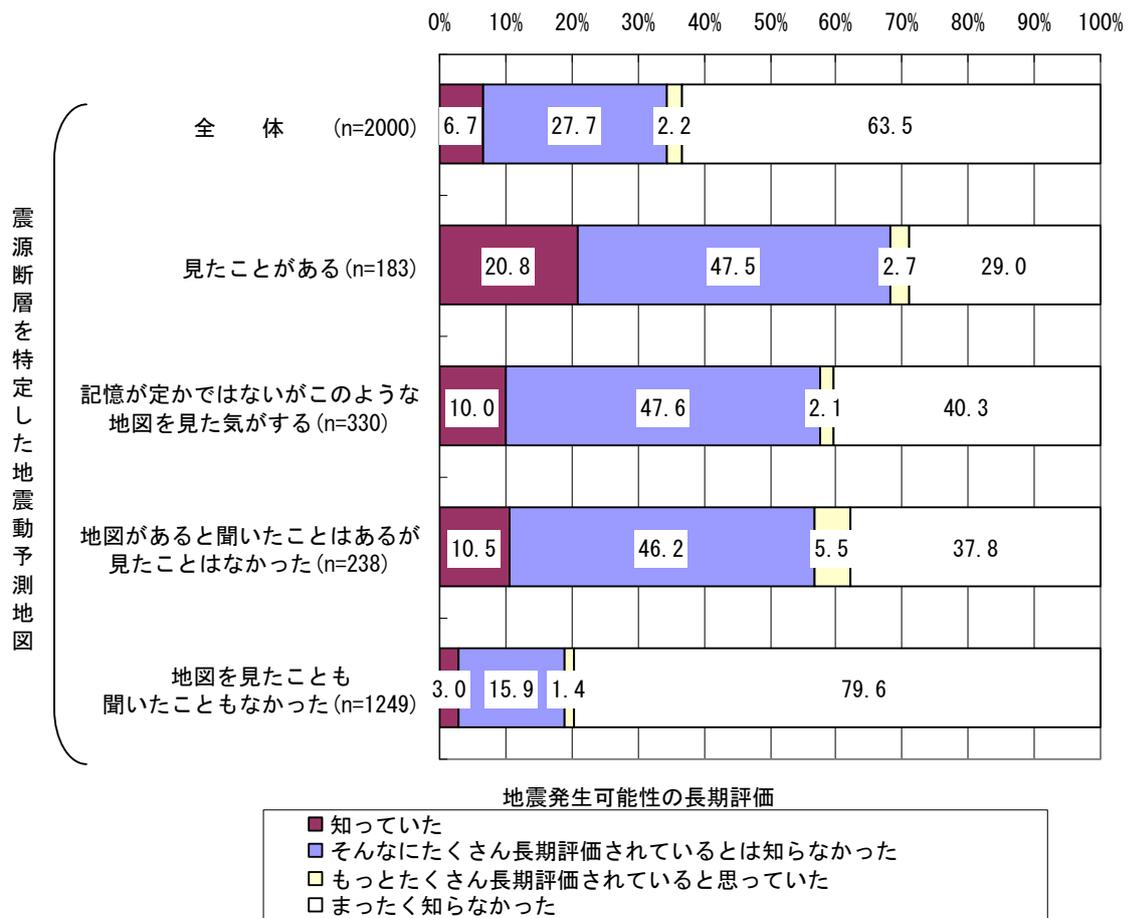
<問10確率論的地震動予測地図の認知度×問15地震発生可能性の長期評価>



地震発生可能性の長期評価

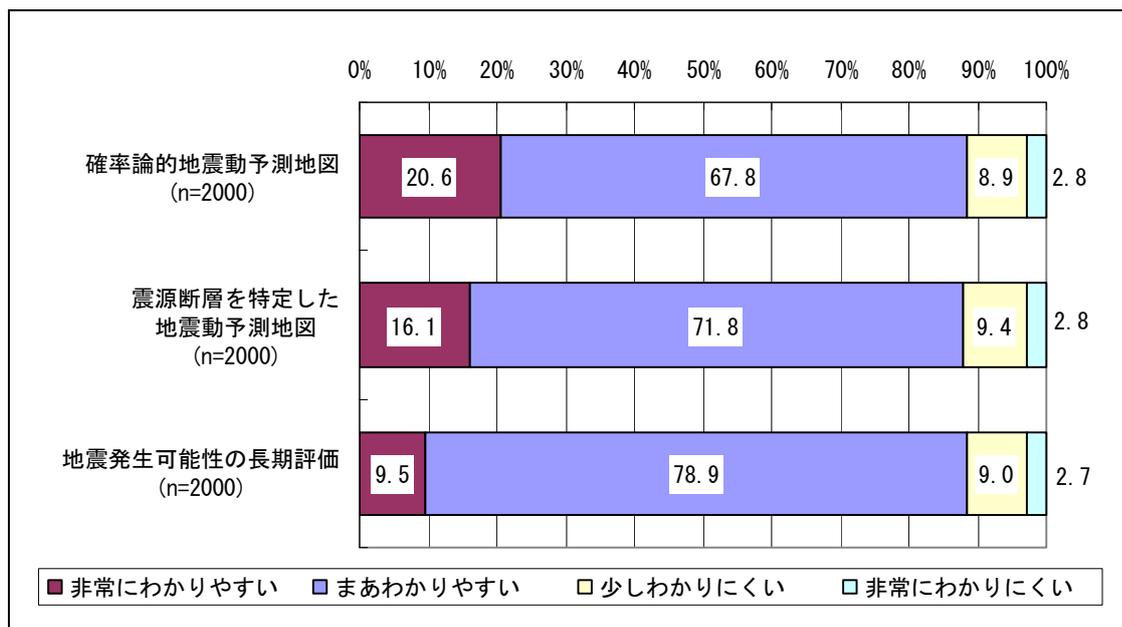
■ 知っていた
 ■ そんなにたくさん長期評価されているとは知らなかった
 □ もっとたくさん長期評価されていると思っていた
 □ まったく知らなかった

<問12震源断層を特定した地震動予測地図×問15地震発生可能性の長期評価>



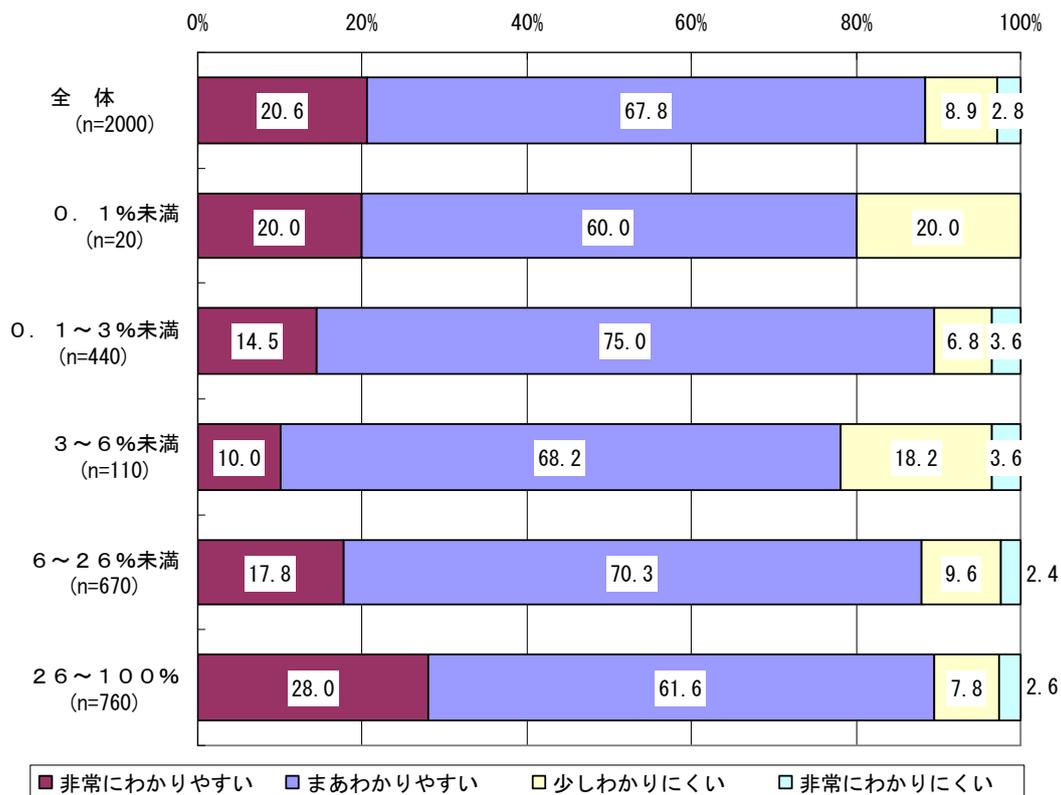
6) 2つの地震動予測地図と地震発生可能性の長期評価のわかりやすさ

- ・ 2つの地震動予測地図と地震発生可能性の長期評価については、「(非常に・まあ)わかりやすい」と受け止める人が約9割と多く、合計ではほとんど差は見られない。
- ・ しかし、「非常にわかりやすい」と受け止める人の割合は、確率論的地震動予測地図(20.6%)、震源断層を特定した地震動予測地図(16.1%)、地震発生可能性の長期評価(9.5%)の順に少なくなっている。
- ・ 地震の発生確率が高い地区で、「非常にわかりやすい」の割合が多くなっている。
- ・ 震度の大きさと地図のわかりやすさとの関連はさほど見られなかった。

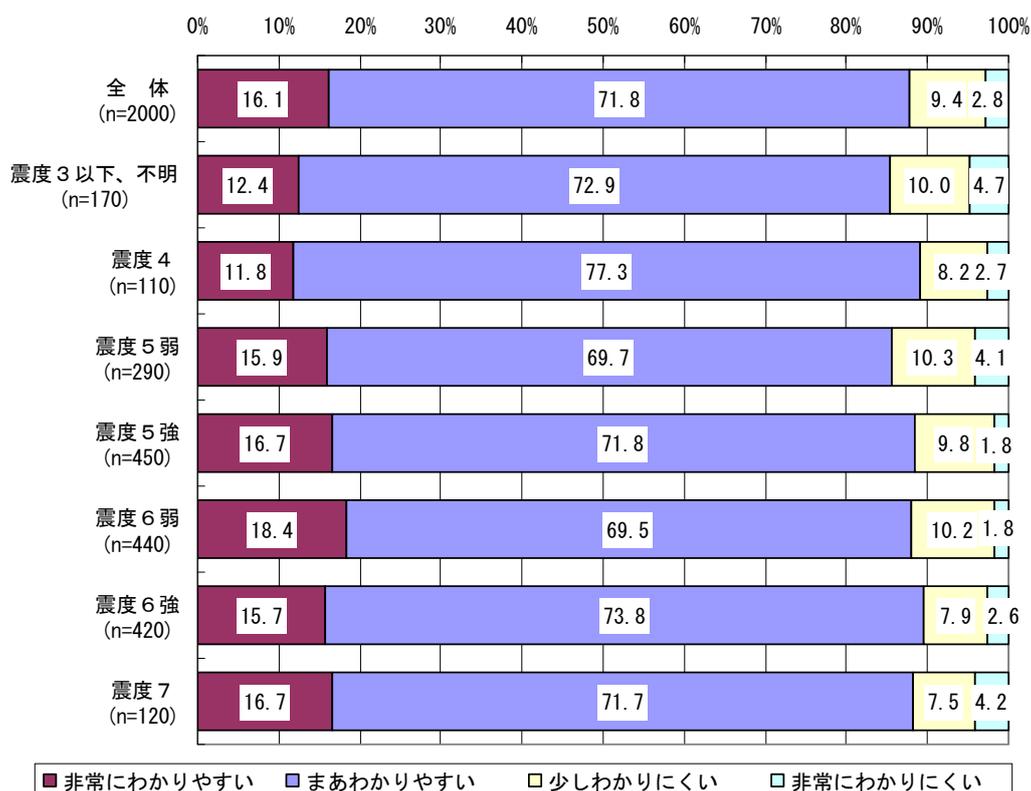


問11-3・問13-2地図、問17-3長期確率評価のわかりやすさ

<当該地区の震度6弱以上の発生確率×問11-3 確率論的地震動予測地図のわかりやすさ>

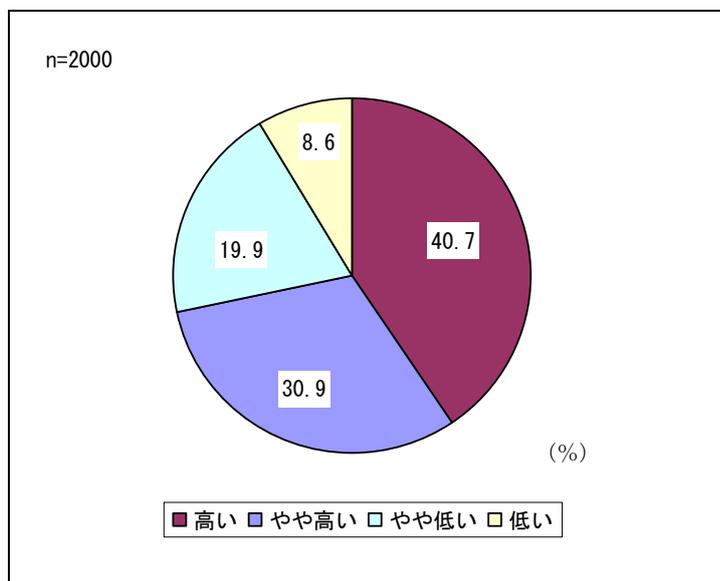


<当該地区の特定震源断層による揺れの大きさ×問13-2震源断層を特定した地震動予測地図のわかりやすさ>

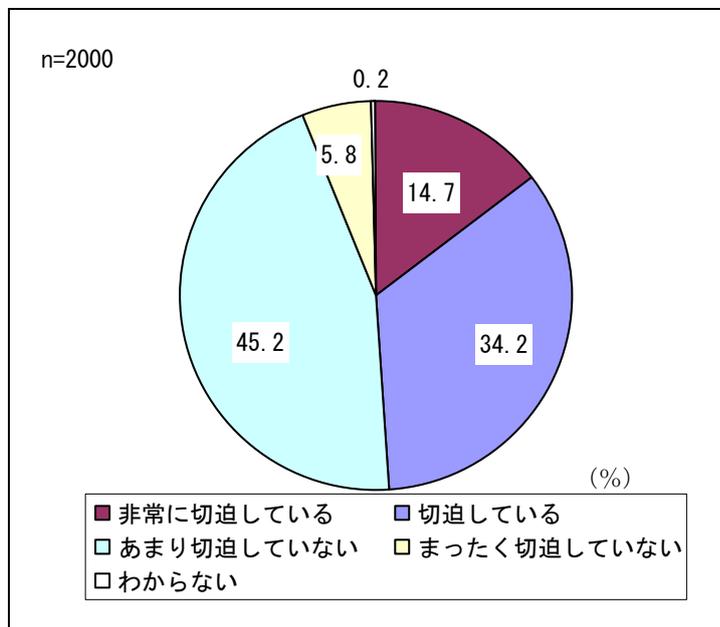


7) 確率論的地震動予測地図を見た時の受け止め方

- ・確率論的地震動予測地図を見て、居住地域が強い揺れに見舞われる確率が、「高い」(40.7%)と「やや高い」(30.9%)を合わせ、71.6%の人は確率が高いと受け止めている。
- ・居住地域における地震の切迫性としては、「非常に切迫している」(14.7%)と「やや切迫している」(34.2%)を合わせ、半数近くの方は切迫していると受け止めている。



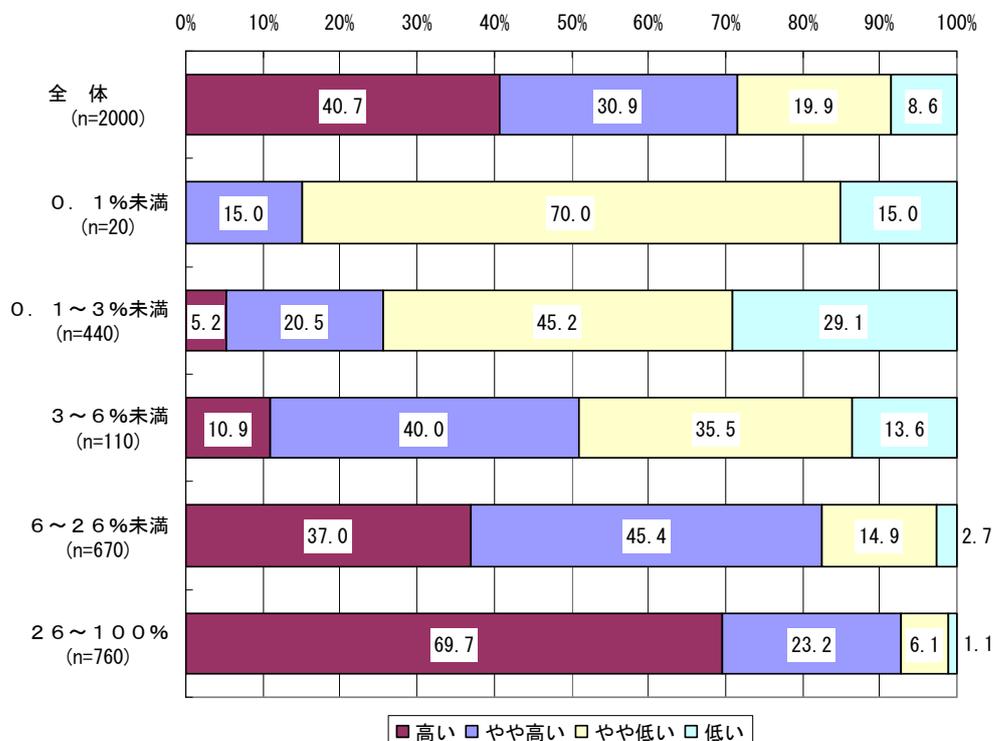
問 1 1 - 1 居住地域が強い揺れに見舞われる確率



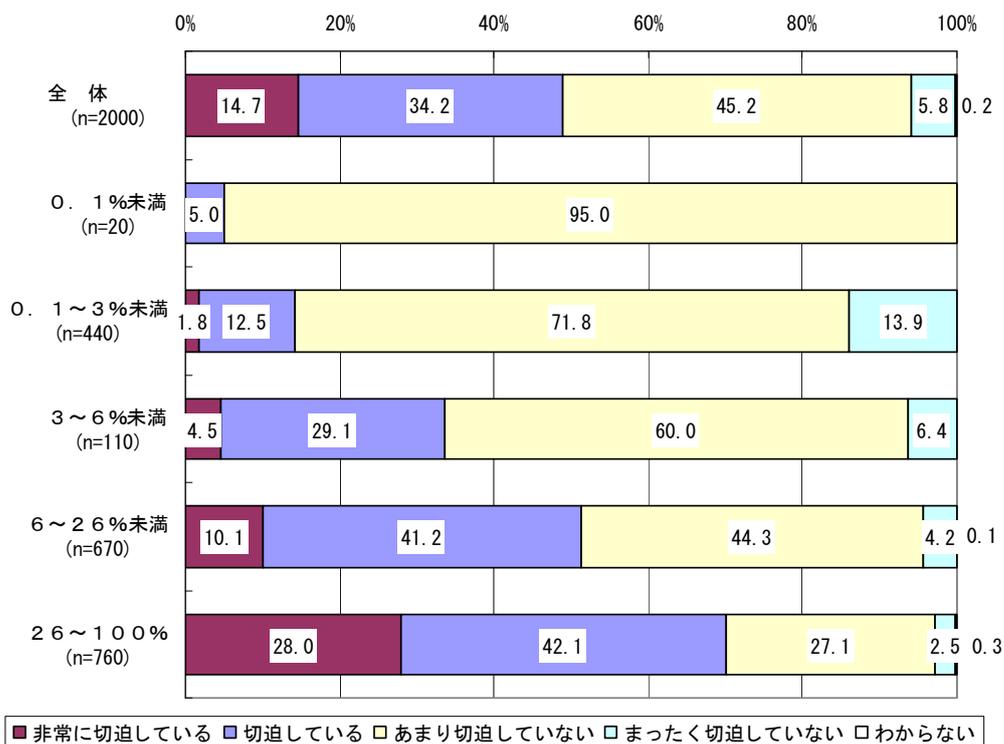
問 1 1 - 2 居住地域における地震の切迫性

* 当該地区の震度6弱の発生確率の大きさと、居住地域が強い揺れに見舞われる可能性及び居住地域における地震の切迫性は比例しており、当該地区の地震発生の危険性をほぼ適切に評価していると言えよう。ただし、震度6弱の発生確率26～100%の地区の人のうち、「やや低い・低い」7.2%、「切迫していない」29.6%と評価している点は問題として残ると言えよう。

<当該地区の震度6弱の発生確率×問11-1居住地域が強い揺れに見舞われる可能性>

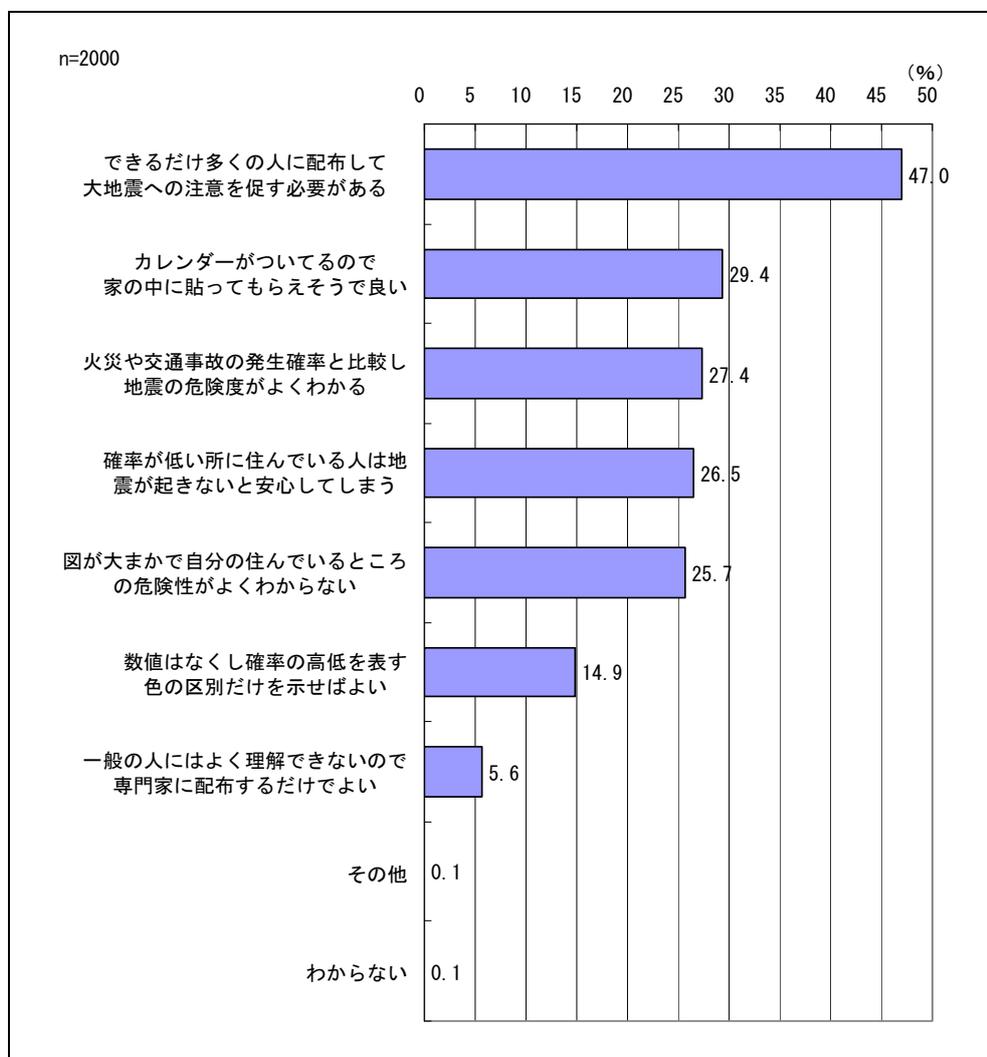


<当該地区の震度6弱の発生確率×問11-2地震発生の切迫度>



8) 確率論的地震動予測地図ポスターについての意見

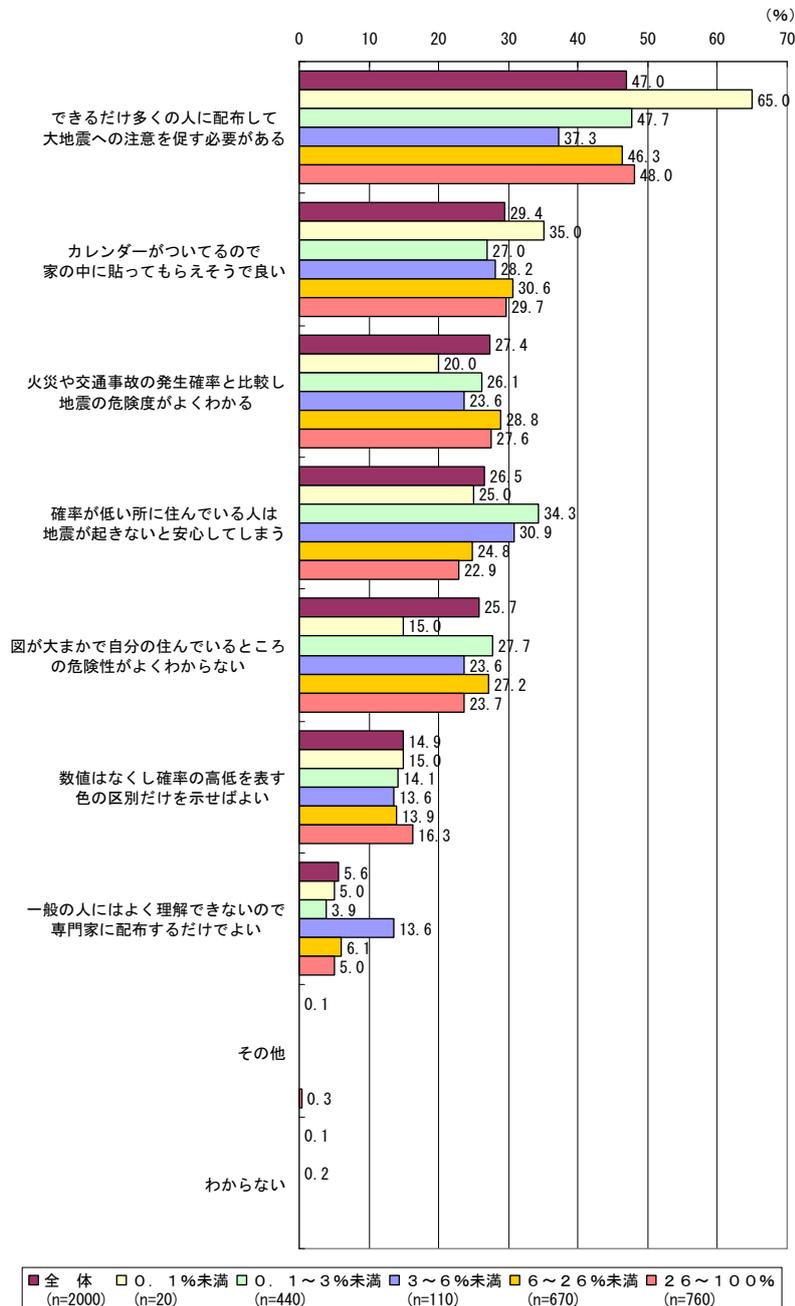
- ・「できるだけ多くの人に配布して大地震への注意を促す必要がある」が最も多く、半数近く見られた一方で、「専門家に配布するだけでよい」は5.6%と少数意見である。
- ・「カレンダーがついていると家の中に貼ってもらえそう」が29.4%、「火災や交通事故の発生確率と地震の危険度の比較」がよいという人が27.4%いた。
* カレンダーについては、配付時期によっては「すぐ使えなくなる」という自由回答が見られた。
- ・否定的な評価である「確率が低い所に住んでいる人が地震が起きないと安心してしまう」(26.5%)や、「図が大まかで自分の住んでいるところの危険がよくわからない」(25.7%)は、約4人に1人が挙げていた。
- ・回答者の当該地区の震度6以上の揺れの発生確率との関連は、ほとんどの項目において差は見られないが、確率が低い地区居住者の方が「確率が低い所に住んでいる人が地震が起きないと安心してしまう」と回答する割合がやや多かった。



問 11-4 確率論的地震動予測地図についての意見 (M. A.)

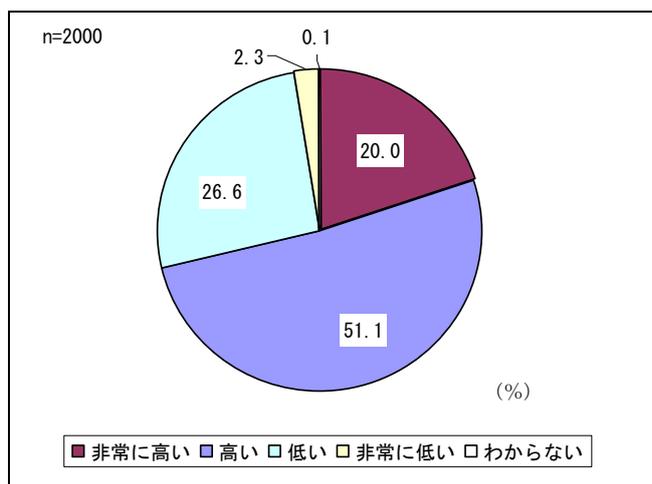
<当該地区の震度6弱の発生確率×問11-4 確率論的地震動予測地図についての意見>

当該地区の震度6弱の発生確率	調査数	火災や交通事故の発生確率と比較し地震の危険度がよくわかる	カレンダーがついてるので家中に貼ってもらえそうで良い	数値はなくし確率の高さを表す色の区別だけを示せばよい	図がだまかで自分の住んでいるところの危険性がよくわからない	確率が低い所に住んでいる人は地震が起きないと安心してしまおう	できるだけ多くの人に配布して大地震への注意を促す必要がある	一般の人にはよく理解できないので専門家に配布するだけでよい	その他	わからない
全体	2000	548	588	297	513	530	939	112	2	1
	100.0	27.4	29.4	14.9	25.7	26.5	47	5.6	0.1	0.1
0.1%未満	20	4	7	3	3	5	13	1	-	-
	100.0	20.0	35.0	15.0	15.0	25.0	65.0	5.0	-	-
0.1~3%未満	440	115	119	62	122	151	210	17	-	1
	100.0	26.1	27.0	14.1	27.7	34.3	47.7	3.9	-	0.2
3~6%未満	110	26	31	15	26	34	41	15	-	-
	100.0	23.6	28.2	13.6	23.6	30.9	37.3	13.6	-	-
6~26%未満	670	193	205	93	182	166	310	41	-	-
	100.0	28.8	30.6	13.9	27.2	24.8	46.3	6.1	-	-
26~100%	760	210	226	124	180	174	365	38	2	-
	100.0	27.6	29.7	16.3	23.7	22.9	48.0	5.0	0.3	-



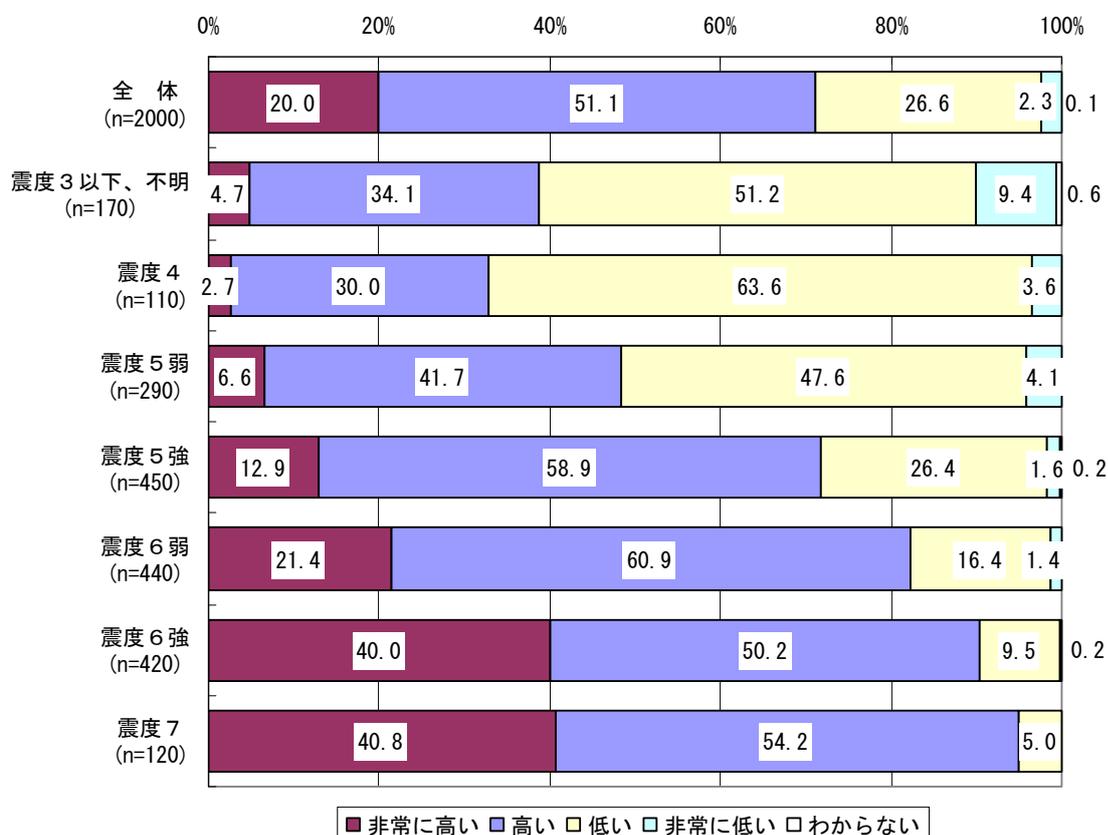
9) 震源断層を特定した地震動予測地図の受け止め方について

- ・震源断層を特定した地震動予測地図を見て、居住地域で大きな被害が出る危険性について、「非常に高い」(20.0%)と「高い」(51.1%)を合わせ、71.1%の人は地震による被害発生の危険が高いと受け止めている。
- ・当該地区の揺れの大きさとの関連を見ると、大きい揺れが予想される地区の人の方が、地震による被害発生の危険が高いと受け止めている。



問13-1 居住地域における地震被害の危険性

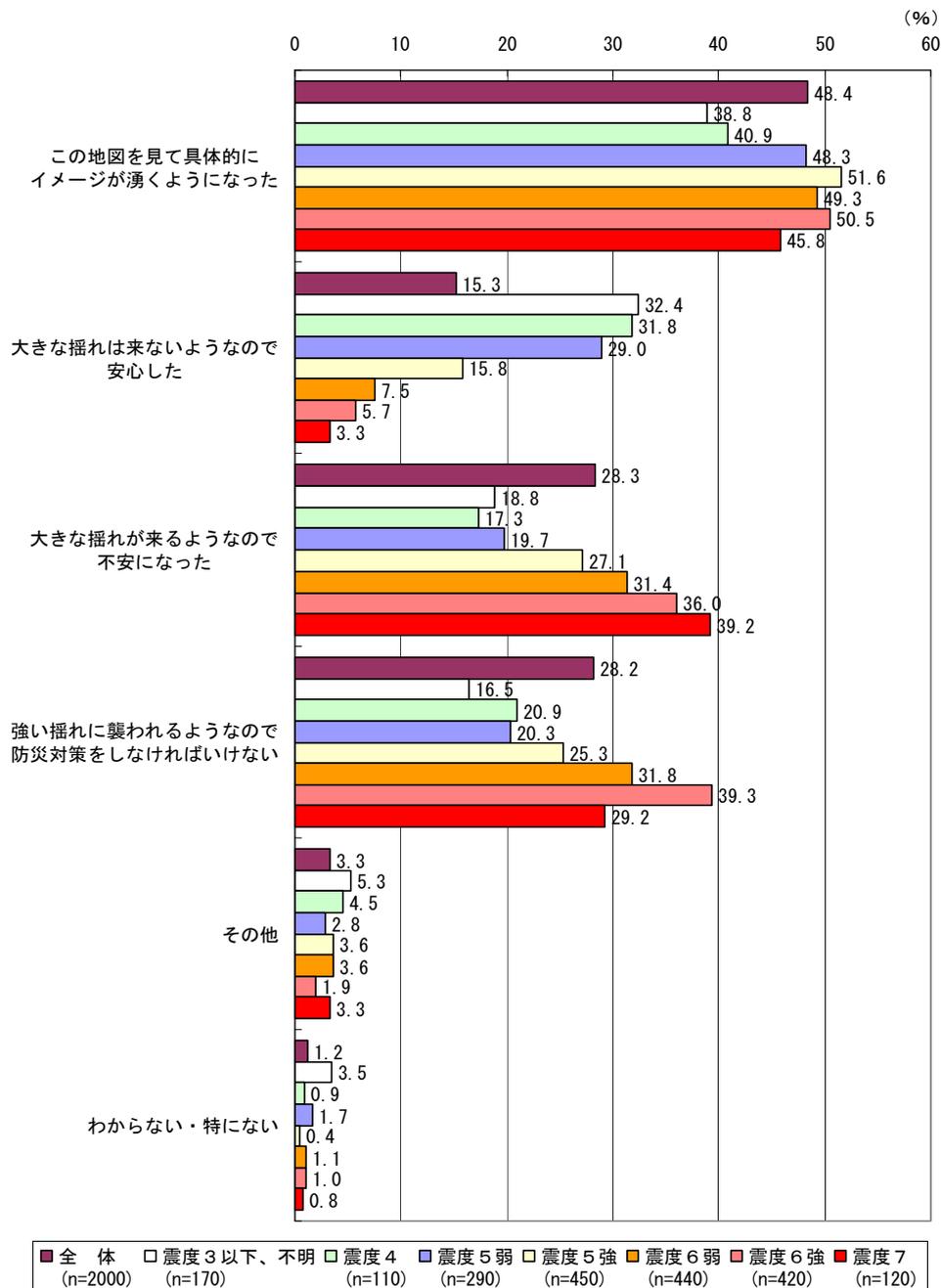
<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問13居住地域における地震被害の危険性>



10) 震源断層を特定した地震動予測地図についての意見

- ・震源断層を特定した地震動予測地図を見て、約半数の人は「具体的にイメージが湧くようになった」(48.4%)としている。また、大きな揺れは来ないと安心感を持った人(15.3%)より、不安になった人(28.3%)の方が多かった。さらに、28.2%の人は「防災対策をしなければいけない」と防災対策を実施する必要性を感じていた。
- ・震源断層を特定した地震動予測地図が自宅の地震防災対策を見直すきっかけとなるかについては、「ほとんどの人に対してきっかけになる」(19.1%)「半数くらいの人に対してきっかけになる」(50.2%)を合わせ、約7割の人はきっかけになるとしている。

<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問13-3 震源断層を特定した地震動予測地図についての意見(MA)>

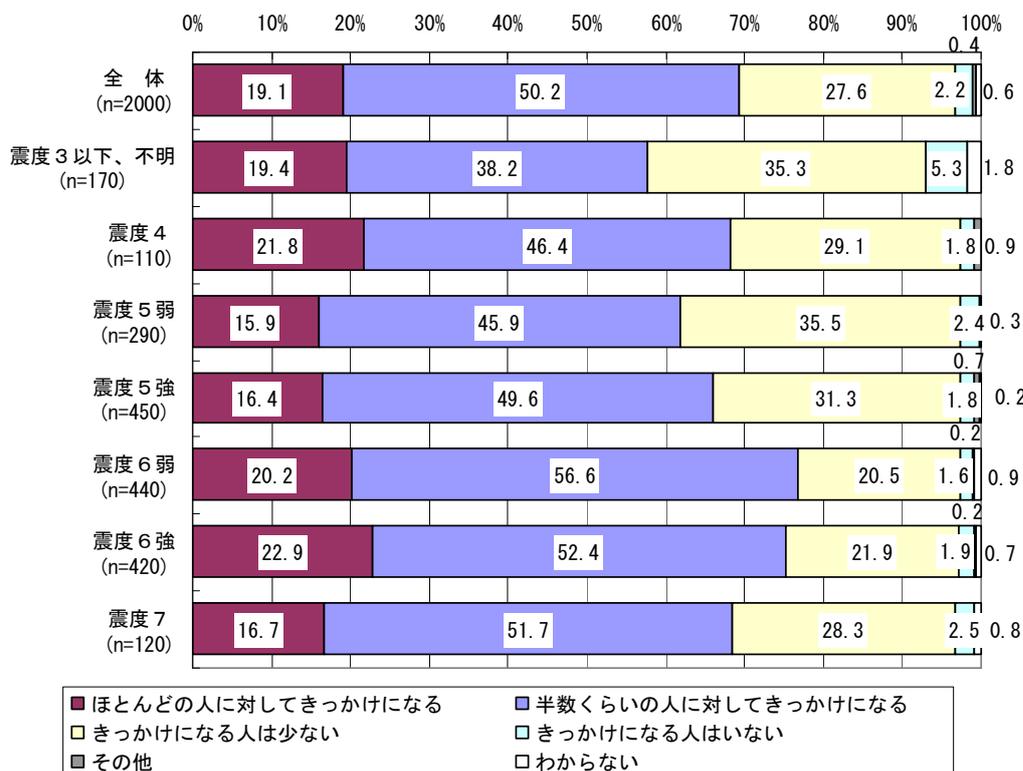


* 当該地区で大きな揺れが予想される地区（5強以上）ほど「不安になった」としており、「防災対策をしなければいけない」と思った割合が多くなっている。震度5強以上から、特に震度6弱以上に防災対策実施等への効果が見られた。

<当該地区の揺れの大きさ×問13-3 震源断層を特定した地震動予測地図についての意見(MA)>

当該地区の特定震源による揺れの大きさ	問13 震源断層を特定した地震動予測地図への意見							問13 自宅の地震防災対策を見直すきっかけとなるか						
	調査数	この地図を見て具体的にイメージが湧くようになった	大きな揺れは来ないようなので安心した	大きな揺れは来ないようなので不安になった	大きな揺れが来るようなので不安になった	強い揺れに襲われるようなので防災対策をしなければいけない	その他	わからない・特にない	調査数	ほとんどの人に対してきっかけになる	半数くらいの人に対してきっかけになる	きっかけになる人は少ない	きっかけになる人はいない	その他
全体	2000	967	306	566	564	66	24	2000	382	1003	552	44	7	12
	100.0	48.4	15.3	28.3	28.2	3.3	1.2	100.0	19.1	50.2	27.6	2.2	0.4	0.6
震度3以下	10	6	8	-	-	-	-	10	1	4	5	-	-	-
	100.0	60.0	80.0	-	-	-	-	100.0	10.0	40.0	50.0	-	-	-
震度4	110	45	35	19	23	5	1	110	24	51	32	2	1	-
	100.0	40.9	31.8	17.3	20.9	4.5	0.9	100.0	21.8	46.4	29.1	1.8	0.9	-
震度5弱	290	140	84	57	59	8	5	290	46	133	103	7	1	-
	100.0	48.3	29.0	19.7	20.3	2.8	1.7	100.0	15.9	45.9	35.5	2.4	0.3	-
震度5強	450	232	71	122	114	16	2	450	74	223	141	8	3	1
	100.0	51.6	15.8	27.1	25.3	3.6	0.4	100.0	16.4	49.6	31.3	1.8	0.7	0.2
震度6弱	440	217	33	138	140	16	5	440	89	249	90	7	1	4
	100.0	49.3	7.5	31.4	31.8	3.6	1.1	100.0	20.2	56.6	20.5	1.6	0.2	0.9
震度6強	420	212	24	151	165	8	4	420	96	220	92	8	1	3
	100.0	50.5	5.7	36.0	39.3	1.9	1	100.0	22.9	52.4	21.9	1.9	0.2	0.7
震度7	120	55	4	47	35	4	1	120	20	62	34	3	-	1
	100.0	45.8	3.3	39.2	29.2	3.3	0.8	100.0	16.7	51.7	28.3	2.5	-	0.8
不明	160	60	47	32	28	9	6	160	32	61	55	9	-	3
	100.0	37.5	29.4	20.0	17.5	5.6	3.8	100.0	20.0	38.1	34.4	5.6	-	1.9

<当該地区の揺れの大きさ×問13 自宅の地震防災対策を見直すきっかけとなるか>



11) 地震の発生確率の長期評価：地震の名称（規模）及び発生確率の認知

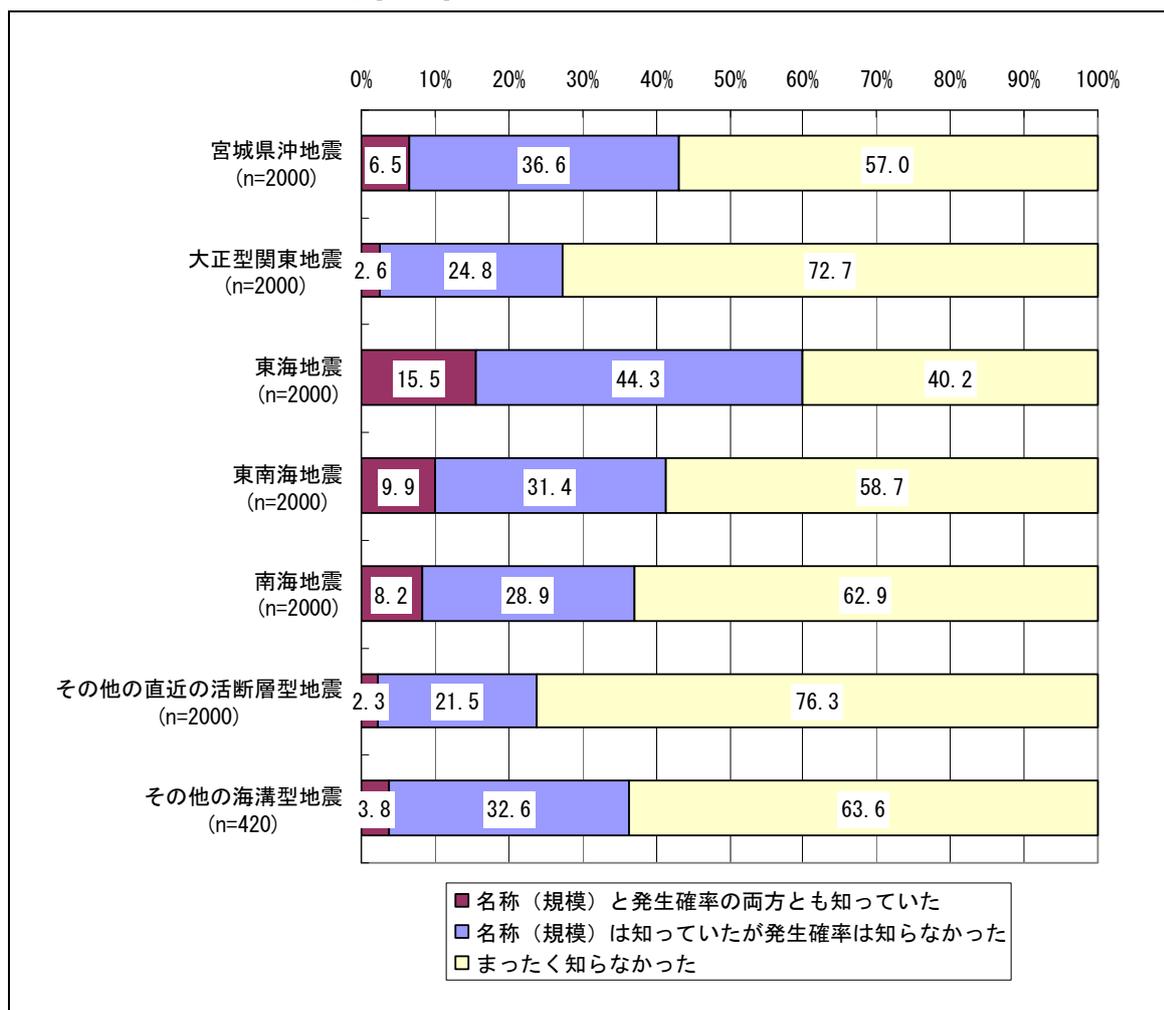
- ・地震の発生確率の長期評価^(注1)で最も知られていたのは「東海地震」であり、約6割の人が知っていた。一方、最も知られていなかったのは「(居住地)直近の活断層型地震」で24%だった。
- ・各都道府県内にある個別活断層^(注2)で知られていたのは、「琵琶湖西岸断層帯」(滋賀県85%)、「糸魚川-静岡構造線活断層系」(山梨県80%)、「長町-利府断層」(宮城県73%)であるが、ほとんどの活断層が知られていなかった。

(注1) 地震の発生確率の長期評価(問14)では、宮城県沖地震、大正型関東地震、東海地震、東南海地震及び南海地震の5つの地震に関して全国共通で質問した。さらに、これに加え、選択された地点が所在する都道府県に応じて、活断層型地震を1つずつ選択(「(その他の回答者の)直近の活断層型地震」)し、上記以外の海溝型地震がある場合はこれを加えた。

* 選択した地震名については、巻末資料2を参照のこと。

(注2) 問14-1については、選択された地点が所在する都道府県内の活断層を約110ある主要活断層の中からすべてを掲載し、知っているものについて回答を求めた(問14で掲げた活断層は除く)。

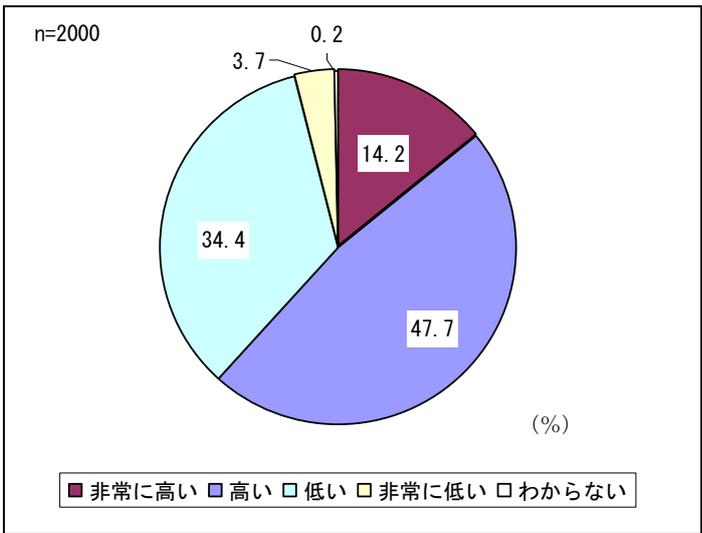
* 都道府県毎に質問した活断層名とそれぞれの認知率については、「地震に関するアンケート調査 集計結果」p11~p18を参照のこと。



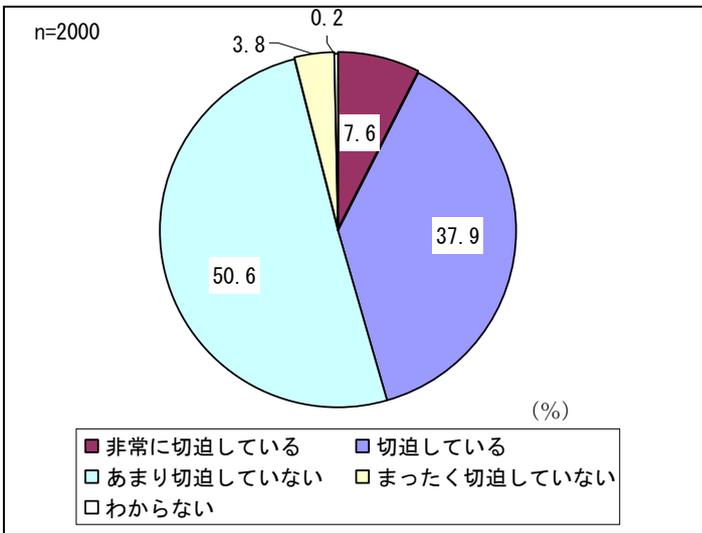
問14 地震の名称(規模)、発生確率の認知度

12) 地震の発生確率の長期評価の受け止め方

- ・地震の発生確率の長期評価を知って、居住地域に大きな地震被害が出る危険性が「非常に高い」（14.2%）と「やや高い」（47.7%）を合わせ、61.9%の人は危険性が高いと受け止めている。これは、大地震が起きた時「まったく予想がつかない」との回答が約4割だったのに比べると、「わからない」が少なく、「危険性が高い」と受け止めていると言える。
- ・居住地域における大地震発生の切迫性としては、「非常に切迫している」（7.6%）と「やや切迫している」（37.9%）を合わせ、45.5%の人は切迫していると受け止めている。



問 1 7 - 1 居住地域における地震被害の危険性



問 1 7 - 2 居住地域における大地震発生の切迫性

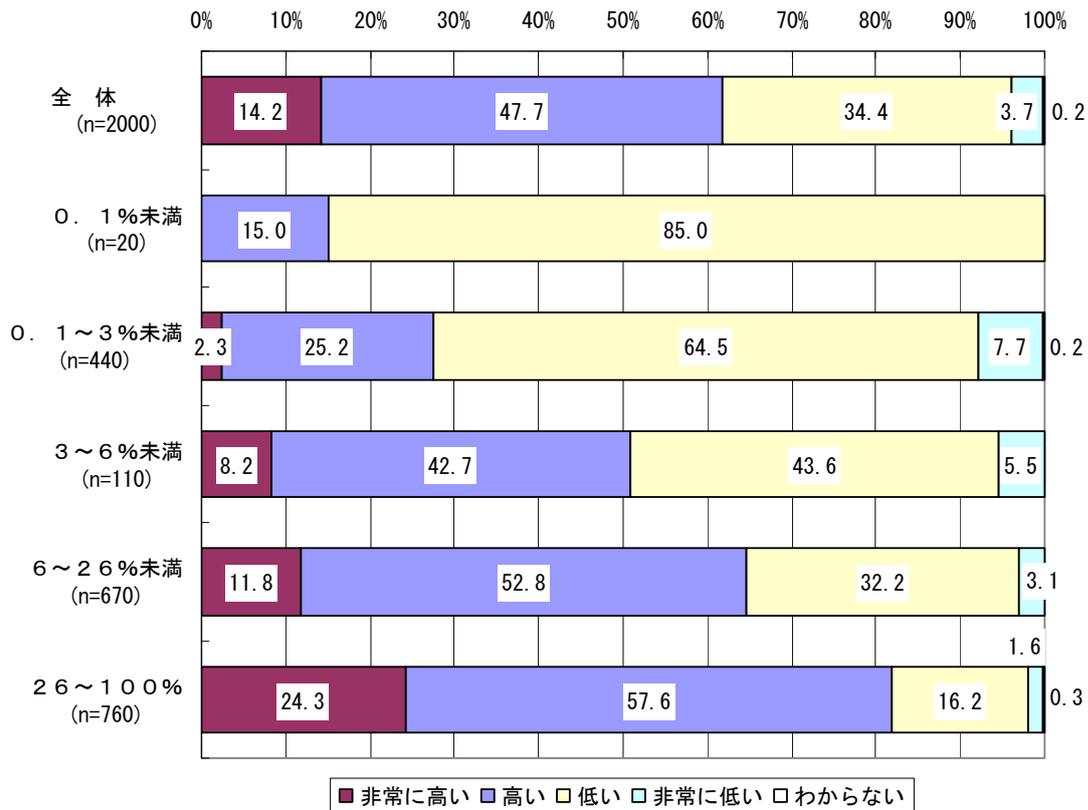
<当該地区の震度6弱の発生確率×問17 居住地域における地震被害発生の危険性、大地震発生の切迫性>

当該地区の震度6弱の発生確率	問17 居住地域における地震被害発生の危険性						問17 居住地域における大地震発生の切迫性					
	調査数	非常に高い	高い	低い	非常に低い	わからない	調査数	非常に切迫している	切迫している	あまり切迫していない	まったく切迫していない	わからない
全体	2000 100.0	283 14.2	953 47.7	688 34.4	73 3.7	3 0.2	2000 100.0	152 7.6	757 37.9	1011 50.6	76 3.8	4 0.2
0.1%未満	20 100.0	- -	3 15.0	17 85.0	- -	- -	20 100.0	- -	1 5.0	18 90.0	1 5.0	- -
0.1~3%未満	440 100.0	10 2.3	111 25.2	284 64.5	34 7.7	1 0.2	440 100.0	4 0.9	74 16.8	330 75.0	32 7.3	- -
3~6%未満	110 100.0	9 8.2	47 42.7	48 43.6	6 5.5	- -	110 100.0	4 3.6	34 30.9	65 59.1	7 6.4	- -
6~26%未満	670 100.0	79 11.8	354 52.8	216 32.2	21 3.1	- -	670 100.0	37 5.5	270 40.3	338 50.4	25 3.7	- -
26~100%	760 100.0	185 24.3	438 57.6	123 16.2	12 1.6	2 0.3	760 100.0	107 14.1	378 49.7	260 34.2	11 1.4	4 0.5

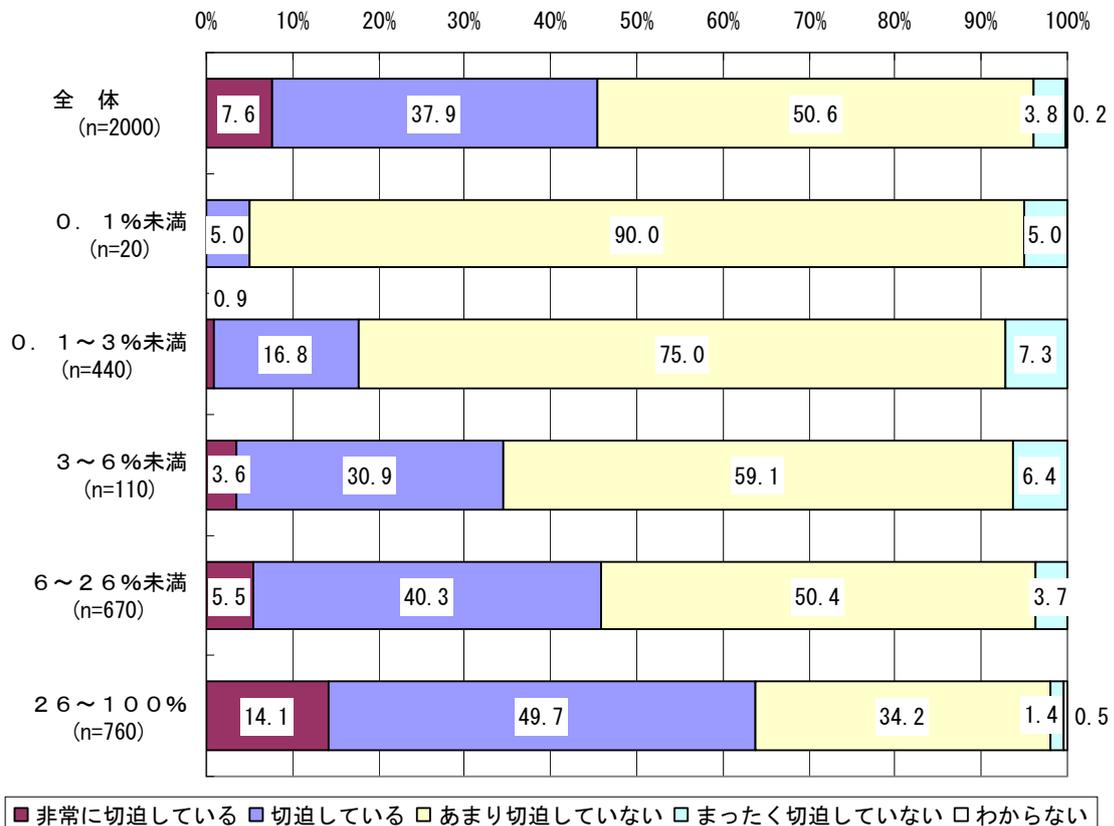
<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問17 居住地域における地震被害発生の危険性、大地震発生の切迫性>

当該地区の特定震源による揺れの大きさ	問17 居住地域における地震被害発生の危険性						問17 居住地域における大地震発生の切迫性					
	調査数	非常に高い	高い	低い	非常に低い	わからない	調査数	非常に切迫している	切迫している	あまり切迫していない	まったく切迫していない	わからない
全体	2000 100.0	283 14.2	953 47.7	688 34.4	73 3.7	3 0.2	2000 100.0	152 7.6	757 37.9	1011 50.6	76 3.8	4 0.2
震度3以下	10 100.0	1 10.0	- -	5 50.0	4 40.0	- -	10 100.0	- -	- -	10 100.0	- -	- -
震度4	110 100.0	10 9.1	35 31.8	62 56.4	3 2.7	- -	110 100.0	8 7.3	26 23.6	71 64.5	5 4.5	- -
震度5弱	290 100.0	26 9.0	111 38.3	131 45.2	21 7.2	1 0.3	290 100.0	12 4.1	88 30.3	169 58.3	21 7.2	- -
震度5強	450 100.0	46 10.2	224 49.8	170 37.8	10 2.2	- -	450 100.0	24 5.3	167 37.1	244 54.2	13 2.9	2 0.4
震度6弱	440 100.0	63 14.3	219 49.8	139 31.6	19 4.3	- -	440 100.0	29 6.6	188 42.7	211 48.0	12 2.7	- -
震度6強	420 100.0	94 22.4	229 54.5	89 21.2	8 1.9	- -	420 100.0	63 15.0	189 45.0	159 37.9	9 2.1	- -
震度7	120 100.0	22 18.3	71 59.2	25 20.8	2 1.7	- -	120 100.0	9 7.5	52 43.3	52 43.3	7 5.8	- -
不明	160 100.0	21 13.1	64 40.0	67 41.9	6 3.8	2 1.3	160 100.0	7 4.4	47 29.4	95 59.4	9 5.6	2 1.3

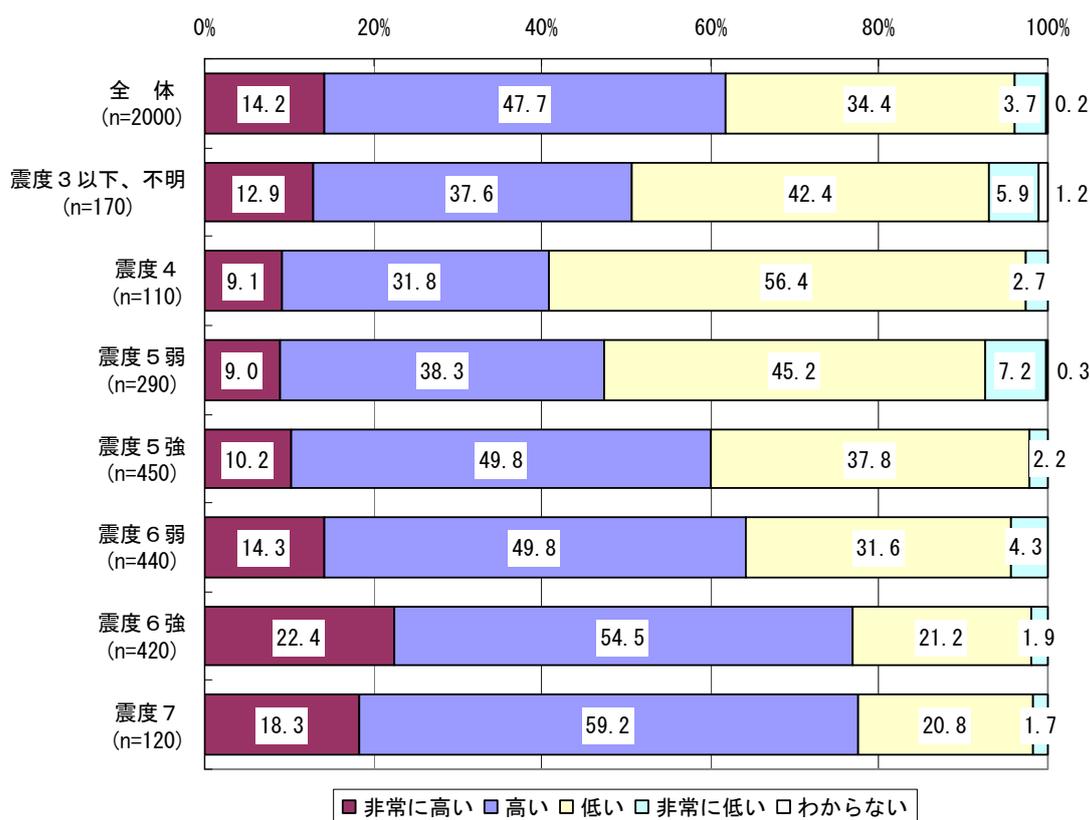
<当該地区の震度6弱の発生確率×問17 居住地域における地震被害発生の危険性>



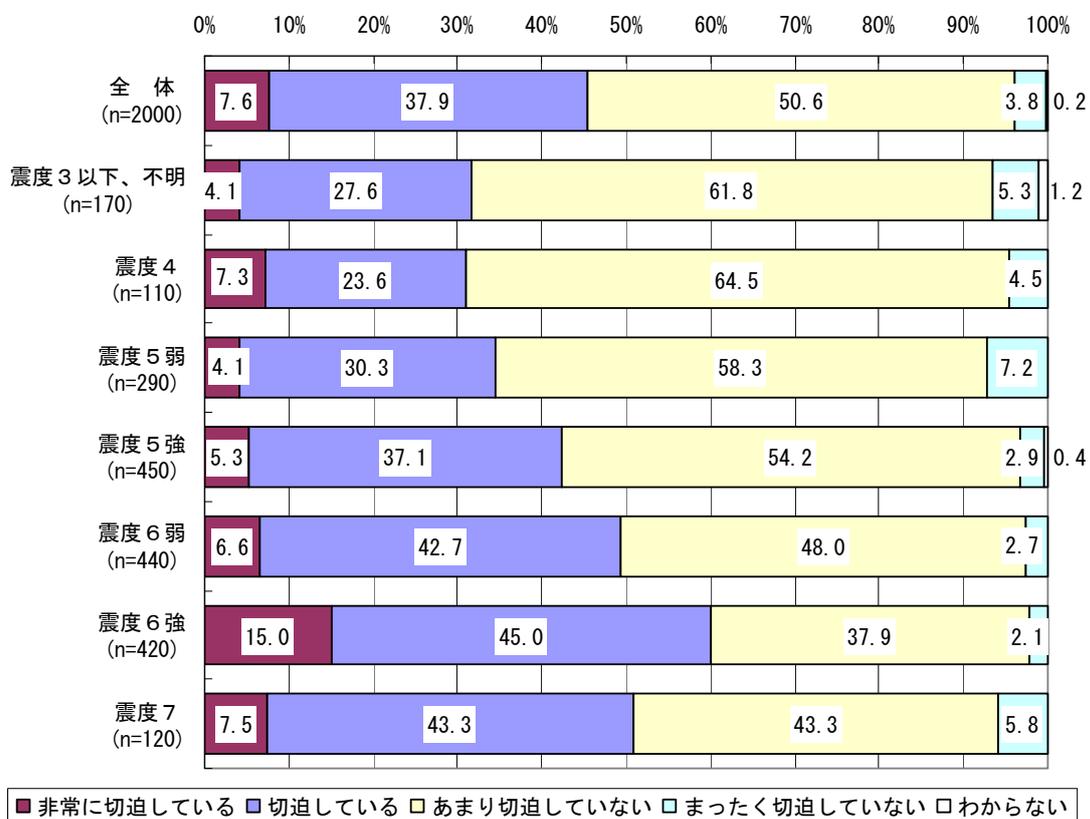
<当該地区の震度6弱の発生確率×問17 大地震発生の切迫性>



<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問17 居住地域における地震被害発生危険性>



<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問17 居住地域における大地震発生切迫性>



13) 地震発生確率の長期評価についての意見

- ・地震発生確率の長期評価について、「大地震はいつどこで起きるかわからないので確率は関係ない」が44.3%で最も多いが、「これを知ってさらに不安になった」が34.6%、「危険があるようなので防災対策をしなければいけない」が31.5%と続いている。「大地震発生の確率は低いようなので安心した」は13.1%と少ない。
- ・「これを知ってさらに不安になった」と「危険があるようなので防災対策をしなければいけない」は、震度5強以上や地震の発生確率3%以上で、「大地震発生の確率は低いようなので安心した」は震度5弱以下や地震の発生確率3%未満で多くなる傾向が見られた。

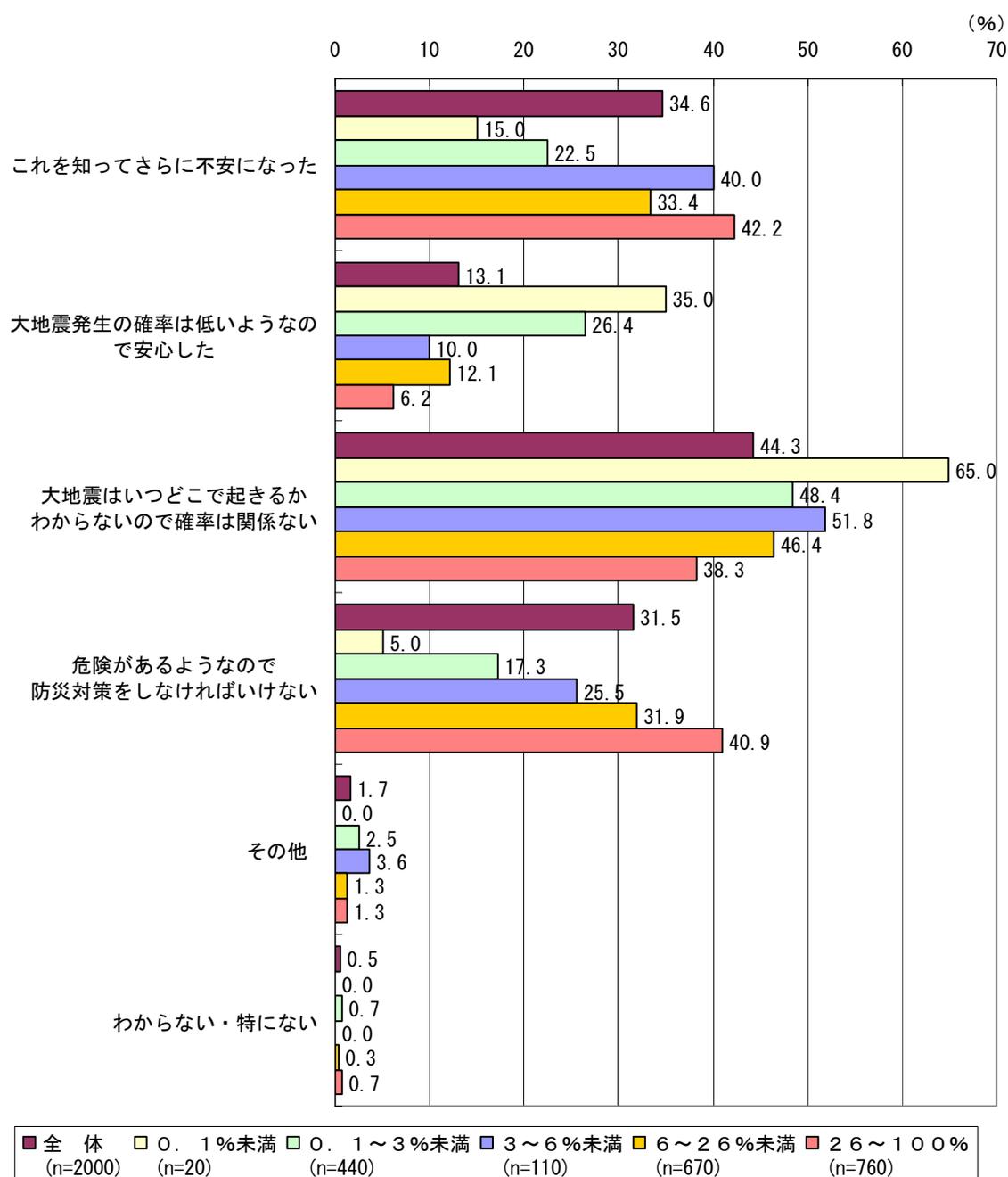
<当該地区の震度6弱の発生確率×地震発生可能性の長期評価に関する意見、地震防災対策実施効果>

当該地区の震度6弱の発生確率	問17地震発生可能性の長期評価に関する意見							問17地震発生の長期評価による地震防災対策実施効果								
	調査数	これを知ってさらに不安になった	これを知らなかった	大地震発生の確率は低いようなので安心した	大地震発生の確率は関係ない	大地震はいつどこで起きるかわからないので確率は関係ない	危険があるようなので防災対策をしなければいけない	その他	わからない・特にならない	調査数	きつかけになる人は少ない	ほとんどの人に対してきつかけになる	半数くらいの人に対してきつかけになる	きつかけになる人は少ない	きつかけになる人は多い	その他
全体	2000 100.0	691 34.6	262 13.1	885 44.3	630 31.5	34 1.7	10 0.5	2000 100.0	365 18.3	963 48.2	612 30.6	42 2.1	10 0.5	8 0.4		
0.1%未満	20 100.0	3 15.0	7 35.0	13 65.0	1 5.0	-	-	20 100.0	4 20.0	11 55.0	5 25.0	-	-	-		
0.1~3%未満	440 100.0	99 22.5	116 26.4	213 48.4	76 17.3	11 2.5	3 0.7	440 100.0	50 11.4	206 46.8	167 38.0	14 3.2	2 0.5	1 0.2		
3~6%未満	110 100.0	44 40.0	11 10.0	57 51.8	28 25.5	4 3.6	-	110 100.0	12 10.9	51 46.4	44 40.0	2 1.8	1 0.9	-		
6~26%未満	670 100.0	224 33.4	81 12.1	311 46.4	214 31.9	9 1.3	2 0.3	670 100.0	133 19.9	312 46.6	204 30.4	16 2.4	2 0.3	3 0.4		
26~100%	760 100.0	321 42.2	47 6.2	291 38.3	311 40.9	10 1.3	5 0.7	760 100.0	166 21.8	383 50.4	192 25.3	10 1.3	5 0.7	4 0.5		

<当該地区の揺れの大きさ×地震発生可能性の長期評価に関する意見、地震防災対策実施効果>

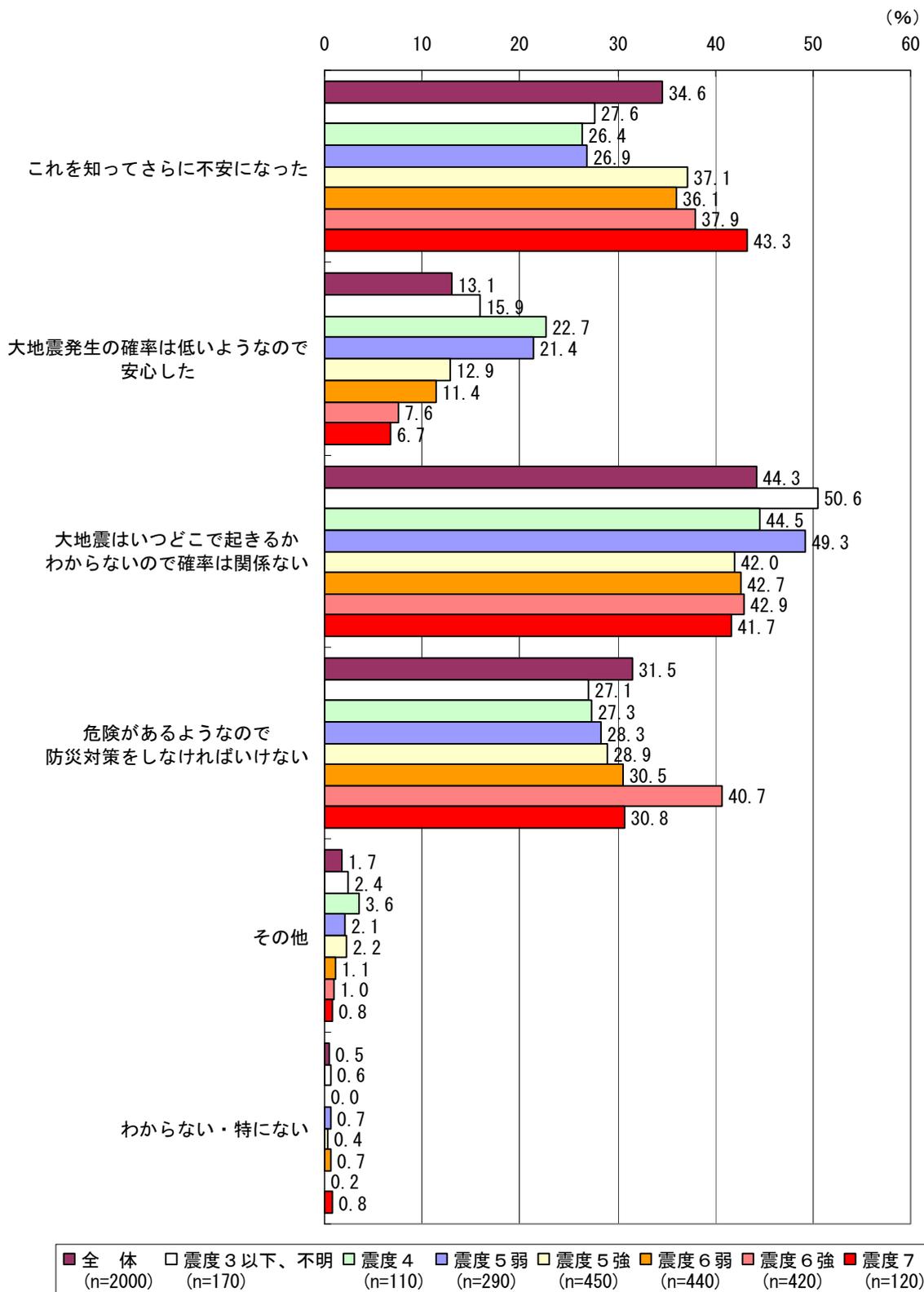
当該地区の特定震源による揺れの大きさ	問17地震発生可能性の長期評価に関する意見							問17地震発生の長期評価による地震防災対策実施効果								
	調査数	これを知ってさらに不安になった	これを知らなかった	大地震発生の確率は低いようなので安心した	大地震発生の確率は関係ない	大地震はいつどこで起きるかわからないので確率は関係ない	危険があるようなので防災対策をしなければいけない	その他	わからない・特にならない	調査数	きつかけになる人は少ない	ほとんどの人に対してきつかけになる	半数くらいの人に対してきつかけになる	きつかけになる人は少ない	きつかけになる人は多い	その他
全体	2000 100.0	691 34.6	262 13.1	885 44.3	630 31.5	34 1.7	10 0.5	2000 100.0	365 18.3	963 48.2	612 30.6	42 2.1	10 0.5	8 0.4		
震度3以下	10 100.0	3 30.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0	-	-	10 100.0	1 10.0	4 40.0	5 50.0	-	-	-		
震度4	110 100.0	29 26.4	25 22.7	49 44.5	30 27.3	4 3.6	-	110 100.0	25 22.7	47 42.7	35 31.8	2 1.8	1 0.9	-		
震度5弱	290 100.0	78 26.9	62 21.4	143 49.3	82 28.3	6 2.1	2 0.7	290 100.0	43 14.8	128 44.1	105 36.2	13 4.5	1 0.3	-		
震度5強	450 100.0	167 37.1	58 12.9	189 42.0	130 28.9	10 2.2	2 0.4	450 100.0	71 15.8	219 48.7	151 33.6	3 0.7	5 1.1	1 0.2		
震度6弱	440 100.0	159 36.1	50 11.4	188 42.7	134 30.5	5 1.1	3 0.7	440 100.0	81 18.4	236 53.6	111 25.2	7 1.6	1 0.2	4 0.9		
震度6強	420 100.0	159 37.9	32 7.6	180 42.9	171 40.7	4 1.0	1 0.2	420 100.0	87 20.7	213 50.7	106 25.2	11 2.6	1 0.2	2 0.5		
震度7	120 100.0	52 43.3	8 6.7	50 41.7	37 30.8	1 0.8	1 0.8	120 100.0	26 21.7	52 43.3	40 33.3	2 1.7	-	-		
不明	160 100.0	44 27.5	23 14.4	81 50.6	45 28.1	4 2.5	1 0.6	160 100.0	31 19.4	64 40.0	59 36.9	4 2.5	1 0.6	1 0.6		

<当該地区の震度6弱の発生確率×問17 地震発生可能性の長期評価に関する意見>



* 地震発生確率の長期評価について、「大地震はいつどこで起きるかわからないので確率は関係ない」と「大地震発生の確率は低いようなので安心した」は、当該地区の震度6弱の発生確率が低いほど多くの人を選択し、「これを知ってさらに不安になった」は地震の発生確率が3%以上の地区の人、「危険があるようなので防災対策をしなければいけない」は地震の発生確率が大きくなるほど多くの人を選択していた。

<当該地区の揺れの大きさ×問17 地震発生可能性の長期評価に関する意見>

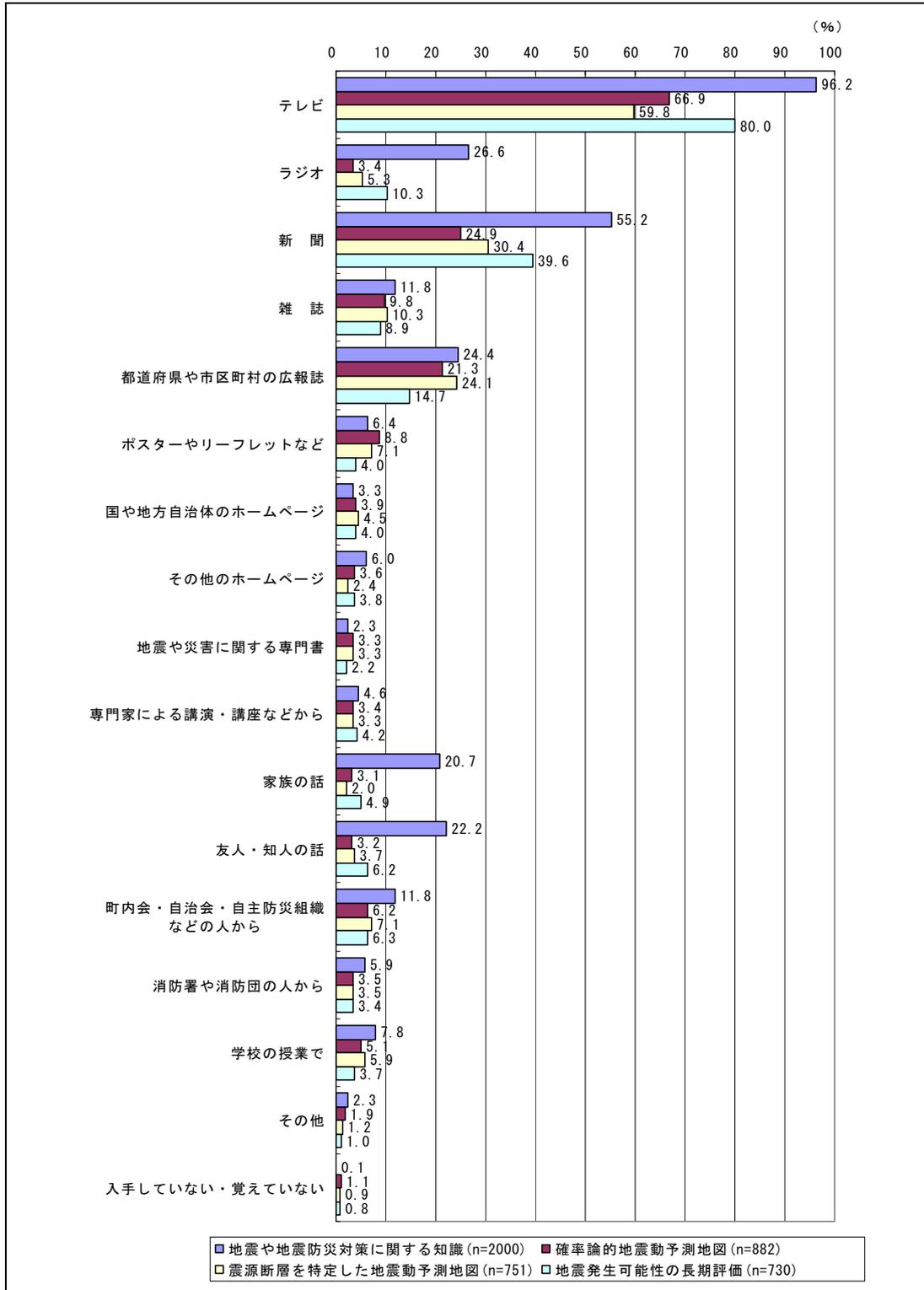


* 地震発生確率の長期評価について、当該地区の揺れの大きさとの関連は、当該地区の震度6弱以上の発生確率ほど相関は高くないが、同様の傾向が見られた。

14) 地震に関する情報の入手源

- ・地震動予測地図や震源特定断層、地震発生長期評価に関する情報源として、最も多いのがテレビであり、新聞が続く、次いで地方公共団体の広報誌がやや多い。
- ・また、地震や地震防災全般に関する知識の入手源と比較すると、同様にテレビ・新聞が多いが、ラジオや家族や友人・知人という人を介しての情報が比較的多いという違いがある。

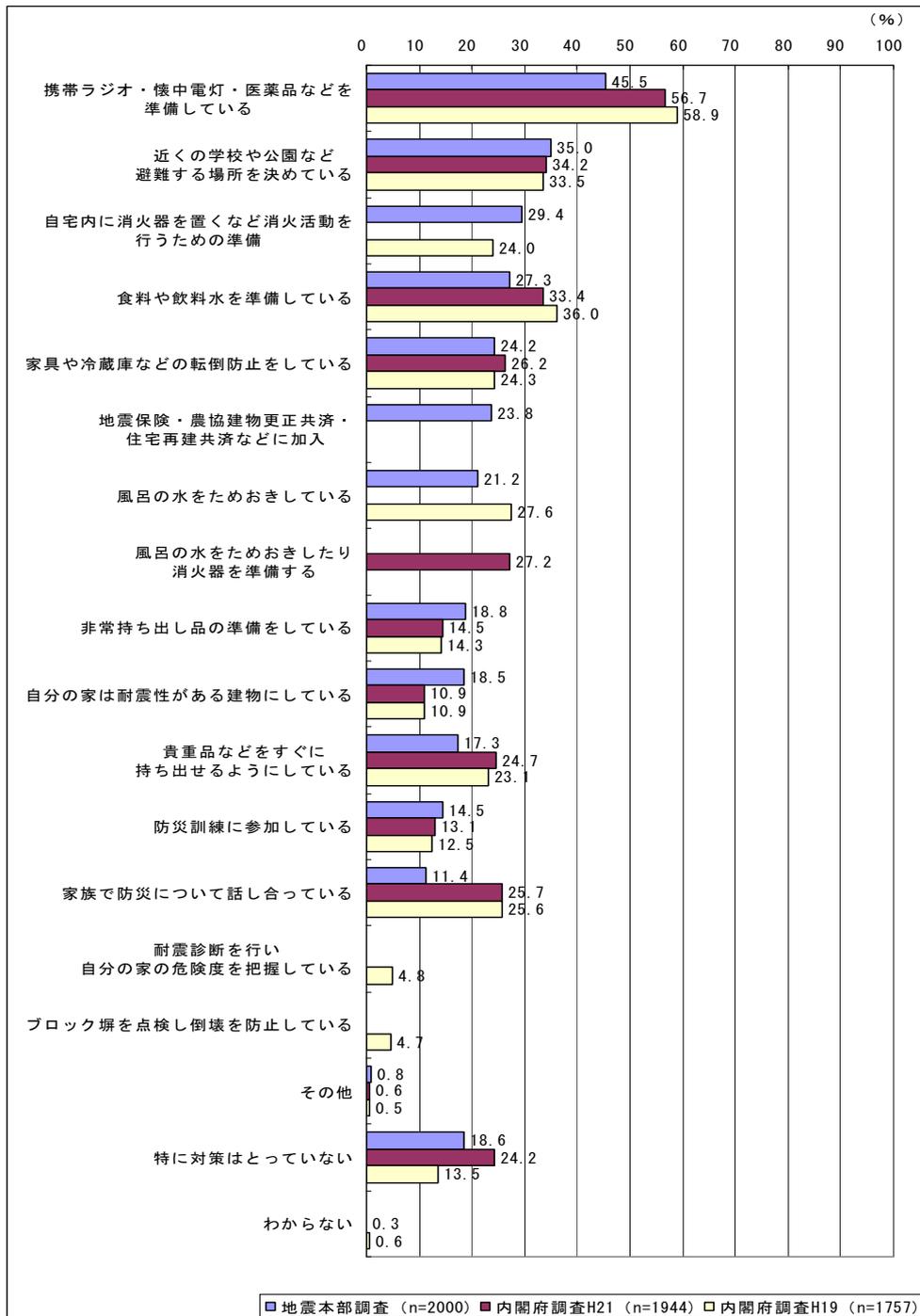
<問5、問10-1、問12-1、問16 地震についての情報入手源(M.A.)>



15) 地震防災対策の実施度

- ・ 81.4%の人が、元々何らかの地震防災対策を実施していた。
- ・ 実施していた防災対策としては、携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品などの準備45.5%、避難する場所を決めている35.0%、消火器などの準備29.4%、食料や飲料水の準備27.3%、地震保険等に参加23.8%等である。
- ・ 家具などの転倒防止は24.2%となっており、「耐震性がある建物にしている」は、18.5%であった。
- ・ これを内閣府が実施している防災世論調査と比較すると、以下のようである。

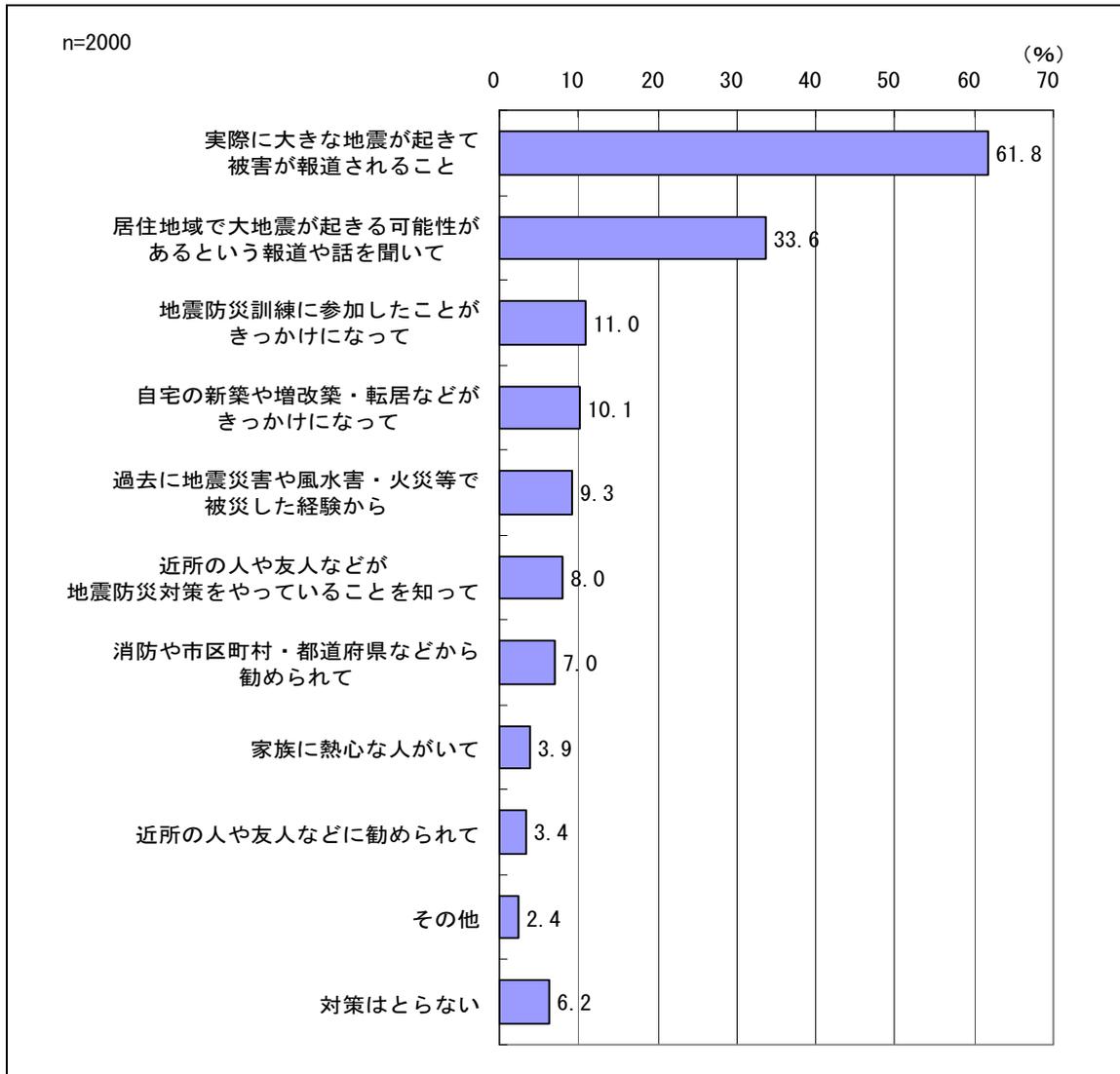
<問6 地震防災対策の実施状況(M.A.)>



16) 地震防災対策実施のきっかけ

- ・「実際に大きな地震が起きて被害が報道されること」をきっかけに地震防災対策を実施する人が最も多く、61.8%だった。次に多かったのが、「居住地域で大地震が起きる可能性があるという報道や話を聞いて」であり、約3人に1人（33.6%）が挙げている。報道をきっかけに、地震防災対策を実施する人が多いと言えよう。
- ・その他の地震防災訓練参加や、自宅の新増築、過去の災害体験等は10%前後と少ない。

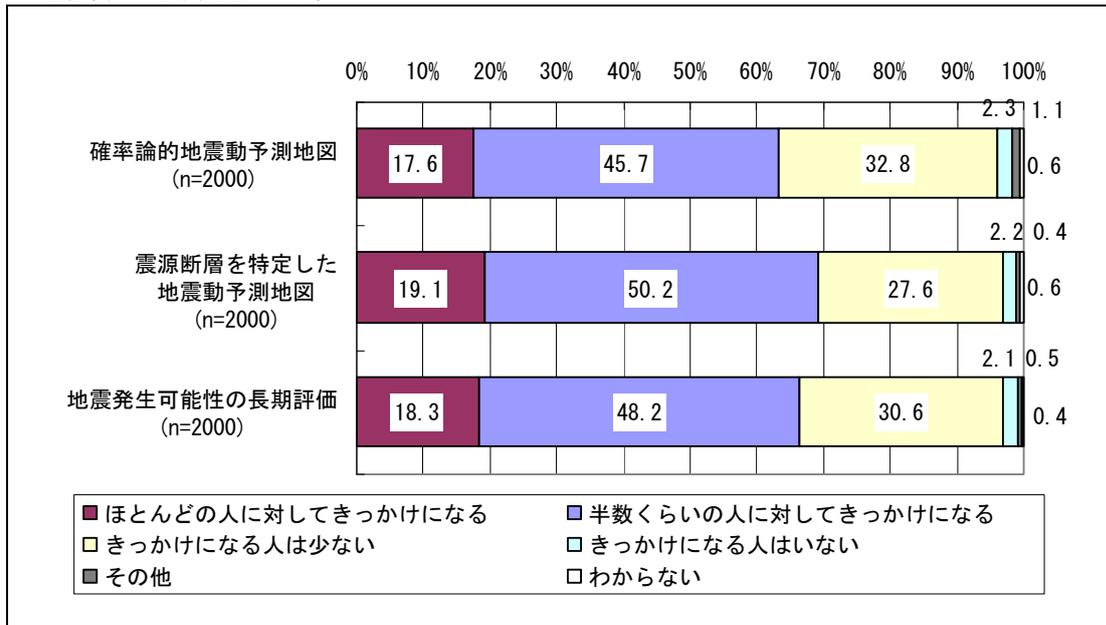
<問7 地震防災対策を始めるきっかけ(M.A.)>



17) 地震動予測地図や地震発生可能性の長期評価が地震防災対策実施の契機となるか

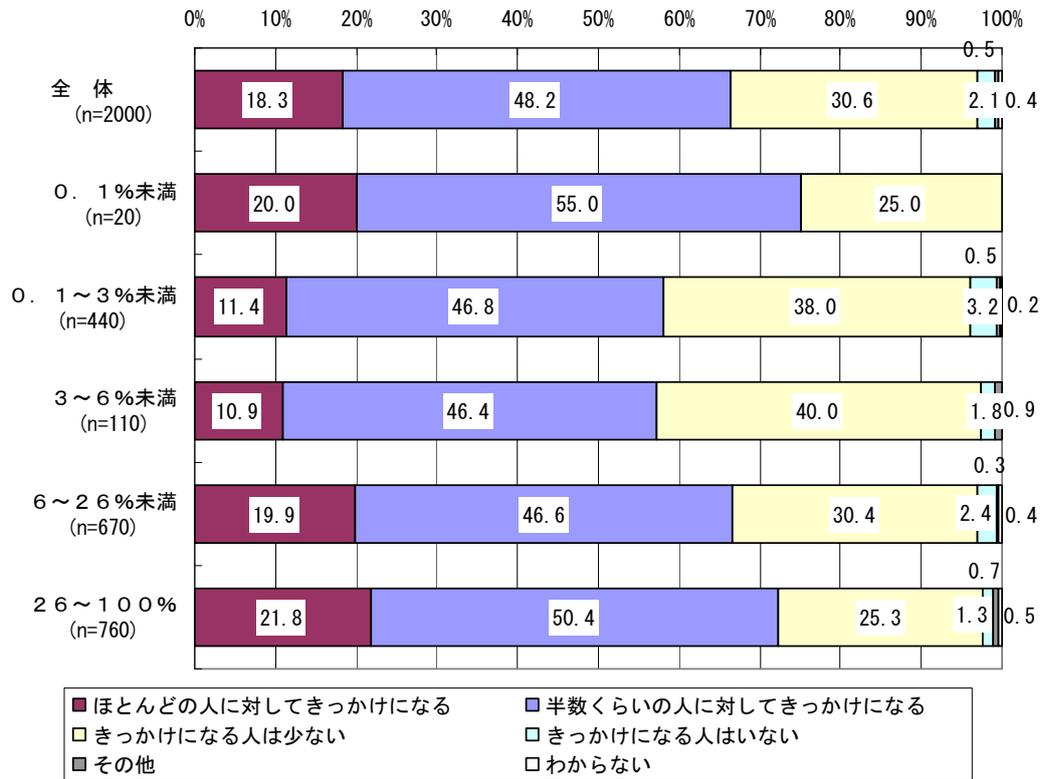
・地震本部の3つの成果の情報が地震防災対策を実施するきっかけとなるかについては、「ほとんどの人がきっかけとなる」と「半数くらいの人がかきっかけとなる」を合わせて、60%の人がきっかけになるという肯定的な意見だった。中では、震源断層を特定した地震動予測地図がきっかけとなるという人が若干だが多かった。

<問11-5、問13-4、問17-5 地震動予測地図や地震の長期評価を見ることによる地震防災対策実施の効果>

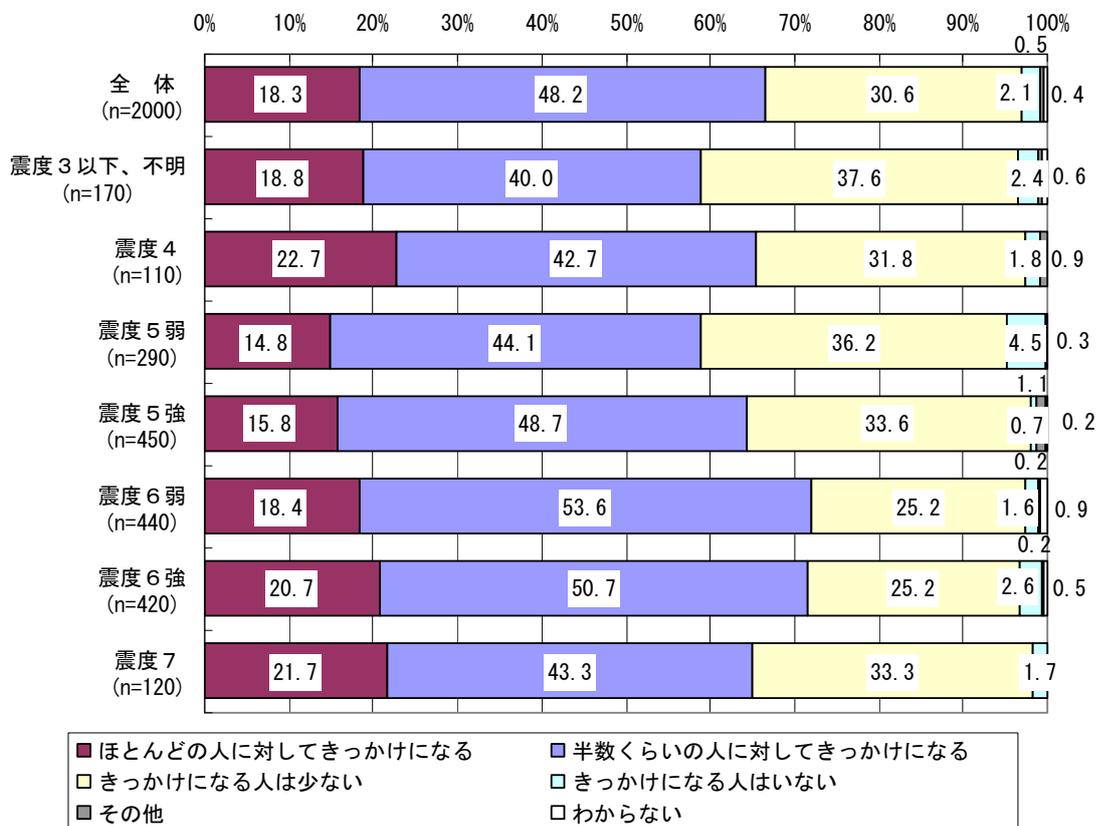


* 成果の情報が地震防災対策を実施するきっかけとなるかについては、予想される揺れの大きさが小さい地区と大きい地区、地震の発生確率が小さい地区と大きい地区で、若干ではあるが、きっかけとなるとの回答が多く見られた。

<当該地区の震度6弱の発生確率×問17-5 地震発生の長期評価の効果>



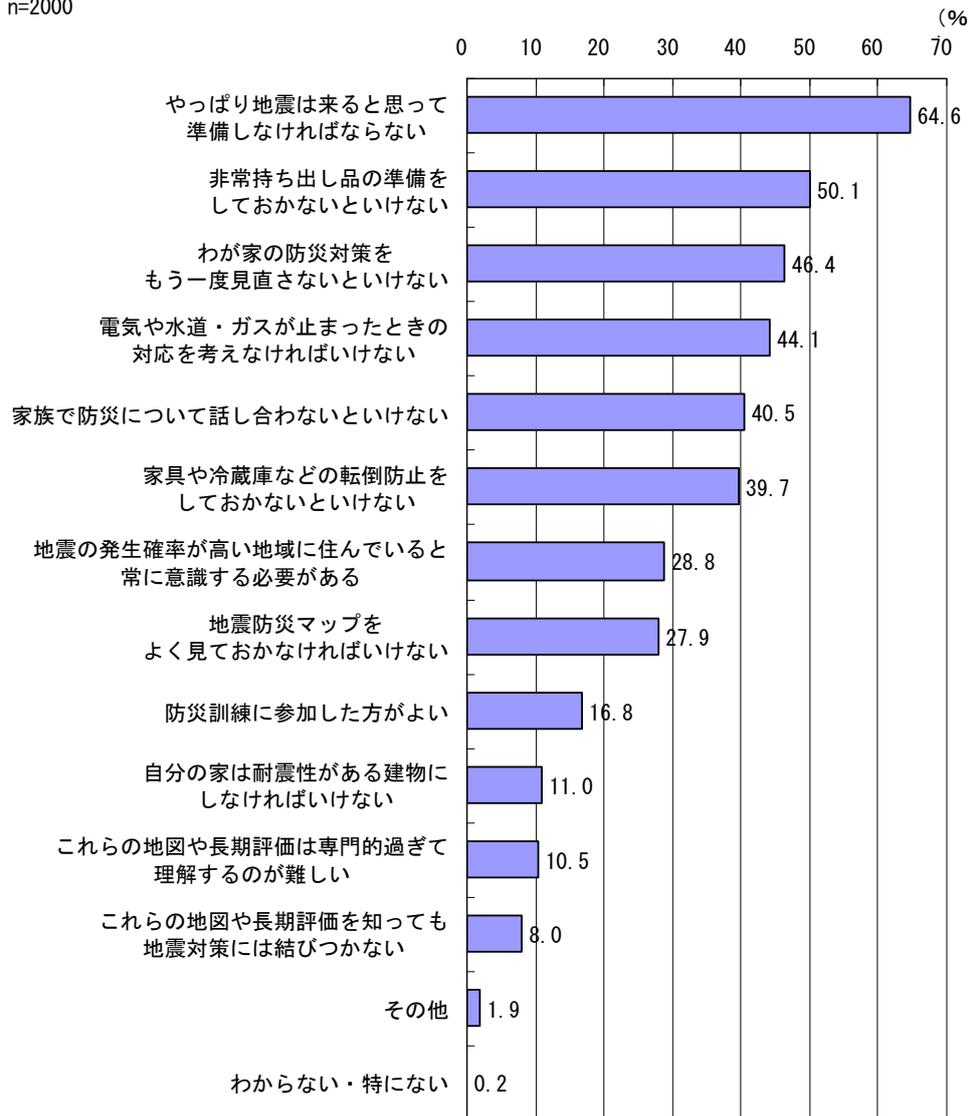
<当該地区の特定震源による揺れの大きさ×問17-5 地震発生の長期評価の効果>



18) 地震防災対策実施への結びつき（アンケート調査による学習効果）

- ・地震動予測地図や地震発生可能性の長期評価等を見たことにより、「やはり地震は来ると思って準備しなければならない」と思った人が64.6%と最も多く、「非常持ち出し品の準備」50.1%や「わが家の防災対策の見直し」46.4%、「電気・水道・ガス停止時の対応検討」44.1%等の具体的な地震防災対策の必要性を感じた人も多かった。
- ・「地震動予測地図や地震発生可能性の長期評価等が専門的すぎてむずかしい」や、「これらを知っても地震防災対策に結びつかない」という否定的な回答は少なかった。

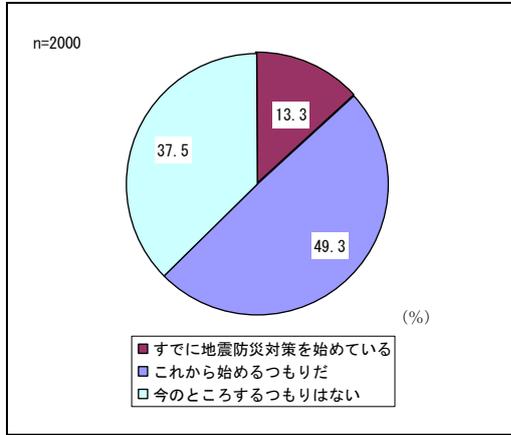
n=2000



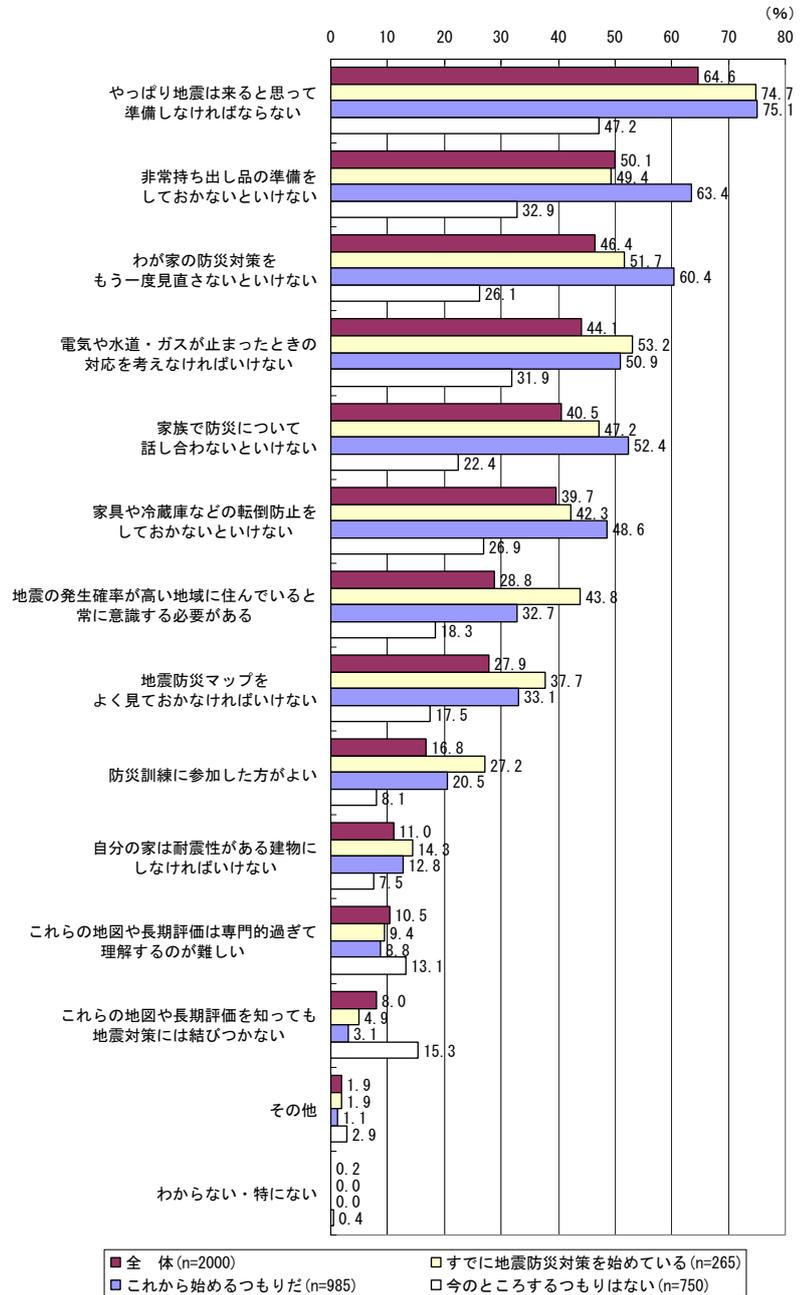
問 1 8 地震動予測地図や地震発生可能性の長期評価認知後の感想（M. A.）

19) 地震防災対策実施の意向（アンケート調査による学習効果）

・地震動予測地図や地震発生可能性の長期評価等を見たことにより、13.3%の人は「すでに地震防災対策を始めている」と答え、「これから始めるつもり」の人が約半数（49.3%）いた。

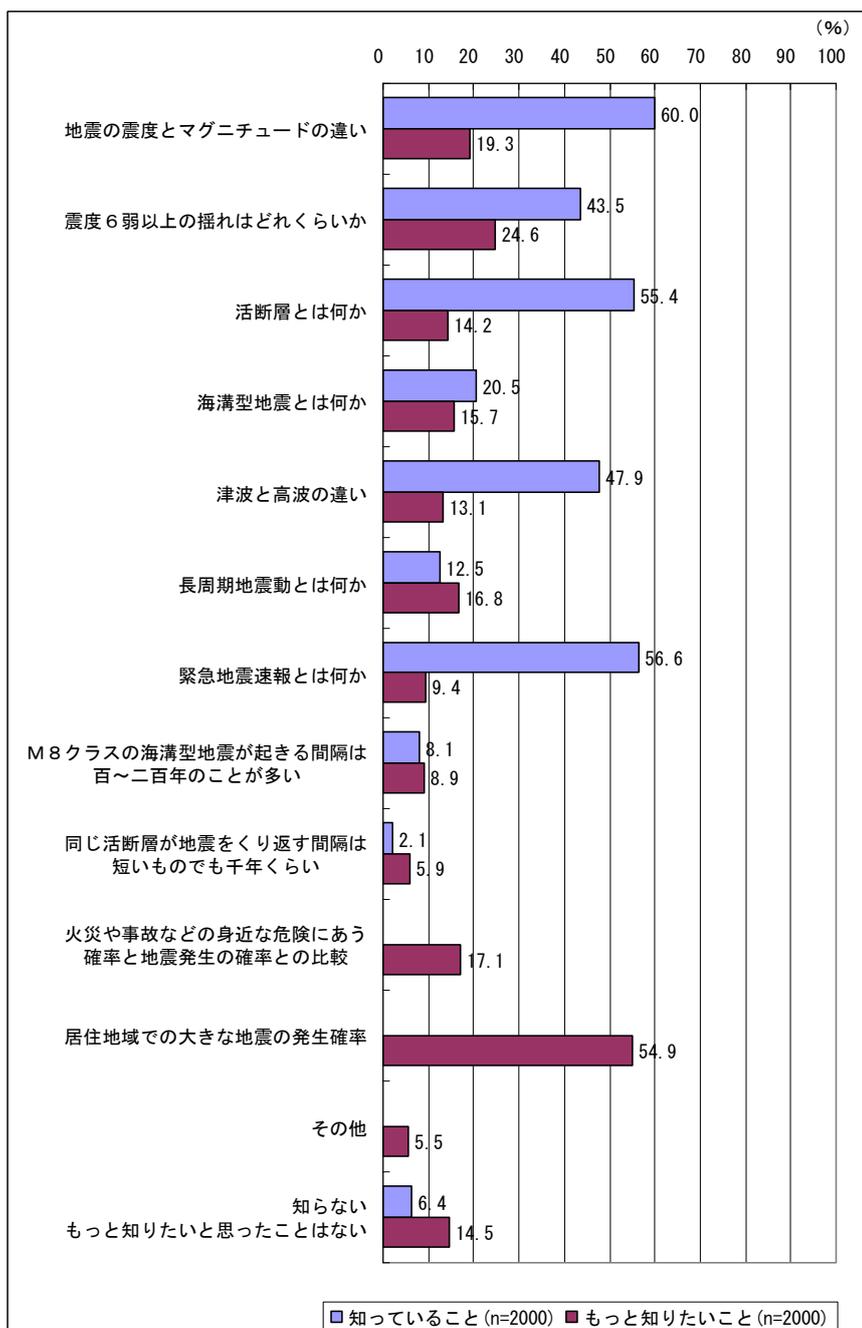


問 19 地震防災対策実施の意向



20) 地震についての知識とアンケート調査後に知りたい事項

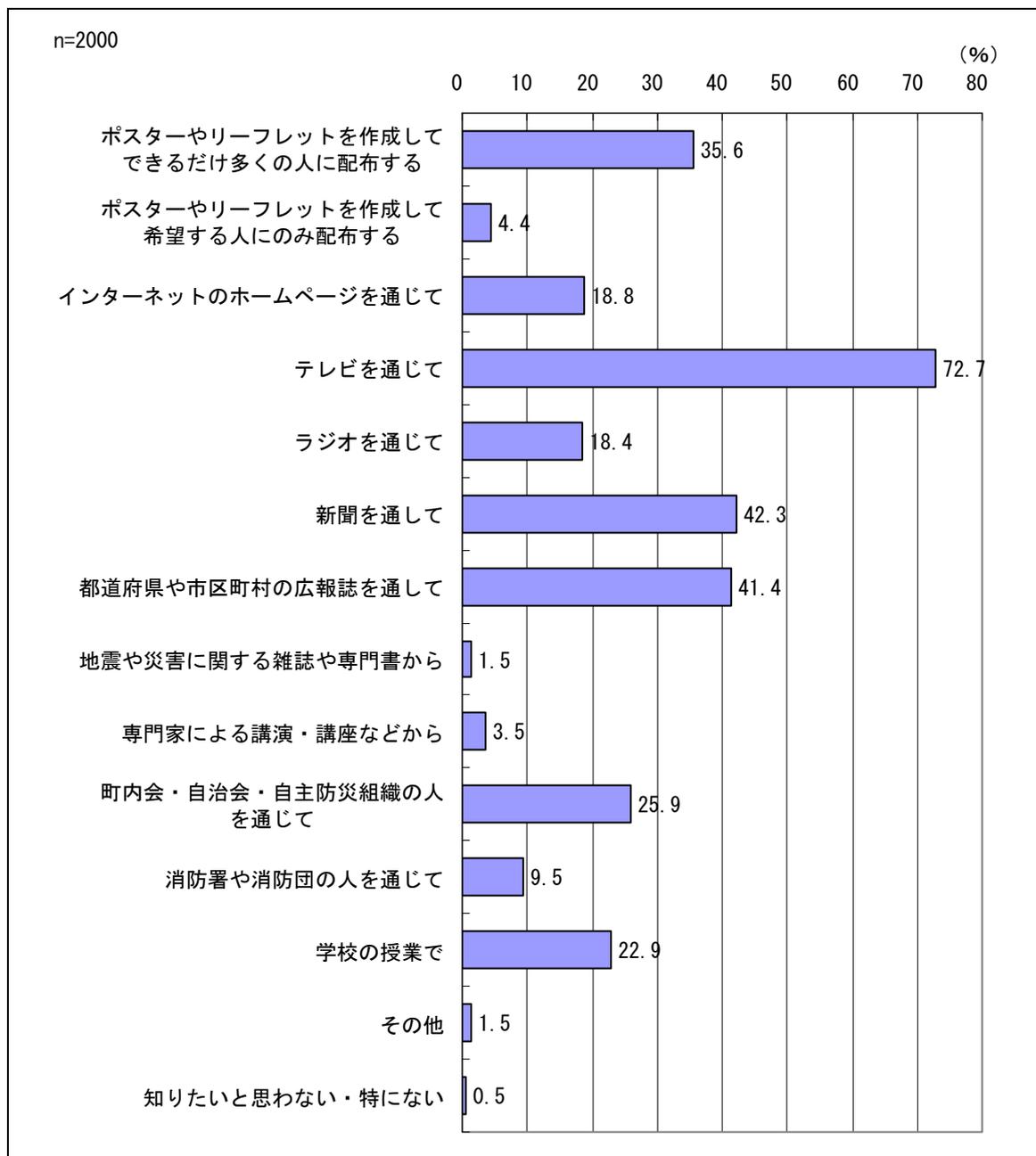
- ・地震についての知識で、半数以上の人に知られていたのは、「地震の震度とマグニチュードの違い」60.0%、「緊急地震速報」56.6%、「活断層とは何か」55.4%だった。これに対し、「海溝型地震」は20.5%と活断層より知られていない。また、地震の発生間隔（周期）については、10%未満の人にしか知られていなかった。
- ・アンケート調査に回答した後、85.5%の人が地震に関してもっと知りたいと思っただけであるとしている。中でも最も多かったのが、「居住地域での大きな地震の発生確率」（55%）であり、身近な危険への関心が強い傾向がみられた。



地震についての事前知識（問4）と地震に関してもっと知りたいこと（問20）

21) 今後、地震の知識を伝えるのに適した方法

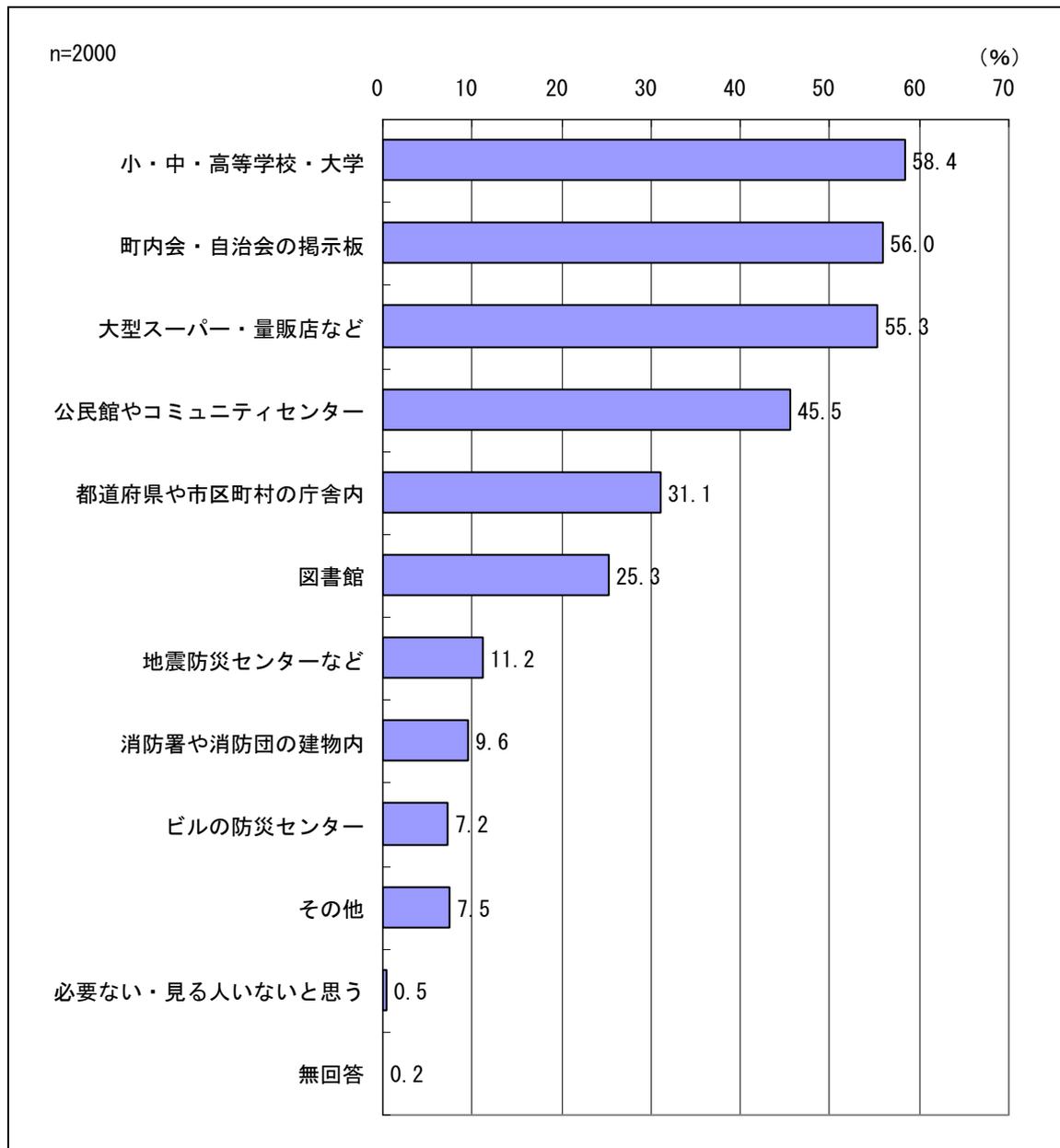
・地震の知識を伝える方法としては、テレビ73%、新聞42%、地方公共団体の広報誌41%、ポスター・リーフレットの配付40%の順になっている。インターネットは19%の人が挙げているが、多いとは言えない。



問 2 1 地震の知識を伝えるのに適した方法

22) ポスターの掲示に適した場所

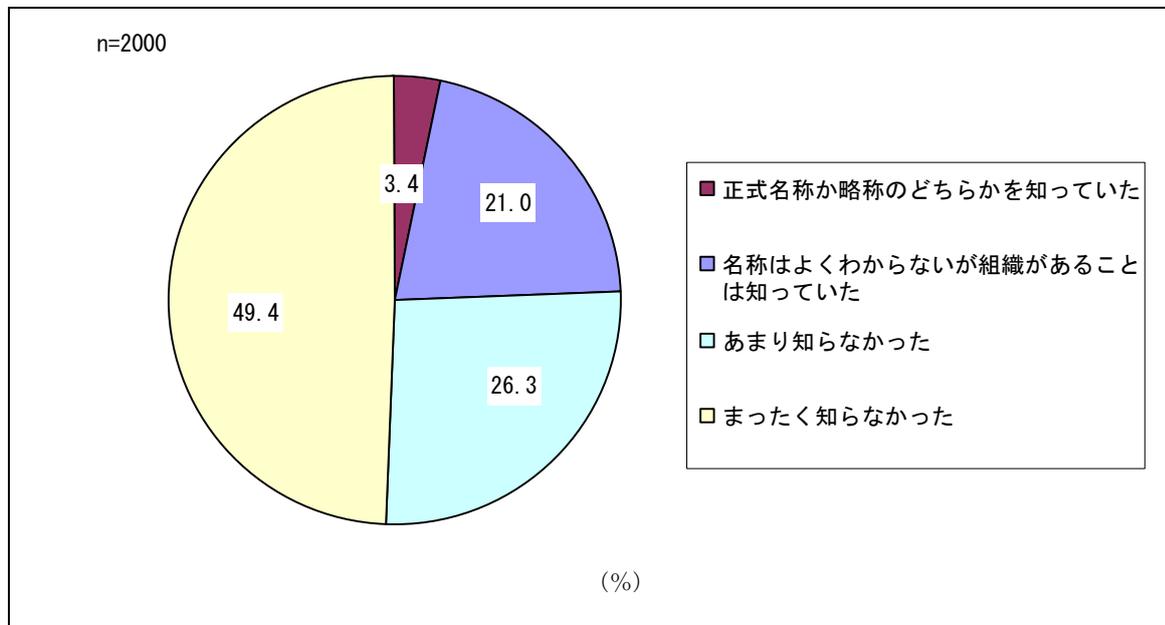
・ポスターの掲示場所として、「学校」58%、「町内会・自治会の掲示板」56%、「大型スーパー・量販店など」55%、「公民館やコミュニティセンター」46%が挙げられており、学校教育や社会人教育等の場のみでなく、多くの人が接する機会のある場所が挙げられている。



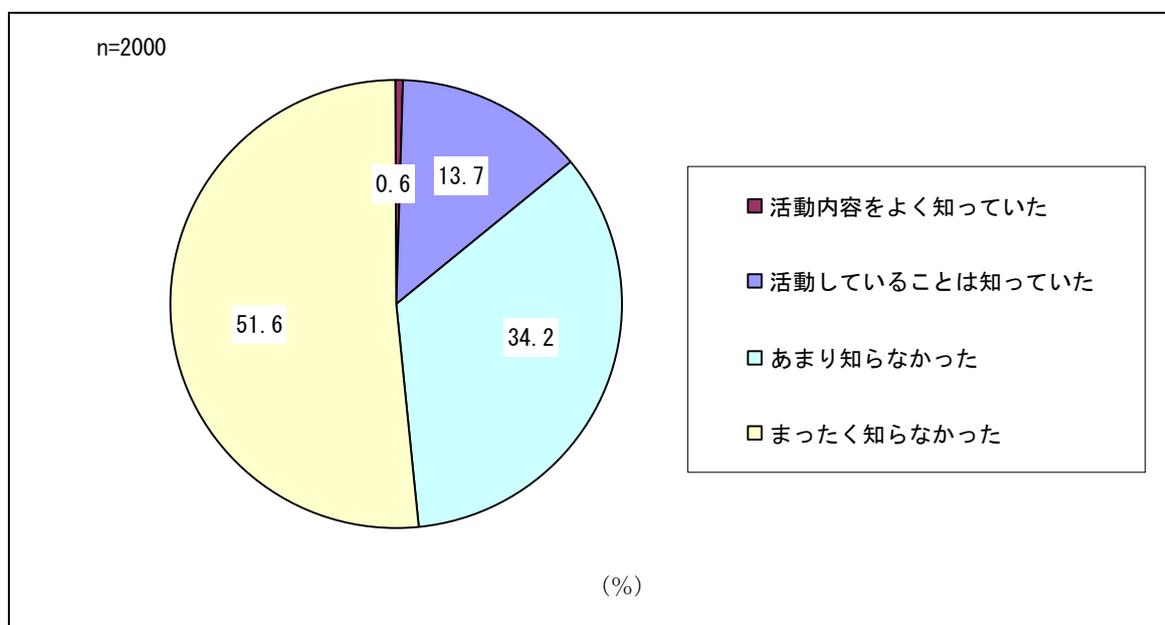
問 2 2 ポスターを掲示するのに適した場所

23) 地震本部の認知

・地震本部については、名称を知っていた人3%、組織があることを知っていた人が21%で、認知率が低い。活動内容についてはさらに認知率が低い。これは、地震本部から出された情報については見たとしても、どこの機関から発信したのか、また正式名称についてはきちんと把握していないためとみられる。



問 2 3 - 1 「地震調査研究推進本部」の組織の認知度



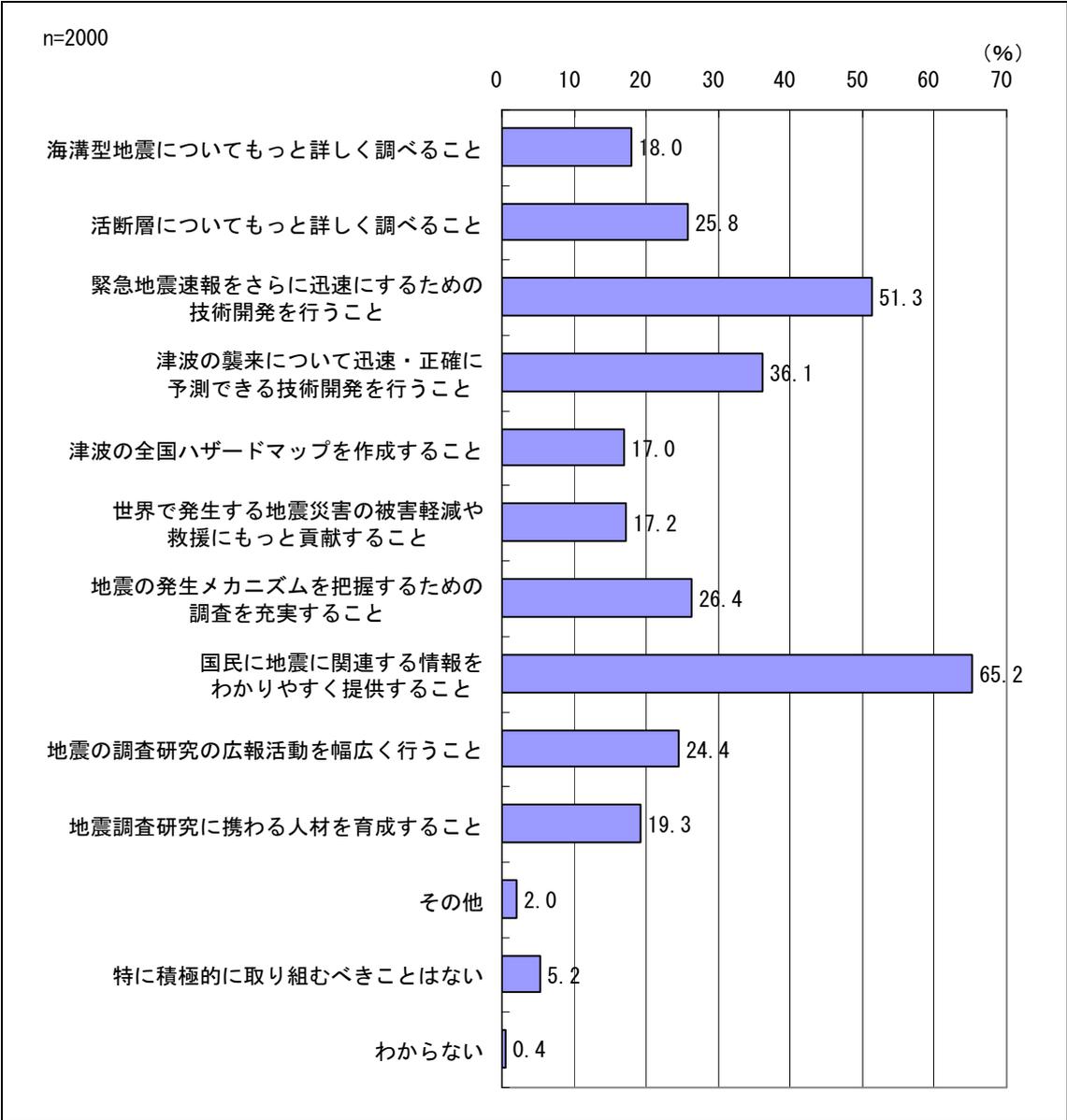
問 2 3 - 2 「地震調査研究推進本部」の活動内容の認知度

24) 今後、政府（国）が積極的に取り組むべき地震研究の課題

・ 今後、政府（国）が積極的に取り組むべき地震研究の課題として、「国民に地震に関連する情報をわかりやすく提供すること」65.2%が最も多く、「緊急地震速報迅速化のための技術開発」51.3%、「津波襲来予測の技術開発」36.1%等よりも、地震調査研究の成果をわかりやすく提供することが求められていた。

<上位第5位まで>

1. 国民に地震に関連する情報をわかりやすく提供すること：65%
2. 緊急地震速報をさらに迅速にするための技術開発を行うこと：51%
3. 津波の襲来について迅速・正確に予測できる技術開発を行うこと：36%
4. 地震の発生メカニズムを把握するための調査を充実すること：26%
5. 活断層についてもっと詳しく調べること：26%



問 2 4 今後、政府（国）が積極的に取り組むべき地震調査研究

資料 1 : 調査地点及び問 12 で使用した震源断層を特定した地震動予測地図 (北海道～千葉県)

No.	都道府県	地点名	都市規模	震源断層を特定した地震動予測地図
1	北海道	札幌市中央区南14条西13丁目	1	当別断層(ほぼ 0%~2%)
2		札幌市東区東苗穂14条2丁目	1	
3		札幌市南区簾舞4条3丁目	1	
4		函館市青柳町	2	函館平野西縁断層帯(ほぼ 0%~1%)
5		旭川市東光15条7丁目	2	増毛山地東縁断層帯・沼田一砂川付近の断層帯(沼田一砂川不明)
6		北見市美芳町6丁目	3	標津断層帯(不明)
7		江別市東野幌本町	3	当別断層(ほぼ 0%~2%)
8		石狩市花川北4条5丁目	4	
9		斜里町三井	5	標津断層帯(不明)
10	青森県	八戸市諏訪町丁目	2	折爪断層(不明)
11		野辺地町野辺地	5	青森湾西岸断層帯(0.5%~1%)
12	岩手県	盛岡市永井	2	北上低地西縁断層帯(ほぼ 0%)
13		奥州市水沢区台町(原中)	3	
14	宮城県	仙台市宮城野区岩切1丁目	1	長町-利府線断層帯(1%以下)
15		仙台市泉区将監9丁目	1	
16		多賀城市高橋3丁目	4	
17		亘理町吉田大塚	5	
18	秋田県	秋田市土崎港北4丁目	2	北由利断層(2%以下)
19		大仙市大曲町	4	横手盆地東縁断層帯(北部ほぼ 0%)
20	山形県	鶴岡市美原町	3	庄内平野東縁断層帯(北部ほぼ 0%)
21		河北町谷地	5	山形盆地断層帯(南部 1%)
22		福島市笹木野	2	福島盆地西縁断層帯(ほぼ 0%)
23	福島県	いわき市泉玉露1丁目	2	関谷断層(ほぼ 0%)
24		本宮市白岩馬場	4	福島盆地西縁断層帯(ほぼ 0%)
25		水戸市平須	2	関谷断層(ほぼ 0%)
26	茨城県	古河市北間中橋	3	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
27		取手市米ノ井	3	
28		潮来市清水	4	
29		行方市芹沢	4	
30	栃木県	宇都宮市五代1丁目	2	関谷断層(ほぼ 0%)
31		日光市栗原	4	
32		益子町益子	5	
33	群馬県	高崎市正観寺町	2	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
34		太田市原宿町	2	
35		昭和村川額	5	
36	埼玉県	さいたま市西区飯田新田	1	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
37		さいたま市桜区西掘3丁目	1	
38		川越市六軒町1丁目	2	
39		川口市上青木西5丁目	2	
40		所沢市山口	2	立川断層帯(0.5%~2%)
41		春日部市備後東8丁目	2	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
42		上尾市谷津1丁目	2	
43		越谷市南町3丁目	2	
44		和光市白子2丁目	4	立川断層帯(0.5%~2%)
45		富士見市渡戸3丁目	3	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
46		ふじみ野市福岡中央2丁目	3	
47	千葉県	千葉市稲毛区作草部町	1	三浦半島断層群(主部:衣笠・北武ほぼ 0%~3%)
48		市川市平田3丁目	2	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
49		船橋市坪井東2丁目	2	
50		松戸市三矢小台1丁目	2	鴨川低地断層帯(不明)
51		茂原市東茂原	4	
52		習志野市花咲2丁目	3	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
53		市原市姉崎	2	三浦半島断層群(主部:衣笠・北武ほぼ 0%~3%)
54		我孫子市布佐平和台7丁目	3	関東平野北西縁断層帯(主部ほぼ 0%~0.008%)
55		八街市文違	4	鴨川低地断層帯(不明)
56		大網白里町柳橋	5	

資料 1 : 調査地点及び問 12 で使用した震源断層を特定した地震動予測地図 (東京都～福井県)

No.	都道府県	地点名	都市規模	震源断層を特定した地震動予測地図	
57	東京都	中央区佃2丁目	1	立川断層帯 (0.5%~2%)	
58		文京区千石4丁目	1		
59		江東区富岡2丁目	1		
60		品川区西大井6丁目	1		
61		大田区中央7丁目	1		
62		世田谷区鎌田2丁目	1		
63		世田谷区深沢8丁目	1		
64		中野区白鷺3丁目	1		
65		豊島区西巢鴨1丁目	1		
66		荒川区荒川6丁目	1		
67		板橋区高島平2丁目	1		
68		練馬区東大泉1丁目	1		
69		足立区西綾瀬3丁目	1		関東平野北西縁断層帯 (主部ほぼ 0%~0.008%)
70		葛飾区西水元4丁目	1		
71		江戸川区西葛西4丁目	1		立川断層帯 (0.5%~2%)
72		立川市富士見町4丁目	3		
73		青梅市二俣尾2丁目	3		
74		町田市森野6丁目	2		
75		小平市仲町	3		
76	福生市大字福生	4			
77	稲城市矢野口	4			
78	神奈川県	横浜市神奈川区白幡上町	1	三浦半島断層群 (主部:衣笠・北武ほぼ 0%~3%)	
79		横浜市保土ヶ谷区初音ヶ丘	1		
80		横浜市港北区大曽根3丁目	1		
81		横浜市港南区上永谷5丁目	1		
82		横浜市栄区梶が谷1丁目	1		
83		横浜市都筑区勝田南2丁目	1	伊勢原断層 (ほぼ 0%~0.003%)	
84		川崎市中原区下小田中5丁目	1		
85		川崎市宮前区犬蔵2丁目	1		
86		相模原市緑区大島	1	三浦半島断層群 (主部:衣笠・北武ほぼ 0%~3%)	
87		横須賀市野比1丁目	2		
88		藤沢市弥勒寺1丁目	2		
89		茅ヶ崎市小和田2丁目	2	伊勢原断層 (ほぼ 0%~0.003%)	
90		大和市草柳1丁目	2	三浦半島断層群 (主部:衣笠・北武ほぼ 0%~3%)	
91	葉山町下山口	5			
92	新潟県	新潟市中央区四ツ屋町3丁目	1	長岡平野西縁断層帯 (2%以下)	
93		長岡市寿2丁目	2		
94		十日町市四日町新田	4		十日町断層帯 (西部 3%以上)
95		阿賀野市外城町	4		月岡断層帯 (ほぼ 0%~1%)
96	富山県	富山市水橋町水橋新大町	2	砺波平野・呉羽山断層帯 (呉羽山ほぼ 0%~5%)	
97		小矢部市埴生	4		
98	石川県	金沢市天神町1丁目	2	森本・富樫断層帯 (ほぼ 0%~5%)	
99		小松市矢田町	3	福井平野東縁断層帯 (主部ほぼ 0%~0.07%)	
100	福井県	永平寺町松岡葵1丁目	5	福井平野東縁断層帯 (主部ほぼ 0%~0.07%)	

資料 1 : 調査地点及び問 12 で使用した震源断層を特定した地震動予測地図 (山梨県～大阪府)

No.	都道府県	地点名	都市規模	震源断層を特定した地震動予測地図	
101	山梨県	笛吹市春日居町国府	4	曾根丘陵断層帯(1%)	
102	長野県	長野市稲里町中央3丁目	2	信濃川(長野盆地西縁)断層帯(ほぼ 0%)	
103		小諸市山浦(御牧ヶ原)	4	糸魚川-静岡構造線断層系(牛伏寺断層を含む区間 14%)	
104		下諏訪町新町下	5		
105	岐阜県	岐阜市西川手2丁目	2	濃尾断層帯(主部:梅原)ほぼ 0%	
106		羽島市上中町中	4	養老-桑名-四日市断層帯(ほぼ 0%~0.7%)	
107		海津市海津町福江	4		
108	静岡県	静岡市駿河区敷地1丁目	1	北伊豆断層帯(ほぼ 0%)	
109		浜松市東区大瀬町	1	伊那谷断層帯(主部)ほぼ 0%	
110		沼津市足高	2	北伊豆断層帯(ほぼ 0%)	
111		富士市広見町6丁目	2	伊那谷断層帯(主部)ほぼ 0%	
112		掛川市西大淵	3		
113		牧之原市相良	4	北伊豆断層帯(ほぼ 0%)	
114	愛知県	名古屋市北区大杉3丁目	1	屏風山・恵那山及び猿投山北断層帯(猿投-高浜)ほぼ 0%	
115		名古屋市瑞穂区田辺通6丁目	1		
116		名古屋市守山区西川原町	1		
117		豊橋市曙町	2		
118		岡崎市井内町	2		
119		半田市宮本町6丁目	3		
120		刈谷市御幸町7丁目	3		
121		安城市福釜町	3		
122		稲沢市正明寺2丁目	3		養老-桑名-四日市断層帯(ほぼ 0%~0.7%)
123		豊明市新田町	4		屏風山・恵那山及び猿投山北断層帯(猿投-高浜)ほぼ 0%
124	長久手町武蔵塚	5			
125	三重県	四日市市あさけが丘3丁目	2	養老-桑名-四日市断層帯(ほぼ 0%~0.7%)	
126		鈴鹿市野町西3丁目	3	布引山地東縁断層帯(東部 0.001%)	
127		多気町土羽	5		
128	滋賀県	草津市追分町	3	琵琶湖西岸断層帯(南部)ほぼ 0%	
129		愛荘町大字愛知川	5	鈴鹿西縁断層帯(0.08%~0.2%)	
130	京都府	京都市左京区岩倉長谷町	1	三方・花折断層帯(花折:中南部)ほぼ 0%~0.6%	
131		京都市伏見区竹田向代町(川町)	1		
132		福知山市東平野	4	三峠・京都西山断層帯(三峠 0.4%~0.6%)	
133		長岡京市野添1丁目	4	三峠・京都西山断層帯(京都西山)ほぼ 0%~0.8%	
134	大阪府	大阪市大正区千島1丁目	1	上町断層帯(2%~3%)	
135		大阪市旭区中宮4丁目	1		
136		大阪市東住吉区住道矢田9丁目	1		
137		大阪市平野区瓜破東2丁目	1		
138		堺市東区日置荘西町5丁目	1		
139		岸和田市大町	2		
140		吹田市上山田	2	有馬-高槻断層帯(ほぼ 0%~0.03%)	
141		高槻市東五百住町2丁目	2		
142		枚方市南楠葉1丁目	2	生駒断層帯(ほぼ 0%~0.1%)	
143		八尾市若林町3丁目	2	上町断層帯(2%~3%)	
144		松原市上田4丁目	3		
145		羽曳野市古市	3		生駒断層帯(ほぼ 0%~0.1%)
146		東大阪市金岡3丁目	2		
147			阪南市和泉鳥取	4	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)ほぼ 0%~5%)

資料 1 : 調査地点及び問 12 で使用した震源断層を特定した地震動予測地図 (兵庫県～沖縄県)

No.	都道府県	地点名	都市規模	震源断層を特定した地震動予測地図
148	兵庫県	神戸市東灘区岡本3丁目	1	六甲・淡路島断層帯(主部:六甲山地南縁-淡路島東岸区間ほぼ0%~1%)
149		神戸市須磨区若草町3丁目	1	
150		神戸市西区秋葉台1丁目	1	有馬-高槻断層帯(ほぼ0%~0.03%)
151		姫路市飾磨区阿成植木	2	山崎断層帯(主部:南東部0.03%~5%)
152		尼崎市食満2丁目	2	六甲・淡路島断層帯(主部:六甲山地南縁-淡路島東岸区間ほぼ0%~1%)
153		西宮市深津町	2	
154		加古川市加古川町稲尾	2	山崎断層帯(主部:南東部0.03%~5%)
155		三木市志染町東自由が丘3丁目	4	
156		丹波市春日町朝日	4	
157	奈良県	奈良市南紀寺町5丁目	2	京都盆地-奈良盆地断層帯南部(奈良盆地東縁断層帯)(ほぼ0%~5%)
158		桜井市外山	4	
159	和歌山県	和歌山市善明寺	2	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁ほぼ0%~5%)
160		湯浅町湯浅	5	
161	鳥取県	大山町国信大山口	5	山崎断層帯(那岐山0.07%~0.1%)
162	島根県	松江市上東川津町	3	山崎断層帯(那岐山0.07%~0.1%)
163	岡山県	岡山市北区加茂	1	山崎断層帯(那岐山0.07%~0.1%)
164		倉敷市西阿知町	2	長尾断層帯(ほぼ0%)
165		高梁市落合町阿部	4	山崎断層帯(那岐山0.07%~0.1%)
166		広島県	広島市西区庚午中1丁目	1
167	広島市佐伯区河内南1丁目		1	
168	福山市東川口町2丁目		2	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部ほぼ0%~0.3%)
169		廿日市市津田	3	五日市断層(五日市不明)
170	山口県	下関市幡生町2丁目	2	菊川断層帯(不明)
171		防府市浜方	3	宇部冲断層群(周防灘断層群)(主部2%~4%)
172	徳島県	吉野川市鴨島町鴨島	4	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部ほぼ0%~0.3%)
173	香川県	高松市牟礼町牟礼	2	長尾断層帯(ほぼ0%)
174		宇多津町	5	
175	愛媛県	松山市北土居4丁目	2	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部-伊予灘ほぼ0%~0.3%)
176		四国中央市中之庄町	4	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部ほぼ0%~0.3%)
177	高知県	南国市大涌(おおそね)	4	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁ほぼ0%~0.3%)
178	福岡県	北九州市小倉北区足原2丁目	1	西山断層帯(不明)
179		北九州市八幡西区本城東1丁目	1	
180		福岡市中央区平尾1丁目	1	警固断層帯(南東部0.3%~6%)
181		福岡市城南区七隈5丁目	1	
182		久留米市津福今町	2	水縄断層帯(ほぼ0%)
183		中間市扇ヶ浦3丁目	4	西山断層帯(不明)
184		福津市東福岡8丁目	4	
185		水巻町美吉野	5	
186	佐賀県	唐津市和多田用尺	3	警固断層帯(北西部不明)
187	長崎県	長崎市油木町	2	雲仙断層群(南西部:北部ほぼ0%~4%)
188		西海市西彼町小迎郷	4	
189	熊本県	熊本市清水万石1丁目	2	布田川・日奈久断層帯(北東部ほぼ0%)
190		荒尾市下井手	4	雲仙断層群(南東部不明)
191		大津町杉水	5	布田川・日奈久断層帯(北東部ほぼ0%)
192	大分県	大分市岩田町4丁目	2	別府-万年山断層帯(大分平野-由布院:東部0.03%~4%)
193		佐伯市東町	4	
194	宮崎県	宮崎市清武今泉(甲)	2	人吉盆地南縁断層(1%以下)
195		三股町樺山	5	
196	鹿児島県	鹿児島市上福元町	2	出水断層帯(ほぼ0%~1%)
197		薩摩川内市宮崎町	3	
198		始良市西始良2丁目	4	
199	沖縄県	那覇市上間	2	宮古島断層帯(不明)
200		沖縄市高原7丁目	3	

資料2：各都道府県ごとに質問した活断層及び海溝型地震一覧（問14）

都道府県	直近の活断層	海溝型地震
北海道	黒松内低地断層帯で地震(M7.3 程度以上) 確率は2%~5%以下	根室沖地震(M7.9 程度) 確率は40%程度
青森県	青森湾西岸断層帯で地震(M7.3 程度) 確率は0.5%~1%	三陸沖北部地震(M7.1~7.6) 確率は90%程度
岩手県	花輪東断層帯で地震(M7.0 程度) 確率は0.6~1%	
宮城県	長町-利府線断層帯で地震(M7.0~7.5 程度) 確率は1%以下	
秋田県	庄内平野東縁断層帯南部で地震(M6.9 程度) 確率はほぼ0%~6%	
山形県	山形盆地断層帯北部で地震(M7.3 程度) 確率は0.003%~8%	
福島県	会津盆地西縁・東縁断層帯で地震(M7.7 程度) 確率はほぼ0%~0.02%	福島県沖地震(M7.4 前後) 確率は7%程度以下
茨城県	関東平野北西縁断層帯(主部)で地震(M8.0 程度) 確率はほぼ0%~0.008%	茨城県沖地震(M6.7~7.2) 確率は90%程度以上
栃木県	関谷断層帯で地震(M7.5 程度) 確率はほぼ0%	
群馬県	関東平野北西縁断層帯(主部)で地震(M8.0 程度) 確率はほぼ0%~0.008%	
埼玉県	立川断層帯で地震(M7.4 程度) 確率は0.5%~2%	
千葉県	三浦半島断層群(主部:武山断層帯)で地震(M6.6 程度またはそれ以上) 確率は6%~11%	
東京都	立川断層帯で地震(M7.4 程度) 確率は0.5%~2%	
神奈川県	神縄・国府津-松田断層帯で地震(M7.5 程度) 確率は0.2%~16%	
新潟県	高田平野断層帯(東縁)で地震(M7.2 程度) 確率はほぼ0%~8%	
富山県	砺波平野断層帯・呉羽山断層帯(砺波東部)で地震(M7.0 程度) 確率は0.04%~6%	
石川県	砺波平野断層帯・呉羽山断層帯(砺波東部)で地震(M7.0 程度) 確率は0.04%~6%	
福井県	琵琶湖西岸断層帯(北部)で地震(M7.1 程度) 確率は1%~3%	
山梨県	糸魚川-静岡構造線活断層系(北部・中部)で地震(M8 程度) 確率は14%	
長野県	糸魚川-静岡構造線活断層系(北部・中部)で地震(M8 程度) 確率は14%	
岐阜県	境峠・神谷断層帯で地震(M7.6 程度) 確率は0.02%~13%	
静岡県	神縄・国府津-松田断層帯で地震(M7.5 程度) 確率は0.2%~16%	
愛知県	屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯(恵那山-猿投山北)で 地震(M7.7 程度) 確率はほぼ0%~2%	
三重県	布引山地東縁断層帯(西部)で地震(M7.4 程度) 確率はほぼ0%~1%	
滋賀県	琵琶湖西岸断層帯北部で地震(M7.1 程度) 確率は1%~3%	
京都府	京都盆地-奈良盆地断層帯南部(奈良盆地東縁断層帯)で地震(M 7.4 程度) 確率はほぼ0%~5%	
大阪府	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)で地震(M8.0 程度) 確率はほぼ0%~5%	
兵庫県	山崎断層帯(南東部)で地震(M7.3 程度) 確率は0.03%~5%	
奈良県	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)で地震(M8.0 程度) 確率はほぼ0%~5%	
和歌山県	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)で地震(M8.0 程度) 確率はほぼ0%~5%	
鳥取県	山崎断層帯(那岐山断層帯)で地震(M7.3 程度) 確率は0.07%~0.1%	
島根県	山崎断層帯(那岐山断層帯)で地震(M7.3 程度) 確率は0.07%~0.1%	
岡山県	山崎断層帯(北西部)で地震(M7.7 程度) 確率は0.09%~1%	
広島県	安芸灘断層群(主部)で地震(M7.0 程度) 確率は0.1%~10%	安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震 (M6.7~7.4) 確率は40%程度
山口県	安芸灘断層群(主部)で地震(M7.0 程度) 確率は0.1%~10%	安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震 (M6.7~7.4) 確率は40%程度

都道府県	直近の活断層	海溝型地震
徳島県	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部)で地震(M8.0 程度またはそれ以上) 確率はほぼ 0%~0.3%	
香川県	中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部)で地震(M8.0 程度またはそれ以上) 確率はほぼ 0%~0.3%	
愛媛県	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部-伊予灘)で地震(M8.0 程度またはそれ以上) 確率はほぼ 0%~0.3%	安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震 (M6.7~7.4) 確率は 40%程度
高知県	中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁)で地震(M7.3~8.0 程度) 確率はほぼ 0%~0.3%	
福岡県	警固断層帯(南東部)で地震(M7.2 程度) 確率は 0.3%~6%	安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震 (M6.7~7.4) 確率は 40%程度
佐賀県	水縄断層帯で地震(M7.2 程度) 確率はほぼ 0%	
長崎県	雲仙断層群(南西部:北部)で地震(M7.3 程度) 確率はほぼ 0%~4%	
熊本県	布田川・日奈久断層帯(中部)で地震(M7.6 程度) 確率はほぼ 0%~6%	
大分県	別府-万年山断層帯(大分平野-由布院:西部)で地震(M6.7 程度) 確率は 2%~4%	安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震 (M6.7~7.4) 確率は 40%程度
宮崎県	人吉盆地南縁断層で地震(M7.1 程度) 確率は 1%以下	日向灘のプレート間地震(M7.6 前後) 確率は 10%程度
鹿児島県	出水断層帯で地震(M7.0 程度) 確率はほぼ 0%~1%	日向灘のプレート間地震(M7.6 前後) 確率は 10%程度
沖縄県	宮古島断層帯(中部)の地震(M7.2 程度) 確率は不明	

資料3 回答者の属性

- ・男女同数で、各1,000名ずつを抽出した。
 - ・年代は、16～19歳までの10代が5.9%であり、人口比に応じて抽出したことから、20歳代から70歳代までが各10%代となっている。女性の方が、60歳代、70歳代の回答者が若干多くなっている。
 - ・職業で最も多いのが専業主婦17.2%で、パートの主婦7.5%を足すと24.7%が主婦である。次いで多いのが無職・年金生活者14.5%、専門・技術職10.4%、販売・サービス・保安職9.9%であった。
 - ・学歴は、16歳以上としたこともあり、高校（卒・在学中）が約半数と最も多く、大学（卒・在学中）21.4%、短大・高専（卒・在学中）14.9%、中学校卒9.5%だった。
 - ・同居家族は、2人世帯（20.7%）、3人世帯（24.1%）、4人世帯（25.9%）が各20%代であり、5人世帯が13.5%、6人以上世帯も8.5%おり、独居世帯は7.3%と少ない。これは、独居世帯が約3割と最も多い国勢調査の結果と異なっている。
 - ・居住年数は、30年以上が35.8%と多く、20年～30年居住者17.6%を加えると半数以上となり、長期の定住者が多い。
 - ・自宅は、一戸建ての持ち家居住者が73.7%と約3/4を占め、賃貸住宅居住者が21.1%である。平成7年以降に建築されたものが35.2%と多く、昭和57年～平成6年建築が27.1%で、耐震基準を満たしていると思われる建物の居住者が62.3%となっている。
 - ・大きな自然災害（地震や風水害、火山噴火等）で被害を受けたことがある人は25.9%で、4人に1人が災害経験者ということになる。地震災害の被害者が15.9%、洪水等の風水害が11.9%である。
 - ・現在すでに防災リーダーとして活動している人は、わずか1.6%に過ぎず、今後活動意向を持っている人についても7.4%とわずかだった。
- *同居者が多く、長期の定住者が多いことなどは、エリアサンプリングによる調査方法によって捕捉された回答者の特性とみられる。

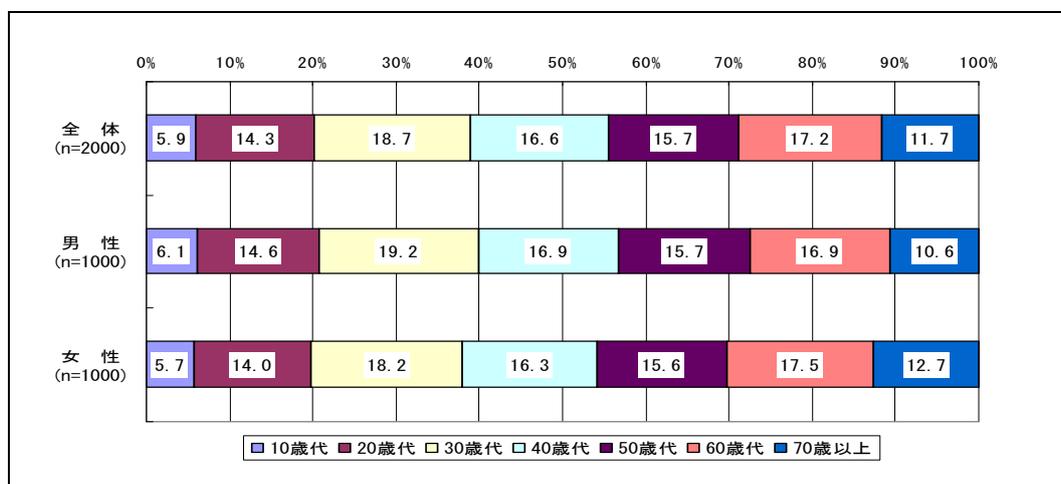


図1 調査対象者の性別と年代

表1 回答者の職業(n=2000)

1. 農林漁業職	27(1.4)
2. 自営業	203(10.2)
3. 経営管理職	31(1.6)
4. 専門・技術職	208(10.4)
5. 事務職	175(8.8)
6. 生産・輸送・建設・労務職	160(8.0)
7. 販売・サービス・保安職	198(9.9)
8. 自由業	18(0.9)
9. 専業主婦	343(17.2)
10. パートの主婦	150(7.5)
11. 家族従事者	32(1.6)
12. 学生・生徒	154(7.7)
13. 無職・年金生活者	290(14.5)
14. その他	9(0.5)
無回答	2(0.1)

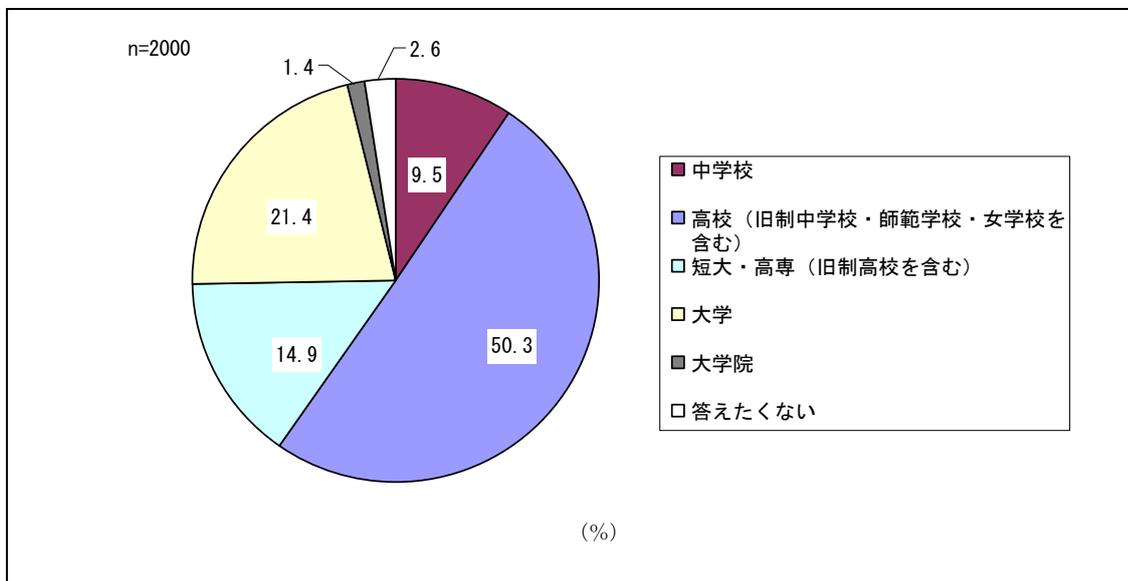


図2 回答者の最終学歴

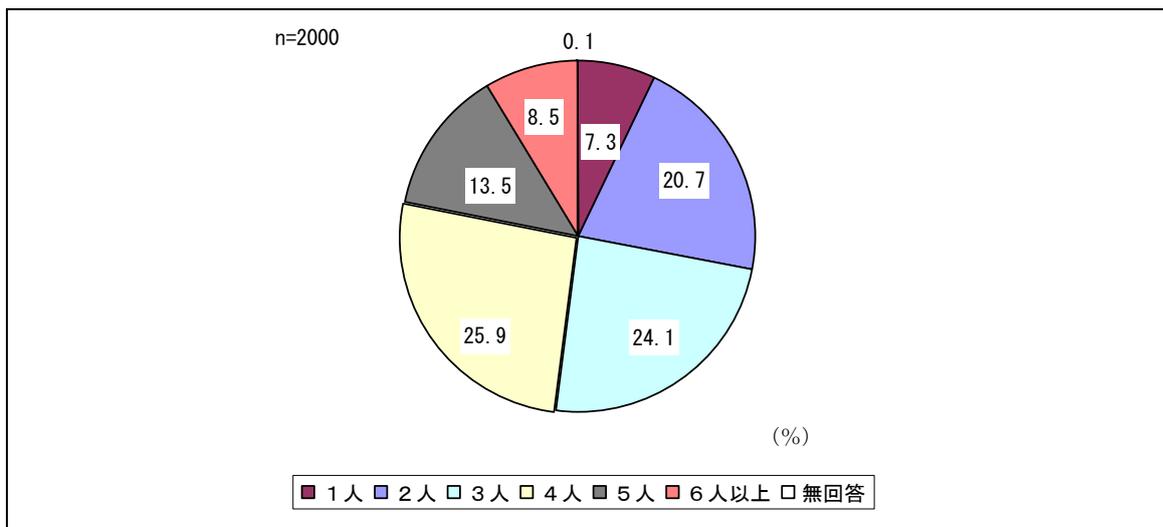
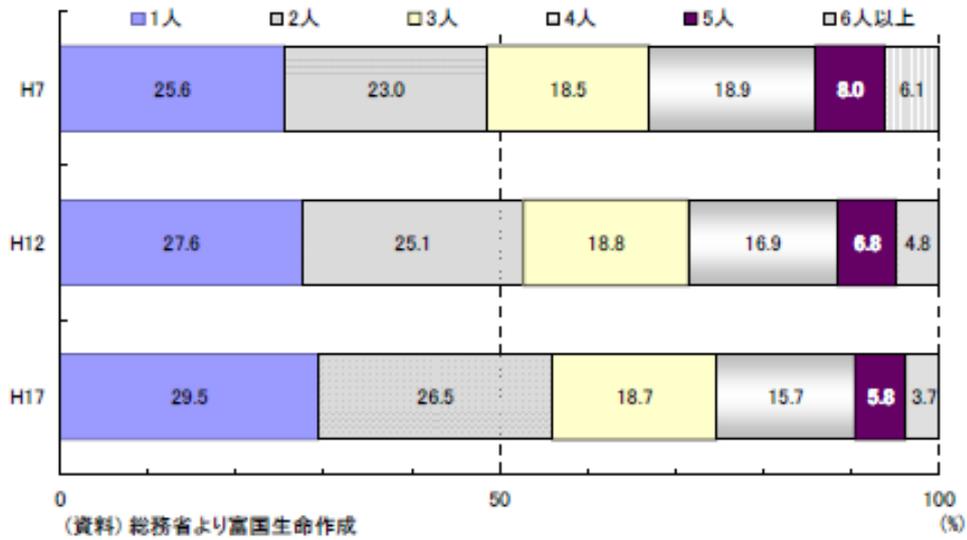


図3 回答者の同居家族人数



(参考) 国勢調査にみる一般世帯の世帯人員別割合の推移

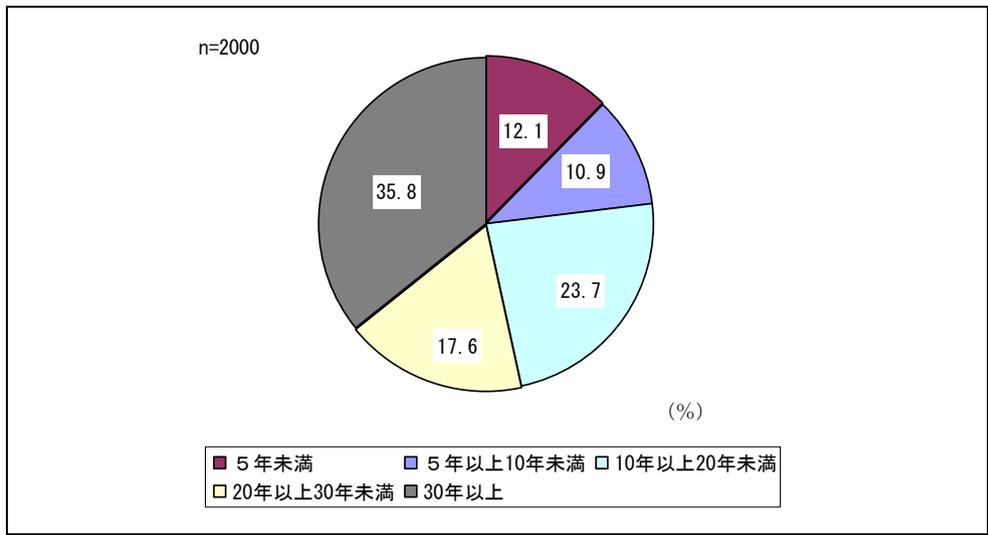


図4 回答者の居住年数

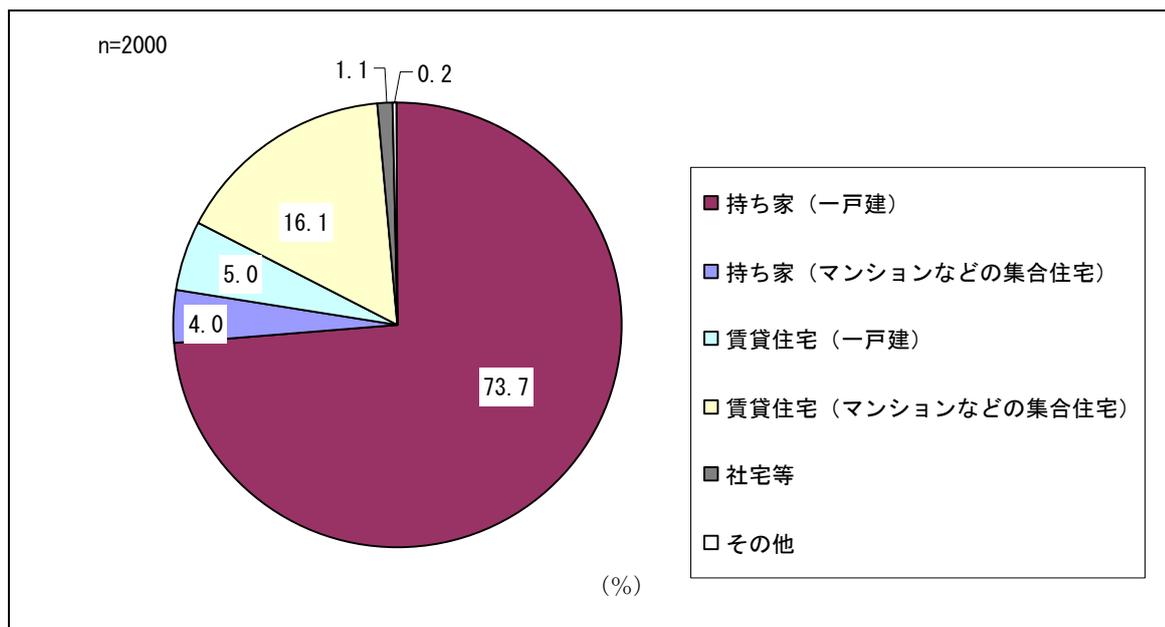


図5 住宅の所有形態

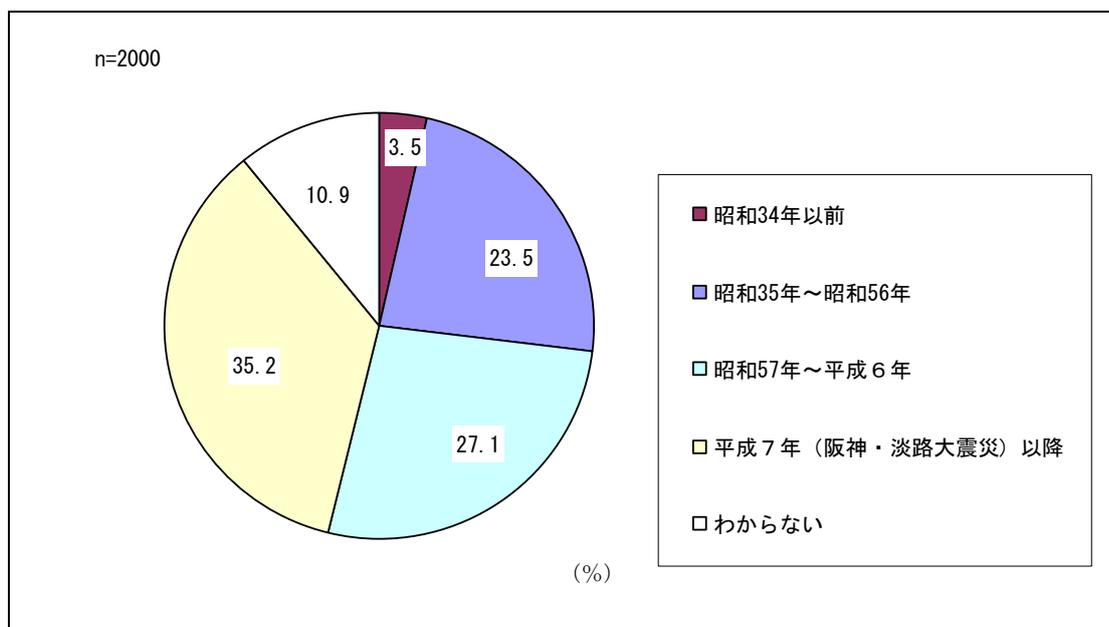


図6 自宅の建築年

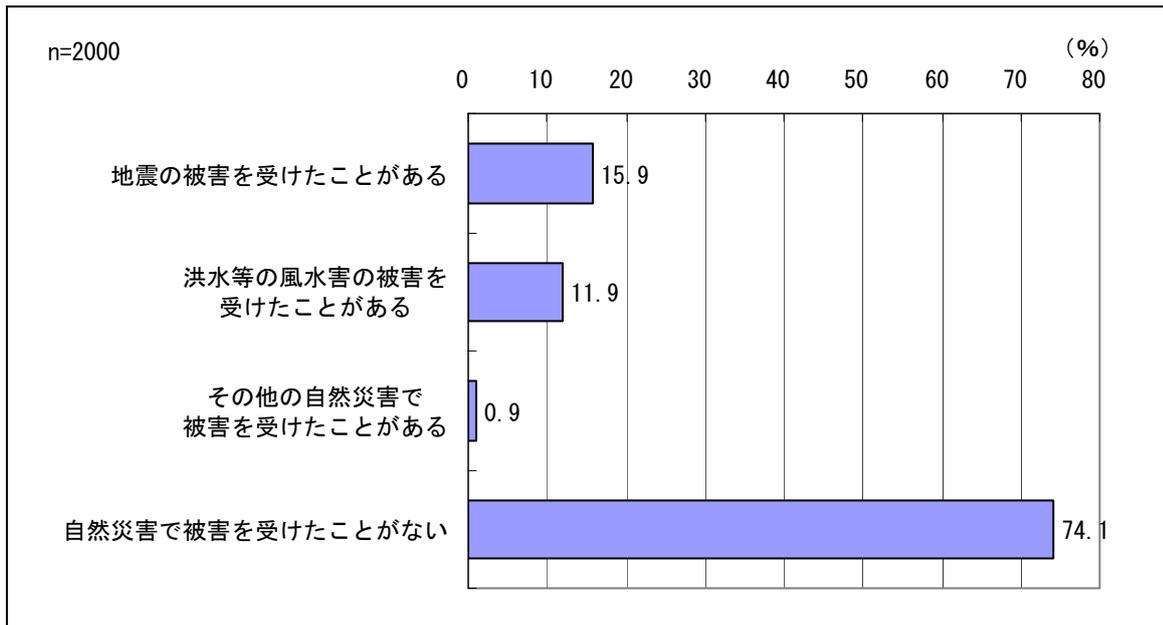


図7 自然災害の被災経験 (M. A.)

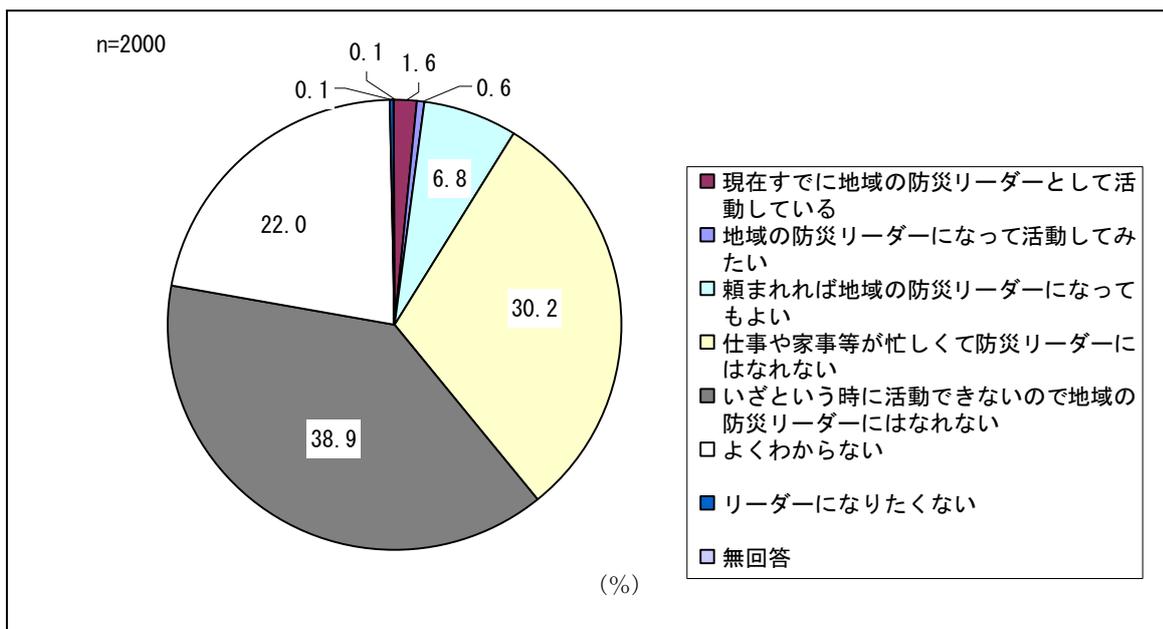


図8 防災リーダーとしての活動意向

表2 都道府県別にみた調査対象者の性別と年代

	調査数	男性	女性	調査数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳上
全体	2000 100.0	1000 50.0	1000 50.0	2000 100.0	118 5.9	286 14.3	374 18.7	332 16.6	313 15.7	344 17.2	233 11.7
北海道	90 100.0	45 50.0	45 50.0	90 100.0	5 5.6	12 13.3	15 16.7	16 17.8	15 16.7	16 17.8	11 12.2
青森県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	1 5.0	3 15.0	4 20.0	3 15.0	3 15.0	4 20.0	2 10.0
岩手県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	- -	4 20.0	3 15.0	4 20.0	4 20.0	4 20.0	1 5.0
宮城県	40 100.0	20 50.0	20 50.0	40 100.0	4 10.0	4 10.0	7 17.5	6 15.0	7 17.5	6 15.0	6 15.0
秋田県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	1 5.0	3 15.0	3 15.0	3 15.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0
山形県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	2 10.0	2 10.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	4 20.0	2 10.0
福島県	30 100.0	15 50.0	15 50.0	30 100.0	2 6.7	4 13.3	5 16.7	4 13.3	6 20	4 13.3	5 16.7
茨城県	50 100.0	25 50.0	25 50.0	50 100.0	2 4.0	8 16.0	10 20.0	8 16.0	7 14.0	9 18.0	6 12.0
栃木県	30 100.0	15 50.0	15 50.0	30 100.0	2 6.7	4 13.3	5 16.7	5 16.7	5 16.7	5 16.7	4 13.3
群馬県	30 100.0	15 50.0	15 50.0	30 100.0	2 6.7	4 13.3	6 20.0	5 16.7	4 13.3	6 20.0	3 10.0
埼玉県	110 100.0	55 50.0	55 50.0	110 100.0	4 3.6	18 16.4	21 19.1	17 15.5	17 15.5	20 18.2	13 11.8
千葉県	100 100.0	50 50.0	50 50.0	100 100.0	6 6.0	13 13.0	20 20.0	19 19.0	15 15.0	17 17.0	10 10.0
東京都	210 100.0	105 50.0	105 50.0	210 100.0	11 5.2	33 15.7	44 21.0	39 18.6	30 14.3	32 15.2	21 10.0
神奈川県	140 100.0	70 50.0	70 50.0	140 100.0	8 5.7	20 14.3	29 20.7	25 17.9	21 15.0	22 15.7	15 10.7
新潟県	40 100.0	20 50.0	20 50.0	40 100.0	2 5.0	6 15.0	6 15.0	6 15.0	7 17.5	8 20.0	5 12.5
富山県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	2 10.0	2 10.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	4 20.0	2 10.0
石川県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	2 10.0	2 10.0	3 15.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	3 15.0
福井県	10 100.0	5 50.0	5 50.0	10 100.0	- -	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0
山梨県	10 100.0	5 50.0	5 50.0	10 100.0	- -	2 20.0	2 20.0	2 20.0	- -	2 20.0	2 20.0
長野県	30 100.0	15 50.0	15 50.0	30 100.0	1 3.3	5 16.7	6 20	4 13.3	5 16.7	5 16.7	4 13.3
岐阜県	30 100.0	15 50.0	15 50.0	30 100.0	1 3.3	5 16.7	5 16.7	4 13.3	5 16.7	6 20.0	4 13.3
静岡県	60 100.0	30 50.0	30 50.0	60 100.0	4 6.7	8 13.3	11 18.3	11 18.3	9 15	10 16.7	7 11.7
愛知県	110 100.0	55 50.0	55 50.0	110 100.0	8 7.3	14 12.7	22 20	18 16.4	17 15.5	19 17.3	12 10.9
三重県	30 100.0	15 50.0	15 50.0	30 100.0	2 6.7	4 13.3	5 16.7	5 16.7	5 16.7	5 16.7	4 13.3
滋賀県	20 100.0	10 50.0	10 50.0	20 100.0	1 5.0	3 15.0	4 20.0	2 10.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0
京都府	40 100.0	20 50.0	20 50.0	40 100.0	2 5.0	6 15.0	8 20.0	7 17.5	4 10.0	8 20.0	5 12.5

大阪府	140	70	70	140	10	18	27	24	21	24	16
	100.0	50.0	50.0	100.0	7.1	12.9	19.3	17.1	15	17.1	11.4
兵庫県	90	45	45	90	5	13	15	16	14	16	11
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.6	14.4	16.7	17.8	15.6	17.8	12.2
奈良県	20	10	10	20	1	3	4	4	2	4	2
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	15.0	20.0	20.0	10.0	20.0	10.0
和歌山県	20	10	10	20	1	3	3	2	4	4	3
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	15.0	15.0	10.0	20.0	20.0	15.0
鳥取県	10	5	5	10	1	1	2	1	2	2	1
	100.0	50.0	50.0	100.0	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	20.0	10.0
島根県	10	5	5	10	1	1	2	2	2	1	1
	100.0	50.0	50.0	100.0	10.0	10.0	20.0	20.0	20.0	10.0	10.0
岡山県	30	15	15	30	1	5	6	3	5	6	4
	100.0	50.0	50.0	100.0	3.3	16.7	20.0	10.0	16.7	20.0	13.3
広島県	40	20	20	40	3	5	7	7	6	7	5
	100.0	50.0	50.0	100.0	7.5	12.5	17.5	17.5	15.0	17.5	12.5
山口県	20	10	10	20	1	4	2	3	3	4	3
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	20.0	10.0	15.0	15.0	20.0	15.0
徳島県	10	5	5	10	1	1	2	2	1	2	1
	100.0	50.0	50.0	100.0	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0	20.0	10.0
香川県	20	10	10	20	1	3	4	3	3	3	3
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	15.0	20.0	15.0	15.0	15.0	15.0
愛媛県	20	10	10	20	1	3	4	2	4	3	3
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	15.0	20.0	10.0	20.0	15.0	15.0
高知県	10	5	5	10	1	1	2	1	2	2	1
	100.0	50.0	50.0	100.0	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	20.0	10.0
福岡県	80	40	40	80	6	11	14	13	15	13	8
	100.0	50.0	50.0	100.0	7.5	13.8	17.5	16.3	18.8	16.3	10.0
佐賀県	10	5	5	10	-	2	2	1	1	2	2
	100.0	50.0	50.0	100.0	-	20.0	20.0	10.0	10.0	20.0	20.0
長崎県	20	10	10	20	2	2	4	4	3	3	2
	100.0	50.0	50.0	100.0	10.0	10.0	20.0	20.0	15.0	15.0	10.0
熊本県	30	15	15	30	2	5	4	5	6	4	4
	100.0	50.0	50.0	100.0	6.7	16.7	13.3	16.7	20.0	13.3	13.3
大分県	20	10	10	20	1	3	3	3	4	4	2
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	15.0	15.0	15.0	20.0	20.0	10.0
宮崎県	20	10	10	20	1	4	4	3	3	3	2
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	20.0	20.0	15.0	15.0	15.0	10.0
鹿児島県	30	15	15	30	2	4	6	4	5	5	4
	100.0	50.0	50.0	100.0	6.7	13.3	20.0	13.3	16.7	16.7	13.3
沖縄県	20	10	10	20	1	3	3	3	3	4	3
	100.0	50.0	50.0	100.0	5.0	15.0	15.0	15.0	15.0	20.0	15.0